

T-ACT



筑波大学
University of Tsukuba

つくばアクションプロジェクト

活動報告書

2013
APRIL



TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

目 次 -T-ACT 活動報告書-

はしがき

理数学生応援プロジェクトを利用したグループ研究のススメ (11044P)	1
北茨城学術ボランティア募集 (11045P)	3
アマクボ・カスガ平和にし隊 (後半)(11051A)	4
続・フェアトレードで児童労働をなくそう (11052A)	5
EXCHANGE ～海外体験～ (11053A)	7
留学生と一緒に情報誌作り Team 8 (11056A)	9
岸英光によるコーチング講座 ～コーチングのプロから学ぶコミュニケーションセンス～ (11058A)	11
アラビア語とイスラム文化に触れよう (11059A)	13
Good Job 2012～夢のお仕事体験場～ (11061A)	15
3R+1EcoCycle11-12 (11063A)	17
Table For Two in 筑波大学～ TFT をもっと知ってもらおう！～ (11064A)	19
一般学生団体の活性化に関する勉強会 (11065A)	20
筑波大学マイクロボランティア応援プロジェクト (11067A)	21
学び場さくら塾6th season (11073A).....	23
学園祭ライブ企画～バンドを呼ぼう～ 【第1弾】(11074A)	24
希死回生～自殺予防のための啓発活動～ No.1 (11075A).....	26
あなたの小説が読みたい！ 一第五回筑波学生文芸賞の作品及び一般選考委員の募集一 (11077A)	28
学園祭企画～ Taku Takahashi さんをお呼ぼう～ 【第1弾】(11078A)	30
プロレスで青春の無駄づかい！！～学生プロレスサークル誕生をめざして～ (11079A)	31
Astro Cafe 一宇宙を語る場所一 (11082A).....	32
教育実習シェア会 (11083A)	34
Tsukuba for 3.11 第三弾 (11084A).....	36
希死回生～自殺予防のための啓発活動～ No.2 (11085A).....	38
映画「それでも運命にイエスという。」上映会イベント (リターンズ)(12002A)	40
つくバグ2012～人と虫をつなぐ自然体験教室～ (12003A).....	42
Wall Art Festival in India 2012報告会 ～アートのかで、持続可能な新しい支援の形～ (12004A)	45
雙峰祭 学内研究企画エリア拡充プロジェクト (12005A)	47
EXCHANGE ～海外体験～第2弾 (12006A)	49

チャリティーコンサート (12009A)	51
筑波大学マイクロボランティア応援プロジェクト T-microACT II (12010A)	53
Omochi Language club (12011A)	55
東日本大震災の被災地とともに歩むボランティア活動 ～今後につなげる被災地支援～ (12012A)	57
カササギ KASASAGI ～東北とぼくらの架け橋を～ (12014A)	60
日本の難民問題への取り組みを通じた多文化共生社会の構築 (12015A)	62
ステキな大学職員と、お世話になりっぱなしの学生との懇親会第 2 回 (12019A).....	64
「エコステーション」活動に参加してみようⅡ ～多忙な人向け・所要時間 5 秒?～ (12020A).....	65
筑波学祭ライブ～バンドを呼ぼう～【第2弾】(12023A)	67
キャンドルナイト～電気を消して 一緒に 安らぎ 想う 時間～ (12024A).....	69
教育実習事後シェア会 (12027A)	70
希死回生～自殺予防のための啓発活動～ No.3 (12031A).....	72
The Sounds on Silence 2012ーささやきの聞こえるライブー (12032A)	74
「世界食料デー」月間イベント ～講演会～ (12033A).....	76
「世界食料デー」月間イベント ～三学食堂～ (12034A).....	78
7000万人が使うサービスを作った筑波大学の先輩 NHN Japan 社長森川亮さんによる講演 (12045A)	80
Radio Gymnastics. Let's work out! 「ラジオ体操」(12047P)	81
WorldFut TSUKUBA Autumn Festival (12049A)	82
ARE (先導的研究者体験プログラム) を継続させるための企画 (12053A)	83
Message for 生物資源～プレゼン懇親会～ (12057A)	84
「バレンタイン一揆」上映会×出演者によるトークセッション (12067A).....	86
Message form Astronaut ～星出宇宙飛行士をつくばへ～ (12068A)	91

編集後記

はしがき

「つくばアクションプロジェクト」(T-ACT)の『活動報告書(平成24年度)』をお届けします。本プロジェクトは、平成20年度に「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」に採択された筑波大学の取組みです。学生の自主性と社会性の育成を図るために、学生の主体的で多様な活動を大規模に創出させることを目標としています。

本プロジェクトがスタートしてから5年が経ちました。平成23年度末で学生支援GPの補助事業期間が終了となり、今年度からは筑波大学における人間力育成支援のための学内事業として再スタートしています。プロジェクトの継続・発展のためにご指導・ご尽力いただいた学内外の皆様、それから、活動を大いに盛り上げることにより、プロジェクトの高評価をもたらしてくれた学生および卒業生の皆さんにお礼を申し上げたいと思います。

T-ACTでは今年度から、ボランティア支援の活動を始めました。これは、学外から各種のボランティア情報を収集して、学生の皆さんに提示・紹介していくもので、T-ACTボランティアと名付けました。活動を自ら企画するという大きなエネルギーを要する作業とは別の、いわば既存(ready-made)の活動に参加して、学外の人とふれあい、様々な経験をつむことにより、社会貢献・地域貢献のはじめの一步を踏み出してほしいとの願いがあります。

T-ACTにおいて大学公認の活動として承認された企画は、この5年間で290件ほどにのぼりました。本報告書には、昨年度までの『活動報告書』に掲載された企画と現在実施中の企画を除き、50件の企画とその活動報告が掲載されています。

本年度も文字通り多種多様な活動が企画、実施されました。その中で目に付くのは、グローバル化の流れを受けてでしょうか、「留学」をキーワードにするものが多かったことです。留学体験をシェアしようという「EXCHANGE～海外体験～」第1弾・第2弾、留学生との交流を深めようとする「留学生と一緒に情報誌作り」、エジプトからの留学生に学ぼうという「アラビア語とイスラム文化に触れよう」、日英語だけでなく、中韓独仏露蘭西亜語などあらゆる言葉が飛び交う空間を志向する「Omochi Language Club」などです。また、学園祭を盛り上げようとする企画も目立ちました。「学園祭ライブ企画～バンドを呼ぼう」第1弾・第2弾、「学園祭企画～Taku Takahashiさんを呼ぼう～」、「雙峰祭 学内研究企画エリア拡充プロジェクト」などです。さらに、「教育実習シェア会」や「希死回生～自殺予防のための啓発活動」なども独自の視点から特徴的な活動を展開してくれました。いずれも、現在の筑波大学で足りない部分、もっと充実させたい部分を学生の目線で捉えて、企画してくれたものと理解しています。

本プロジェクトは、平成25年度からボランティア関連の機能を強化するなどさらなる充実を図りながら、展開していくこととなります。皆様のこれまで以上のご支援とご助力をお願い申し上げます。

平成25年3月

つくばアクションプロジェクト部会

部会長 加賀 信広

理数学生応援プロジェクトを利用したグループ研究のススメ (11044P)

T-ACT プランナー 川勝 望 (数理物質系)

活動内容

筑波大学「理数学生応援プロジェクト」では、理工農系1～3年生が早期に研究者実体験する機会を提供している。

これまで毎年約25名の参加があるが、大半が個人研究で、グループ研究は非常に少ない。この問題を打開するために、本企画を通して、グループ研究を行いたい学生を募集し、意欲ある学生がお互いに意見交換することで、研究チームの形成、および研究計画の立案を目指す。最終的には来年度の理数応援プロジェクトに応募を行い、研究活動を開始する。

活動計画

- 9月 ・メンバーを募集する。
 - ・参加学生が挑戦したい研究や興味について語り、研究チームを作る。
- 10月～1月 ・各研究チームで研究計画の立案を行う。
 - (先行研究の調査、準備研究等を実施)
 - ・毎月、進捗状況の報告を行う。
- 2月 ・各研究チームで、来年度の理数学生応援プロジェクトへ申請する研究計画書を作成する。

活動期間

平成23年9月1日～24年2月29日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：返町洋祐 (生物資源学類)、藏満司夢 (生物学類)、伊藤史紘 (生物学類)、小長谷達郎 (生物学類)
P：戸田さゆり

活動報告

活動成果

・活動内容

- 10月17日18:00～20:00 第1回会合 (顔合わせ)
- 11月9日18:00～21:00 第2回会合 (各自の興味を紹介)
- 12月7日18:15～20:00 第3回会合 (共同研究のテーマを考える)
- 1月28日13:00～17:00 松見池グループ研究 (松見池の調査)
- 2月16日18:20～20:00 第1回交流会 (話題紹介：藻類を使った石油生産)
- 3月1日18:20～21:00 第2回交流会 (話題紹介：昆虫はいかに季節を知るか)

・目標達成度

筑波大学「理数学生応援プロジェクト」では、理工農系1～3年生が早期に研究者実体験する機会を提供している。このプロジェクトを利用する学生は毎年25名程度であるが、その大部分が個人研究に限られている。しかし、筑波大学が規模の大きい総合大学であることを考えると、このプロジェクトを利用した各々の専門領域を超えた共同研究や学祭的な研究が行われることも十分に期待できる。そのため、専門分野を超えた共同研究がごくわずかしかないという現状はこの筑波大独自の取り組みを活かし切れていないといえる。そこで当プランでは、理数学生応援プロジェクトで研究活動を行っているか否かにとらわれず、研究意欲のある多くの学生が集まり、それぞれの研究紹介や意見交換を行う場を作ることを目的としてきた。また、その結果として学類や学群を超えた研究チームの形成、および研究計画の立案へとつながり、最終的には平成24年度の理数応援プロジェクトに応募して研究活動が開始されることを期待して活動を行ってきた。

この目標に対する達成度の評価だが、当報告書を作成している時点(3月13日)では共同研究として理数学生応援プロジェクトへの応募に至るような研究グループは形成されていない。そのため最終目標には達成できていないといえる。しかし、前述の活動内容に記載したように、学類を超えた学生が実際に集まってそれぞれの研究や興味について紹介しあったり議論しあったりする場を作ることはできており、今後共同研究が立ち上げられるための基盤を作ることはできた。また実際に共同研究に至らなくとも、普段はなかなか接する機会がない他学類の学生とともに「研究」というひとつのキーワードのもとに集い意見を交わせたことは、学問の多様化、学祭化が進む現代でそれぞれの学生が今後研究活動を行う際に重要な経験となるであろうと考えられる。したがって、研究意欲のある多くの学生が集まり、それぞれの研究紹介や意見交換を行う場を作るという第一段階の目標は達成できたと考えている。

現在は複数の学類の学生から構成されるグループが筑波大学内にある松見池や天久保池をフィールドに地形や植生、窒素循環といった面からその特徴や成り立ちを調べてみようという取り組みが行われており、このような取り組みが後々より学術的な共同研究へと発展する可能性を秘めている。

・得られた成果

学群・学類の垣根を越えた研究に関する情報交換や議論といった交流の機会を得られた。それによって他の分野の研究がいかなるものであるかを知ることができたと同時に、自分の分野の研究を他の分野の人にわかりやすく説明しようとする中で、現代の科学者に求められる説明責任能力を養うことができた。

このアクションでつくられた学術分野を超えた横のつながりというのはそれぞれの研究のヒントになる可能性を秘めており、また近い将来に限らず共同研究へと発展することが期待される。そういった点で、学類間を超えたパイプを作れたことが最大の成果である。

今後の課題

参加者が集まった初期段階で、これまでに研究をした経験がある人とそうで無い人の間に温度差が生じてしまった。研究経験のある学生が中心になって話を進めてしまったため、そうでない人にとっては入りにくい世界を作ってしまった可能性がある。この点については交流会での話題紹介の内容をより初歩的なレベルに設定して誰にでもわかりやすい内容にすることで対処したい。

また、結果的に集まった学生の学類が生物系に偏ってしまったことも今後の課題である。生物学は比較的バックグラウンドの知識が少なくても研究に取り組める学問であることも影響しているだろうが、どうせなら他分野の学生も同じくらい参加してほしいものである。そこで、生物系以外の学生に対する広報活動を積極的に行う必要がある。また、現在理数学生応援プロジェクトで研究を行っている生物系以外の学生を取り込むことで、より踏み込みやすい空間をつくりたいと考えている。

経験者からのメッセージ

たくさんの学生がいる筑波大学なので、T-ACTのネットワークを使えば目的や目標を共有できる仲間を見つけることができると思います。積極的な利用をお勧めします。

運営者側から見たパーティシパントの変化

初期においては各学問分野間で研究対象や内容、アプローチの方法などに違いがあることに驚き、研究に対するイメージの共有がなかなかできていなかったが、交流を重ねるごとにお互いの分野の特徴をつかめていった様子だった。最終的には他分野の研究所法の良い点を自分の分野に導入して活かすことをイメージし始めていたように感じる。

T-ACTに関する感想

- ・今後も T-ACT の支援を継続してほしい。
- ・学生に自主性をもたせる非常に良い取組だと思います。他大学にも参加者も交えた活動報告会等を開催すると、大学を跨いだ活動のきっかけになるのではないのでしょうか。

北茨城学術ボランティア募集 (11045P)

T-ACT プランナー 水上 勝義 (医学医療系)

活動内容

被災地北茨城は現在も大変な状況にあり、住民は心身の不調が生じやすい状態です。今回の企画は、筑波大学の学生の専門分野や得意分野を介して、北茨城市の児童や生徒と交流し、こどものこころの健康に貢献する試みです。専門分野に限らず、ゲームの腕前や趣味などこどもさんに披露できる得意分野でもかまいません。最近多少意欲や活力が低下している筑波大生の皆さんも、こどもさんとの交流を通して元気を回復できればと思います。皆さんお待ちしております。

活動計画

- 9月 ・活動開始
- ・メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- 9月～2月 ・ボランティア企画の準備と実施
- ・第1回は9月19日北茨城常北中学校で行う
- 3月 ・活動終了
- ・メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

活動期間

平成23年9月1日～24年3月1日

活動報告

活動成果

12月8日に北茨城市常北中学校で、また3月3日に北茨城市精華小学校にて筑波大学の学生、教員からなる7つのプログラムを実施した。12月18日には中学生77名、小学生の父兄18名が、3月3日は小学生と父兄58名が参加した。小学生や中学生の生徒さんたちは7つのうち2つのプログラムを選択し、それぞれ1時間ずつ参加した。いずれのプログラムに参加した生徒さんたちも笑顔に満ちて夢中で時間を過ごした。参加した小学生、中学生の生徒さんはもちろん、家族また学校の教職員の皆さんにも大変好評で今後の継続を求められた。

今後の課題

同じ小学生や中学生に対する継続的なボランティア活動で、小中学生のこころの支援にどの程度役だったかを評価したかったが、日程や小中学校側の行事の都合などがあり、それが難しかった。また小学生の目線で企画をたてることの難しさも感じた。これらは今後の課題といえる。12月18日と3月3日のプログラムは異なるプログラムを準備したため、その準備はかなり大変だった。

経験者からのメッセージ

児童や生徒を対象にした企画では、いかに小中学生の興味を引くかが大切。とくに体を動かすプログラムに対しては、子どもたちが夢中になるまでの時間が早かった。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

各自が意欲的に参加したが、実際に子どもたちが喜ぶ表情や仕草をみると、さらに充実感が感じられるようだ。次回も参加したいという気持ちが自然にわくようだ。

T-ACTに関する感想

非常によい組織だと思う。今後も学生と社会貢献の橋渡しをするようにがんばってほしい。



アマクボ・カスガ平和にし隊（後半）(11051A)

T-ACT プランナー 渡辺 伸子（人間総合科学研究科（博士後期課程）心理学専攻）

活動内容

大学周辺地域の治安改善。

●日々の防犯パトロール

週1回程度、暗くなってからみんなで歩いて見回り・声かけをしていきます。時間は19時前後です。毎週必ず参加しなくても大丈夫です。できるときに、できる限り参加してください。柔軟に運営していく予定です。

歩くのは体にいい！とか、友だちほしい！という理由での参加、大歓迎です！

参加資格は、天久保または春日に住んでいること！住んでなくても、自分は天久保または春日に貢献しなければならぬという熱い使命感のある方は参加OKです。

●参加資格

・筑波大生であること。学類生だけでなく、院生もウェルカム！（プランナー自身も、博士前期課程からつくばに来たので友だちがいません！わたしと友だちになりたい人もぜひ参加してください！）

*同時並行で、防犯ポスター作りも計画しています。絵心のある人、Mac 使える人、センスある人、ぜひご参加ください！

※当企画は、「平成23年度社会貢献プロジェクト（第1期）」として採択された「大学周辺地域の安全推進活動」の一部です。

活動期間

平成23年10月1日～24年3月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：張白告（人間総合科学研究科）、大竹真依（障害科学類）、市川玲子（人間総合科学研究科）、高濱明日香（障害科学類）

P：佐藤有耕先生（心理学系）、望月聡先生（心理学系）

活動報告

活動成果

・活動内容

10月6日 パトロール

10月14日 パトロール

12月2日 パトロール

2月24日 パトロール

・目標達成度

50%

月に1度以下のパトロール頻度になってしまったため。

・得られた成果

治安改善への貢献。

今後の課題

参加人数の確保が課題であった。

経験者からのメッセージ

twitterで人を募集しても、そのときは「行きます！」とか言ってくれるけど、だいたい来ない。

あと、リマインダーを流すのは有効だと思う。大学生はスケジュールの管理が甘い。とても甘い。

運営者側から見たパーティシパントの変化

防犯意識は高まったと思う。

T-ACT に関する感想

人集めを頑張ってもらいたい。

特に、「意識の高い学生」の発案する「意識の高いテーマ」以外も学生に受け入れられるよう、周知徹底および潜在的参加者の教育に取り組んでもらいたい。就職に有利なテーマばかりになっていないか、人を呼んで話を聞くタイプの活動ばかりになっていないか、今一度振り返っていただきたい。

T-ACTに参加する人はいくつも掛け持ちで参加するけど、しない人はぜんぜんしないしそもそも知らない、という状態では、本活動のような他とは雰囲気異なる活動が出てきた際、参加者の確保が難しい。

● 続・フェアトレードで児童労働をなくそう (11052A)

T-ACT プランナー 橋場 奈月 (社会・国際学群国際総合学類)

活動内容

グローバル化が進み、海外から多くの商品が日本に流入しているが、その商品の裏に劣悪な環境で働かされている子どもたちが多く存在していることはあまり知られていない。しかし、この児童労働問題の一因として、先進国による途上国産品の買い叩きがある。安さを求める私たち先進国民が、途上国の子どもたちを安い労働力として労働に追いやることに少なからず加担しているのである。

児童労働問題の解決には、途上国の努力に加え、先進国の消費者の協力が不可欠である。なぜなら、買い叩かれた安い商品への需要がある限り、コストダウンに有効な子どもの労働力への需要も無くならないからである。しかし、同じ先進国であっても、欧米諸国と比べ、日本において児童労働問題は一般に知られていない。この一因は、「知る」機会が乏しいからだと考えられる。

消費者意識の革新のために、「知る」機会を作り出す。途上国の産品を公平な価格で買い取ったフェアトレード商品を、国内卸売業者を通じて入手し、「つくばブランド」としてリパッケージし、児童労働問題に関する簡単な説明書きをつけて販売する。パッケージは、宣伝を兼ねて公募とした。販売に際し、この分野において活動する方を講師として招き、講演会を行ったり、販売イベントを行ったりする。また、児童労働問題に取り組んでいる NGO などへの支援として、販売価格に少額の寄付金を上乗せする。

ものがあることで、一般の人々が興味を持ちやすくなり、容易に児童労働問題の解決に貢献できる。フェアトレード商品を買うことで、途上国の労働者に適切な額の賃金が支払われるようになるため、家庭が子どもを労働へ送り出す必要性が低くなり、また安い労働力である子どもの労働への需要が減少しうからである。

本企画は、2011年4月～9月に実施した11003A「フェアトレードで児童労働をなくそう」企画の続編である。

活動計画

- 10月 ・学校祭での模擬店出店でフェアトレード商品を販売する
- 11月 ・フェアトレード商品を店頭においてもらえるように、大学周辺の店舗に交渉する
- 12月 ・店頭販売の試みの継続
 - ・フェアトレード商品、児童労働問題を広めるためのイベントの開催
- 1～2月 ・フェアトレード商品の販売継続
- 3月 ・売上金の NGO 団体への寄付
 - ・活動終了

活動期間

平成23年10月5日～24年3月23日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

〇：原田貴史（国際総合学類）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 5月以降、週に一回のミーティング（長期休みを除く）
- 5～6月 フェアトレード商品、寄付先の NGO の調査・選定・交渉
- 7～8月 フェアトレード商品のパッケージを募集、活動の PR
- 9～10月 学校祭、NPO のイベントでの販売の準備・実施

・目標達成度

かなり規模を縮小したかたちでの実施となってしまった。学外へのアプローチがほとんどできずに終わってしまった。原因としては、CYC という団体として本企画以外の企画も手掛けていたため本企画への注力が減ってしまったこと、期間後半においてはメンバーが多忙さを極め活動がストップしてしまったことが考えられる。

・得られた成果

イベントを通じて地域の子どもたちからパッケージがを募り、フェアトレード商品の輸入会社と交渉し、独自のフェアトレード紅茶を制作することができた。地域の NPO、学校祭で販売し、学生や地域の人々への児童労働問題の啓発を少なからず行うことができた。

今後の課題

地域へのより積極的なアプローチの必要性。学内のイベントもそうであるが、学外でのイベントは広報が命。どのような手段を用いれば効果的に広報でき、人を集めることができるかを考えさせられた。

食品を取り扱うことの難しさ。特に、地域の商店の店頭で販売ということになると、責任の所在などの問題が

あり、フェアトレード商品輸入会社との交渉がかなり困難であった。

経験者からのメッセージ

仕事を上手く触れることの大切さ。

メンバーを労働力とみなしこき使うのはもってのほかだが、ある程度仕事を任せることの必要性。その時、メンバー自身が工夫できる余地を残しておくことが、メンバーのやる気を引き出すうえでも重要。

運営者側から見たパーティシパントの変化

最初は、特に学外の人へのアプローチで、二の足を踏むこともあったが（私自身もそうであったが）、徐々に積極的にアプローチを行えるようになっていった。また、より積極的な提案も見られた。

T-ACT に関する感想

こんな私には十分すぎるほどのご支援をいただきました。

行き詰って、櫻村さんや半田さんに相談すると、必ず何かしらアドバイスをいただくことができました。お二人ともとても相談しやすい雰囲気を作り出してくださっていました!!

櫻村さんや半田さんの助けがなければ、できなかったこと、始まらなかったことも多いです。

T-ACT の設備に関しても、企画を実施していく上で大きな助けとなりました。

それなのに、こんな中途半端な段階での企画終了となってしまう、本当に申し訳ないです。多くのご支援、本当にありがとうございました。T-ACT で活動したことを通して、多くのことを学ぶことができました。

EXCHANGE ～海外体験～ (11053A)

T-ACT プランナー 加藤 遥平 (社会・国際学群国際総合学類)

活動内容

現在、筑波大学では、54カ国・地域の大学・機関と229協定が締結されており、研究者、学生交流を行っています。

特に学生交流を含む協定は203協定あり、全部で629人分あります。

しかし、その多くの協定枠が使われていない、その存在自体知られていないという状況にあります。大きな原因の一つは情報が公開されていないことにあります。

「知っていたら留学していたかも」

「気付いたら、遅かった」

という学生達の声に代表されるように交換留学に関する情報は、一般の学生からはアクセスしづらい状況にあります。また交換留学に限らず、学生が海外でチャレンジする方法（私費留学、ワーキングホリデー、インターンシップ、世界一周など）はいくらでもありますが、大学を介していないため、まとまった情報は多くありません。つまり、海外に行くことを志した所から、さらに一歩二歩積極的に動かなければ、情報を入手できない状況にあります（入手出来たとしても、それが適切ではないために問題が生じる場合もあります）。

また海外でチャレンジする手段を決め、準備を進めていく上でも様々な障壁があります。特に交換留学は手続きが複雑で時間がかかる反面、全てのプロセスを理解している人が少なく、情報も公開されていないため、多くの人が何らかの形で必要以上に苦労しています。

チャレンジを終えた後も、海外生活経験者には多くの困難が待っています。交換留学なら互換手続き、休学をした学生は復学手続きが必要となります。就活や進学の前準備も周りの学生と比べ、遅く始めたり短い時間で取り組んだりする必要が出てきます。

こういった問題に対処するには、情報のストックと共有が必要だと思えます。

そこで、浮かんだアイデアが、University of Tsukuba International Community (UTIC) というネットワークを作ることです。

このネットワークを通じて経験者の知識・情報をストックし、海外でチャレンジする学生を応援します。また経験者の共有を通じ、互いに学び刺激し合えるような、そんな環境を提供するのも UTIC の目的の一つです。

2012年3月までの半年を大きな区切りとし、以下の活動を実施していきたいと思えます。

- Facebook 上での情報の共有、交流イベントの開催
- 学期に1～2回の海外生活経験者報告会
- HP、ブログ、SNS を通じて上記の活動の広報

また以上の活動を通して、3月までに運営メンバーをかため、団体を組織化していくと同時に活動の幅を広げ、最終的には UTIC を一般学生団体にしていきたいと思えます。

活動計画

- 10月初め ・活動第1弾の企画準備。
- 10月13日 ・海外生活経験者報告会を実施。
- 11月～12月 ・2～4回目の報告会を予定。
(報告会の企画運営を通して、運営メンバーをかため、団体を組織化していく。)
- 12月末～1月初め ・活動を振り返り、報告書と今後の戦略を練る。
- 1月中旬 ・サークル認定に向けて、活動開始。

活動期間

平成23年10月5日～24年3月10日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：中本佳宏（生物資源学類）、中田智洋（心理学類）、荒川優（体育専門学群）、松原由佳（生物資源学類）、田翔吾（国際総合学類）、鎌田豪（比較文化学類）、西川真奈（国際総合学類）

P：吉武博通（ビジネス科学研究科・大学研究センター）

活動報告

活動成果

活動内容

【ミーティング】

- 毎週木曜日

【開催イベント・企画】

- 常時

Facebook のグループ上での情報交換

- 10月13日、12月15日

海外生活体験フェア

留学経験者 6 人のプレゼンと経験者との交流会

- 10月31日、11月 7 日、14 日、21 日、1 月30日、2 月10日、2 月13、2 月20日

ランチ会

お昼休みに留学、海外インターン、ボランティア、ワーキングホリデー、旅などに興味のある学生が集まって、交流。

- 2月22日

HOW TO 海外チャレンジ

留学、海外インターン、ボランティア、ワーキングホリデー、旅に興味のある学生であつまり、それぞれのメリット、デメリットを考えながら、計画を立てる。

- 3月

Team8と協力して、留学、海外インターン、ボランティア、ワーキングホリデー、旅の情報、経験談を載せた冊子を作成中。

・目標達成度

80%

希望していた活動を全て行う事はできなかったが、開催した活動一つ一つで成果を上げる事ができた。

・得られた成果

Facebook グループのメンバーが当初の50人から現在228人に増えた。

全てのイベントを通じて、のべ150人以上の方に参加してもらった。

今後の課題

運営メンバー集め

今後も続いていく体制作り

経験者からのメッセージ

活動の初期にメンバー間でしっかり考えを共有することが大切です。

最初にどれだけ、思いを共有出来るかで、その先の課題を乗り越えられるかが決まります。

運営者側から見たパーティシパントの変化

イベントの開催を通じて、経験者と、これから海外に行きたい学生の距離が近くなっていったと思います。今後も活動が続いていけば、在学生と卒業生の立てのつながりも強く出来るのではないかと思います。

T-ACT に関する感想

規模は小さくても良いので、定期的に交流会があったら良いと思います。

MANAGEMENT MEMBERS

●運営スタッフ: 7人

●週 1 回の MTG

●情報発信、報告会等のイベントの運営企画



* プランナー: 加藤温平(国際総合学類)

ACTIVITY

● Magazine Project

国際交流団体Team8と協力し、情報誌の発行。
学内12カ所、WEB上で閲覧可能。



● Georgia International Forum of Student Unions 参加

世界30カ国以上の若者と共に、「ユース活動」について議論する国際会議



留学生と一緒に情報誌作り Team 8 (11056A)

T-ACT プランナー WONG CHEW TAT (システム情報工学研究科 (博士前期課程) 社会システム工学)

活動内容

①「共同作業でより深い交流」を目指す

筑波大学には約1900人も留学生が在籍しており、非常に国際色豊かな環境であるといえます。

しかし、留学生は留学生同士、日本人は日本人同士で固まってしまう傾向があり、せっかくの環境が生かし切れていないのが現状でした。

また、一対一で留学生の学習面・や生活面のサポートをする「チューター制度」はあるものの、うまく機能していないケースもあり、それ以外に留学生の支援を行っている団体も存在しませんでした。

そこで、「学生同士の交流を深めつつ、何か留学生達の力になれるような活動をしたい」という思いから、2009年4月にこの団体を立ち上げました。

そこで私たちがまずやったことは、

①共通の関心を持つメンバー同士を集めた少数でのイベントを積み重ねていく

②お互いの信頼関係が出来上がってきたところで全体向けの大きなイベントや共同のものづくりを行う

というものでした。

(具体的なイベント例)

関東近辺での日帰り旅行・スポーツ企画。
共同の国際情報誌作り・文化ワークショップ。

今学期中では、工場見学を行いたい。

今年度はこれらの活動をさらにパワーアップさせ、学内の交流をより活発化させていきたいと考えています。

②日本語を使った気軽な国際交流を実現する

時には英語も使うけど、「英語が出来ないからって留学生と友達になれない」わけじゃない！

「日本語・日本文化を学んでいるのに、日本人と出会える機会がない・・・親しい友人が出来ない・・・」

という留学生の方をたくさん見てきたからこそ生まれた私たちの活動のモットーです。

(もちろん、メンバーごとに得意な言葉・不得意な言葉があるので時には英語を含めた複数の言語が混じります。

でも、その時は他のメンバーが間に立ってコミュニケーションのお手伝い！Team8にはいろいろな人がいます。

困ったらどんどん他の仲間を頼ってください。)

③ものづくり (フリーペーパーの制作やお国料理大会など) を通し、学生同士が単なる「友人」を超え、大切な「仲間」としてより深い関わりを持てるようにする

「何かを一緒に作る」という体験を通して見えてくる文化の差、学内で反響を頂けた時の達成感。普通に大学生活を送っているだけではなかなか味わえない楽しさをこの活動を通して皆に知ってもらいたいと考えています。

④日本文化 Workshop

留学生に日本特有の文化をワークショップの形で紹介する。前回はお正月について行った。おせち料理、初詣や年賀状などの正月行事を詳しく紹介した。

【最終目標】

留学生と日本人学生がお互いのふるさとを訪問しあえるくらい、深い交流を生み出すこと。

Purpose

Team8's purpose is to deepen the ties between Japanese student and foreign student in Tsukuba thru collaboration and creation of a magazine. Final vision, we will be traveling to each other home town like a family.

Although Japanese is our main communication language, the bilingual or even trilingual member will be able to bridge the language barrier. Our current member speak prefect English, Korean, Chinese, Italian, Portuguese, and Cantonese. Please feel free to join us and Japanese language ability won't be any barrier here.

活動計画

- 10月 ・活動開始
- ・メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- 11月末 ・工場見学
- 12月 ・情報誌発行
- 12月末 ・日本正月文化紹介
- 1月 ・正月料理大会
- 3月末 ・活動終了
- ・メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

活動期間

平成23年10月24日～23年3月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O : Tomona Komatsuzaki (比較文化学類), Ayami Akemoto (比較文化学類), Haruna Yatabe (体育専門学群), Yuuki Koike (日本語・日本文化学類), Eriko Kanou (芸術専門学群), Jiji Lim (研究生), Yukari Mikami (教育学類), Yu Arakawa (体育専門学群)
 P : Ippei Koya (北アフリカ研究センター・生命環境工リア支援室)

活動報告

活動成果

・ 活動内容

Nov 13- Exchange Event with Japanese traditional Yakiimo

Dec 2 - Monthly Meeting

Dec 5 Chocolate Factory Visit, Tokyo Food company.

Late Dec Japanese New Year Workshop (Lecture Style)

Beginning Jan - Part 2 of the New Year Workshop (Outdoor game) and follow with the traditional "Ozoni" food

March 3 Monthly meeting and Hinamatsuri party

In the same time, we published the No.5 issue of Team8 freepaper, feature the international exchange club in Tsukuba.

・ 目標達成度

I would like to conclude last term team8 as a successful T-ACT action plan for the reason below:

1. The successful publication of no.5 issue freepaper that was well received.
2. Introduction of Traditional Japanese events to many foreign student
3. Involvement with local company

・ 得られた成果

Above anything, the friendship we built from Team8 will be the treasure for the rest of our life. The unique experiences and wonderful memories we shared are the effort of many committed members.

We help to market and promote others international exchange club.

今後の課題

One of the biggest challenge for me is the sustainability of the organization.

Without new committed members, it is impossible to continue running the organization after a while.

However, thanks to the chances offered by T-act in their general lecture, we are available to introduce our activities to freshman. From there we had recruited a few extremely committed members.

経験者からのメッセージ

Just do it.

運営者側から見たパーティシパントの変化

Some Japanese had become more open.

International student had the chances to speak Japanese.

T-ACT に関する感想

You guys are awesome!

I think you are doing a great job. You had try your best to assist us and give useful direction.



岸英光によるコーチング講座～コーチングのプロから学ぶコミュニケーションセンス～(11058A)

T-ACT プランナー 大野 康明 (システム情報工学研究科 (博士前期課程))

活動内容

年間400件以上講演を行うコーチングの第一人者である、岸コーチにコミュニケーションにおける肝をワークショップとして開いてもらい、参加者が前進するきっかけを創りたい。

岸さんについて詳しくは、<http://cto.communication.ne.jp/html/kishi-prf.htm>

プランナー自身、現在都内まで足を運んで岸コーチのコーチング講座を受講している。

自分自身、本講座で学んだコミュニケーションが日常のあらゆる場面で応用可能だと感じている。

今回、筑波大学内で実施することで、一人でも多くの方にコーチングの存在を知ってもらい、実際に取り組むことで得たい結果を創り出してもらいたいと考えている。

活動計画

- 11月
 - ・活動を開始する。
 - ・メンバーを集め、役職(交渉係、営業係、会計、講座内容)を決定する。
 - ・各人がそれぞれの仕事を開始する。
- 12月
 - ・事務作業、宣伝活動を行う。
- 1月中旬
 - ・講座を開催する。
- 2月
 - ・メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる。

活動期間

平成23年11月1日～24年2月1日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 矢田晃一 (システム情報工学研究科)、霜越安文 (数学類) 北村百代 (教育学類)、長田瞳 (社会学類)、末永加奈 (社会学類)、平野淳 (人文学類)、大曾根圭輔 (システム情報工学研究科)、鮭川亮太 (社会工学類)、韓影 (システム情報工学研究科)、成瀬洋美 (国際総合学類)、栗原萌 (社会学類)、西島一志 (応用理工学類)、小林聖 (大東文化大学)

P: 住田潮 (システム情報系)

活動報告

活動成果

■活動内容

- 12月1日 第1回ミーティング
- 12月8日 第2回ミーティング
- 12月13日 決起鍋会
- 12月15日 第3回ミーティング
告知用 WEB ページ完成
- 12月22日 第4回ミーティング
学内、学外でのポスター貼り開始
- 1月9日 第5回ミーティング
- 1月10日～ 学内でのチラシ配布開始
- 1月11日 講師の方と事前打ち合わせ
- 1月12日 第6回ミーティング
- 1月16日 第7回ミーティング
講座当日
- 1月26日 講座運営完了会

■目標達成度

90%

目標人数150人に対して、実際には79名であった。

人数的には目標に達することはできなかったが、オーガナイザーが運営を通して得たいと思っていたことは、それぞれ達成できたから。

■得られた成果

プランナー及びオーガナイザーが本活動を通して得られたことを箇条書きにて記します。

身近な大切な人にコーチングセンスを届けることができた

リーダーシップについて探究することができた

怖いと思うことにも挑戦できるようになった

恋人との関係が良くなった

自身のやりたいことが明確になった



好きな女性と出会うことができた
 論文を軽やかに書き上げることができた
 繋がり続けたいと思う仲間に出会うことができた
 今まで触れたことのないコミュニケーションを知ることができた
 失敗しても自己嫌悪にならずに生きるスタイルを創れた
 自分の内面にあることを初めて人に伝えられた
 自分らしく生きられるようになった
 ・・・・等

今後の課題

■効果的な日程の選択

今回の企画は、講師の方の都合を考慮したうえで私たちの希望する日時を選択しました。しかし、後になって
 ・その日がセンター試験の翌日であり授業がないこと
 ・一部の専攻において、卒業・修士論文の締切直前であること
 がわかりました。

あらゆる出来事を考慮したうえで日程選択をした方が、もっと多くの方に本企画を届けられたかもしれないと感じております。

■計画的な広報活動

広報活動として、WEB ページ、SNS、メール、ポスター、チラシを考えていました。

WEB ページ、SNS、メールという IT 関連のものについては、準備が簡単であることもあり、効果的に取り組めました。

一方、ポスター、チラシに関しては印刷をしたはいいものの、実際に動き出すのは直前 1 週間前からでした。

特に、学外にポスター、チラシを出そうとした際、直前になって市役所の申請等が必要なことがわかり、結局断念しました。具体的にいつ行うべきなのか、明確にすべきでした。

■資料の一元化

講座の運営にあたり、様々な資料を使いました。

ミーティングの議事録から、当日の役割分担、タイムスケジュール、メンバーの目標を書いたシート等。

明文化がきちんと出来ている一方で、書類がたくさんあったため、見落としてしまうことが多々ありました。

資料を一元化しておけばもっと良かったと感じています。

■当日の忘れ物

講座後に、会場に車のキーを忘れていた方がいた。事前に登録してもらった連絡先にすぐに連絡はしたが、なかなか持ち主が見つからなかった。講座終了後に、忘れ物について一言アナウンスすべきだった。

経験者からのメッセージ

プランナー自身が、企画を通して何を得たいのかを明確に持つことがとても大切だと思います。

同時に、共に企画を創り上げてくれるオーガナイザーがどのような思いをもって参加してくれているのか、リーダー（プランナー）として知っておく必要があります。

自身の意図と仲間の意図を達成するために、やることをピックアップし、最も機能しそうな方法で取り組めば、予想以上の成果が出ると思います。

とても良い経験ができるし、オーガナイザーとは企画実施前より断然深いつながりを持つことができます。

失敗しても OK な学生時代に、本システムを使ってやりたいことにチャレンジするのはとても有意義だと思います！

運営者側から見たパーティシパントの変化

まず、コーチング講座に興味を持っていただき、かつ参加費を払うという立場をとられていた瞬間から、パーティシパントの方には違いが生まれていたと思う。

講座の前後に関しても、最初は疑い深く慎重に聴いていた方が多い印象だったが、終盤に向かうにつれて盛り上がりを見せ、終了時刻になっても話し続ける方が多数いた。

講座後の懇親会でも、コーチングについて熱心に質問をしてくれるパーティシパントが多数いた。

また、パーティシパントの中に知人が多くいるのだが、彼らから講座で扱った「パラダイム」、「クリアリング」という言葉が日常の中で聴くことがしばしばある。

実際に、正確な人数は把握できていないが、大半の方が岸コーチの講座に今後も参加したいとアンケートに回答してくれた。

以上より、パーティシパントに違いを創れた企画だったと捉えている。

T-ACT に関する感想

PC や印刷の環境提供にとってもお世話になりました。



● アラビア語とイスラム文化に触れよう (11059A)

T-ACT プランナー 篠崎 由依 (システム情報工学研究科 (博士前期課程) 構造エネルギー工学専攻)

活動内容

一昨年前より、T-ACT の活動としてアラビア語教師の公式資格のあるエジプト人講師によるアラビア語講座を続けている。これまで多くの学生が参加し、楽しくアラビア語を学ぶ事が出来ると評判になったため、今年度も活動を継続する事を決定した。

講座では、独学では難しいアラビア語をネイティブとともに学び、同時にイスラム文化への理解を深める事を目的としている。

具体的な活動内容としては、エジプト人講師 1 名、他にも指導可能なエジプト人留学生 2 名、アラブ圏に留学経験のある日本人学生数名がアラビア語を 90 分講義し、レベル別の丁寧な指導を行う。そのほか、モスクの見学やアラブ人留学生との交流などを通してアラブ・イスラム文化に触れる企画も随時計画している。

活動計画

- 11月 ・活動開始
 - ・参加者の募集とアラビア語講座内容の企画
- 11月～3月 ・アラビア語講座の開講
 - (毎週木曜日 (変更有) 18:15～20時 中央図書館セミナー室)
 - ・東京ジャーミー (代々木のモスク) の見学 (12月)
 - ・アラブ・イスラム学院等、イスラム文化施設の見学 (随時)
 - ・筑波大学に在籍するアラブ人留学生との会食・交流 (土日に企画)
- 3月 ・活動終了
 - ・これまでの活動を振り返り、「活動計画書」を提出して終了。

活動期間

平成23年11月9日～24年3月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：ハリル ムハンマド氏 (外部講師)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 12月1日 ミーティング
- 12月8日 第1回講座
- 12月15日 第2回講座
- 1月12日 第3回講座
- 1月19日 第4回講座
- 2月9日 第5回講座
- 2月16日 第6回講座
- 2月23日 第7回講座
- 3月1日 第8回講座 (最終回)

・目標達成度

70%

ほぼ毎週定期的にアラビア語クラスの開講が出来、参加者への周知もうまく機能した。ただ、企画していた土日のイスラム関連の勉強会やエクスカッションが参加者および講師の都合が調整できず開催できなかった。

・得られた成果

1. 様々な分野で学ぶ学生、社会人、及びアラブ圏 (エジプト、シリア等) からの留学生との交流の機会が生まれた。
2. アラブ料理を作る会なども開催し、アラブ文化に親しむ機会が設けられた。
3. アルファベットからはじめた初心者も、講座の最後には簡単な挨拶やフレーズが言えるようになるまで上達した。

今後の課題

当初 TACT による企画を提案したエジプト人講師が突然自己の都合により講座をやめるトラブルがあり、彼の紹介でチューターとして参加していた複数のアラブ人留学生の身分の取り扱いが分からなくなり現場が混乱した。

外国人と共同で企画を立てる場合には、十分に意思疎通を行い、あらかじめ文章でやり取りをするなどし、突

然の帰国や意思の変化があった際にも円滑に企画を続けられるようすることが重要だと感じた。

経験者からのメッセージ

事前に来るだけ細かな計画を立てておいたほうがよい。また、急な変更があった場合にも対応できるよう、各自の責任の範囲と所在をはっきりとさせておいたほうがよい。

運営者側から見たパーティシパントの変化

アラビア語という柱を通し、工学、文学、人類学など様々な分野の学生が交流し、情報交換を行う機会が生まれた。そのため、語学だけでなく、他分野への興味も生まれ、アラビア語を通して見える世界が広がった。全くアラビア語を話せなかった参加者も、講座の最後には積極的に留学生と会話できるようになり、楽しんでいたようだった。

T-ACT に関する感想

自分も含め、多くの参加者と知り合いになれたのが良かった。アラブ圏からの留学生とも交流でき、今後アラビア語を学ぶ上での貴重な人脈とモチベーションが生まれた。

● Good Job 2012～夢のお仕事体験場～ (11061A)

T-ACT プランナー 山下 奈菜子 (社会・国際学群社会学類)

活動内容

今年で5年目となる本企画では、5月12日・13日に開催されるつくばフェスティバル2012(仮称)の会場の一角を借り、会場を「街」に見立てて、子どもが主役の疑似社会を作る。

子どもたちは様々な「お仕事」を体験し、成果に応じて「給料(疑似通貨)」を得ることができる。そうして労働と市場原理の一端を体験するとともに、「お仕事」を通して、見知らぬ誰かの役に立ち、笑顔をもらえることの喜びを感じてもらいたい。

「街」の設計や「お仕事」の内容作り、必要な小物作りなど、イベントの根幹に関わる部分は全て学生の手で作り上げる。当日だけスタッフとして参加する学生も併せて募集する。多くの人の協力のもと、ひとつのイベントをみんなで作り上げる楽しさ、終わった後の達成感と充実感を、ぜひ味わってほしい。そしてその中で、来年以降もこのイベントを続けていける人材を育てたい。

また今回も、昨年に引き続き学内外の団体・サークル等にブース出展・パフォーマンスを依頼する。普段はそれぞれ独立して活動している団体同士がイベントを通じて影響し合ったり、地域住民との関わりを経験することで、活動の幅を広げてもらいたい。

現在、運営メンバーを募集中。

活動期間

1月～5月中旬

・活動日：毎週木曜18:30～20:00

・活動内容：警察官・冒険家のシナリオ作成、小道具作り、イベント考案など

活動計画

- 1月
 - ・活動開始
 - ・組織作り(渉外・会計等)
 - ・つくばフェスティバル実行委員会に参加
- 2月
 - ・第一回説明会開催(準備スタッフ・学生団体)
 - ・各ブース責任者決定
 - ・「お仕事」他、企画内容プランニング
 - ・他団体(学内外)とのブース間提携の考案
- 3月
 - ・「お仕事」概要決定
- 4月
 - ・つくばフェスティバル実行委員会に参加
 - ・学内及び市内向け広報開始
 - ・新入生向け説明会開催
 - ・作業場確保、各種装置製作
- 5月
 - ・各種装置、当日配布物等作成
 - ・当日スタッフ向け説明会、リハーサル

5月12日、13日 ・本番

活動期間

平成23年12月1日～24年5月13日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：鮎川亮太(社会学類)、大川原友樹(システム情報工学研究科)、あべ松幸彦(知識情報・図書館学類)、松本紘一郎(教育学類)、打田雅俊(芸術専門学群)、津留奏太(社会学類)、伴野由佳里(看護学類)、打田恭平(システム情報工学研究科)、中村元樹(知識情報・図書館学類)、市川靖子(心理学類)

P：奥村啓(学生部学生生活課)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 10/21 Good Job 第一回ミーティング
- 11/11 第二回ミーティング
- 12/19 第三回ミーティング
- 1/18 第四回ミーティング
- 2月～ 毎週月曜にミーティング
- 2/22 スタッフ説明会

- 3/30 他団体交流会
- 4/16 スタッフ説明会
- 4/27 スタッフ説明会
- 5/12 Good Job 一日目
- 5/13 Good Job 二日目

・目標達成度
120%！！

当初多めに予想していた「大学生 VS 子ども2000人」というポスターのキャッチコピーを大幅に超え、2500人の来場者を動員することができた。

また、子ども・スタッフ共に楽しめるイベントにすることができた。
全体として大成功だったと思う。

・得られた成果

2日間で延べ2500人の子どもが参加。

Good Job ならびにイベントサークル「ゆ～もあ」の周知。

市に高く評価された。

子どもたちが楽しくお仕事体験できた。

子どももスタッフも楽しめた。

今後の課題

来場者の人数が大幅に増え、スタッフ人員も物品も金銭も大幅に不足した。次回以降、今までの「流れ」でやってきた運営方法を根本から見直す必要を感じた。

経験者からのメッセージ

T-ACT はまさに「知らなきゃ損！使わなきゃ損！」どんどん積極的に使って、あなたのやりたい活動をサポートしてもらってください！

運営者側から見たパーティシパントの変化

初夏の晴天の暑い中、とても楽しそうに当日スタッフが運営している姿を見てうれしかった。「来年もやりたい！」と言ってくれるスタッフも多く、非常にやりがいを感じた。

T-ACT に関する感想

物品貸出や様々な作業、特に印刷では本当にお世話になりました…！今回“も”T-ACT なしでは Good Job は運営できませんでした。ありがとうございました。



3R+1EcoCycle11-12 (11063A)

T-ACT プランナー 安富 陽子 (理工学群応用理工学類)

活動内容

毎年、卒業や転居のシーズンに、学生宿舍や大学の周辺で家具や家電が大量に廃棄されます。その中にはまだ使えるものも多く含まれています。それらの家具や家電を引き取り、清掃や点検などをしたうえで新入生に無償で提供することで、筑波大学周辺のゴミを減らし、廃棄や購入にかかる経済的負担を減らすことが、この活動の目的です。

活動計画

- 11月 ・メンバーを集め、運営局・広報局・情報局に分かれて活動開始
- 11月～1月
 - ・回収日の決定、回収方法の検討
 - ・取り扱う品目や個数の検討
 - ・ポスター、ピラ、学内広報紙、電子掲示板、twitterなどを用い、学生や教職員の方々に不要になった家具や家電の提供を呼びかけ
 - ・品物の保管 / 清掃をするためのスペースの確保（昨年度は追越16号棟1F モデルルームと一の矢34号棟を使用させていただいた。今年度も十分なスペースを借りられるよう交渉する）
 - ・回収日やその他作業日のスケジュールの決定
 - ・Web システム (Web アプリケーション) の作成
- 2月～3月
 - ・品物の引き取り (宿舍共用棟に受付を設置 / 個人宅ヘトラックで訪問)
 - ・品物の清掃・点検
 - ・Web 上での抽選
- 4月
 - ・宿舍入居日
 - ・品物の提供 (各宿舍に拠点を設置)
 - ・後片付け

活動期間

平成23年11月9日～24年4月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：高橋宏幸 (数学類)、兒島正典 (工学システム学類)、萩原彰 (情報メディア創成学類)、形田恵理子 (生物資源学類)、三谷正明 (社会工学類)、栗田招子 (生物資源学類)、伊川景 (応用理工学類)、水野隆志 (知識情報・図書館学類)、宮下晃 (応用理工学類)、李雪肅 (情報メディア創成学類)、山下華緒里 (生物資源学類)、齋藤涼麻 (知識情報・図書館学類)
- P：土子昇 (学生部学生生活課)

活動報告

活動成果

・活動内容

2011年

- 7月4日 始動前ミーティング1
- 9月6日 始動前ミーティング2
- 9月19日 始動前ミーティング3
- 9月30日 始動前ミーティング4
- 10月14日 始動前ミーティング5
- 10月17日 説明会1
- 10月24日 説明会2
- 10月28日 説明会3
- 10月31日 ミーティング1
- 11月14日 ミーティング2
- 11月21日 生活課の方とお話
- 12月9日 ミーティング3
- 12月19日 生活課の方とお話
- 12月27日 レンタカーのお店に行き、トラックを予約

2012年

- 1月20日 ミーティング4
- 2月3日 実委から備品をお借りする (ブルーシート)

- 2月4日 作業日（倉庫の準備）
- 2月11日 回収日1
- 2月19日 回収日2
- 3月9日 作業日（回収日に向けた準備）
- 3月10日 回収日3
- 3月11日 回収日4
- 3月12日 作業日（倉庫整理）
- 3月14日 回収日5
- 3月15日 回収日6
- 3月16日 作業日（倉庫整理）
- 3月22日 ミーティング5/生活課の方とお話し
- 3月24日 回収日7
- 3月25日 回収日8
- 3月26日 回収日9
- 3月27日 作業日 / 新歓ネットにて各学類の新歓委員に協力要請
- 4月3日 作業日（宿舎入居日に向けた準備）
- 4月4日 作業日（宿舎入居日に向けた準備）
- 4月5日 作業日（宿舎入居日に向けた準備）
- 4月6日 宿舎入居日（平砂・春日）物品引き渡し
- 4月7日 宿舎入居日（一の矢・追越）物品引き渡し
- 4月15日 作業日（倉庫の片づけ）
- 4月28日 作業日（倉庫の片づけ）

・目標達成度

70%程度

今回の活動の目標はスタッフを増やし今後の活動につなげていくことであったため、スタッフの人数を確保できなかったという点では目標が達成できなかった。

しかし、活動の目的である「要らなくなった物品を回収し、新入生に無料で提供する」という点においては、300点程度の物品を回収し、提供することができたため、スタッフの人数に対して満足のいく活動ができたと思う。

・得られた成果

回収・提供した物品数が300点程度と例年並みの活動ができた。

わずかではあるが、ゴミの削減に貢献できたと思う。

今後の課題

- ・スタッフを増やすこと

物品提供者の方から物品（冷蔵庫など）を引き取り運搬するときや、宿舎入居日の受付や対応をするときには多くの人手が必要となる。

今回の活動では、スタッフの人数が少なかったため、スタッフの知り合いの方にお手伝いをしてもらうことで活動を実施することができたが、全体の流れや方針をわかっているスタッフが多い方が活動をしやすいため、今後は普段のミーティングから参加するスタッフを増やすことが必要である。

経験者からのメッセージ

T-ACTの活動は、決まった期間内にメンバーを集めて目標達成に向かって活動を行う、というものであり、短い期間にやらなければならないことが多く、書類作成や物事の決定などをプランナー1人ですべてこなすのは困難です。一緒に活動をしていく仲間と相談し、協力しあって活動を行う姿勢が大切だと思います。

また、メンバーを集めるのも困難なことの1つです。

自分たちの活動の魅力をきちんと伝えることや、興味を持った人々が参加しやすい雰囲気を作ることも必要だと思います。

慣れないことばかりで大変だと思いますが、とにかくやってみることが大切だと思います。頑張ってください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

スタッフや、その知り合いの方々がこの活動に参加して下さったことで、様々な立場や考え方を持つ人々が集まり、参加者同士が交流や意見の交換をすることができ、それぞれの成長の場になったと思う。

T-ACTに関する感想

ビラやポスターの印刷など活動をしていく上で必要な作業をT-ACTフォーラムで行うことができ、とても助かりました。

ありがとうございました。

● Table For Two in 筑波大学～TFT をもっと知ってもらおう！～(11064A)

T-ACT プランナー 長谷川 莉子 (人間学群心理学類)

活動内容

- ・ 開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病に大学の学食を通して同時に取り組む社会貢献活動の推進。これまでに第三学群食堂に協力を得て、TFT メニューを提供。2770食をアフリカに寄付として援助。
- ・ 深刻な貧困状況が続くアフリカの子どもたちへの支援。現在アフリカの5カ国の子どもたちの給食を支援。
- ・ より多くの学生に活動を知ってもらうためのイベントを開催。また、新メンバー確保のために新歓の準備をおこなう。
- ・ 導入場所を増やすための学外・学内交渉。

活動計画

- 12月 ・ 活動開始。
- ・ 企画展準備。
- 1月～2月 ・ 企画展展示。企画案としてはアフリカの写真を掲示・メニューコンテストの開催を予定。学生カフェへの協力。
- 2月～3月 ・ 新歓に向けて準備。
- 12月～3月 ・ 交渉活動。強化週間の実施。強化週間では導入先の食堂でTFTメニューを一週間出してもらう。

活動期間

平成23年12月1日～24年3月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：中村良孝 (国際総合学類)

P：首藤もと子 (人文社会系)

活動報告

活動成果

- ・ 活動内容
 - 3学食においてTFTメニューの提供。
 - 企画展の準備。
 - 一般学生団体として承認されたため、企画を取り下げた。
- ・ 目標達成度
 - 1回の提供ごとに50食を完売。
- ・ 得られた成果
 - 売上金の一部を寄付にあてた。

今後の課題

企画を考える際にメリット、デメリットをよく話し合い、十分に効果が望まれると判断してから行動に移すべきだった。

経験者からのメッセージ

計画はしっかりと細かいところまで決めた方がよい。

運営者側から見たパーティシパントの変化

■動を通して、先進国と発展途上国の食糧問題の理解が深まった。

T-ACT に関する感想

いろいろ相談にのっていただきありがとうございました。

● 一般学生団体の活性化に関する勉強会 (11065A)

T-ACT プランナー あべ松幸彦 (情報学群知識情報・図書館学類)

活動内容

筑波大学には多数の一般学生団体が認可されているが、対外的に精力的に活動を行なっている団体以外はその活動や実態が広く知られていない場合が多い。そのためサークル連合会に比べて、外部の人間（学生や市民）からの、団体や団体の情報へのアクセスがしにくいように思われる。また、精力的な対外活動を行なっている団体でもそのネットワークは限られたものになっているよう見受けられる。この企画は、そのような一般学生団体の現状を調査、分析することにより、一般学生団体同士、団体と学生、団体と大学、団体と市民など、つくばの特色を生かした新たなネットワークの形成を促し一般学生団体全体の活性化を実現する方法について模索するものである。

活動計画

- 12月～1月 ・メンバーを集める
- 1月～3月 ・メンバーで集まり、一般学生団体の現状調査、ディスカッションなどを行う
- 3月末 ・活動終了
- ・明らかになった事実・問題をまとめ、今後の方針を決める

活動期間

平成23年12月1日～24年3月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：大野勝也（知識情報・図書館学類）
P：矢澤真人（人文社会系）

活動報告

活動成果

活動内容

- 12月21日 一般学生団体の方を招いて説明会
- 2月17日 一般学生団体の方を招いて説明会
- 3月2日 第二回新歓祭担当者連絡会にて一般学生団体へアンケート配布、回収
- 3月9日 アンケート集計

・目標達成度

30%

一般学生団体への調査を実施することはできたが、回答してくれた団体数は47団体、全体の38%に留まった。今回の調査では一般学生団体を統括する事務局の必要性を説くには不十分である。また、事務局の非公式ホームページの設立はしたものの、運用可能な程他の一般学生団体の協力が得られていない。当然、自分たちの協力者も増えていない。以上の観点から、達成度は30%と判断した。

・得られた成果

アンケート結果

配布数：90、回収：47、欠格：2 有効回収率：52%

欠格理由：一般学生団体ではなかったため

結果から推測できること（一部抜粋）

- ・日々の活動の支援や他サークルへの連絡等ができる事務局を必要とする団体は一定数ある。
- ・大学への提出書類のスケジュールプラザ以外への提出場所を必要だと感じる団体はあるが、設置場所によるものが大きい。
- ・今までにNPO等の主催するイベントに参加したことはないが、自発的にまたは依頼があれば参加したいという団体は多い。

今後の課題

アンケートの回答者が代表ではない、新歓の担当者（運営に関する正確なビジョンを持っていない構成員）が大半だったと推測されるので、あまり深い意見を得ることができなかった。

今後はアンケートに限らず、実際に団体の代表に会って意見を聞く質的調査法を取り入れたりして、よりよい意見を聞きたい。できる限りすべての一般学生団体の代表への調査を行いたい。

経験者からのメッセージ

メンバーを集めましょう。人が少ないと大変です。

運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントと連絡が取れず、未参加だった。

T-ACT に関する感想

次回はもう少し T-ACT を活用した活動を展開したい。T-ACT システム経由での連絡ができなかった。

筑波大学マイクロボランティア応援プロジェクト (11067A)

T-ACT プランナー 三津石 智巳 (図書館情報メディア研究科)

活動内容

マイクロボランティアとは、授業の休み時間や待ち合わせで友達を待っている時など、5分、10分という細かい時間にインターネットやツイッターやスマホを活用することで、多くの人の参加が可能となる新しいボランティアの形態です。

- 本プロジェクトでは、このマイクロボランティアの仕組みを構築し、
- ・大学の問題解決にみんなに手伝って欲しい (ボランティアを求める人)
- ・簡単なボランティアを通じて大学に貢献がしたい (ボランティアをする人) のどちらも応援することを目的とします。また、本プロジェクト自身でもいくつかのボランティア活動を主催します。
- ・大学 (学群・学類・サークル・T-ACT イベント等) の Google カレンダーを作成します。
- ・大学の掲示物 (休講情報、イベント情報等) インターネットから閲覧可能にします。
- ・大学内のハザードマップを作成します。
- ・大学内の携帯の電波状況マップを作成します。
- ・大学全ての食堂メニューの一覧を作成します。

本プロジェクトでは、Web を通じた仕事のマッチング等を行うために、クラウドソーシング技術を使います。

活動計画

- 11月 ・システムの完成
- 12月 ・内輪でのシステムの公開・試験
- 1月 ・プロジェクト 1 開始：大学のイベントカレンダー作成
- 2月 ・プロジェクト 2 開始：掲示物のデジタル化
- 3月 ・プロジェクト 3 開始：(他の T-ACT プロジェクトとも連携しながら、マイクロボランティアで解決可能な大学における課題を発見して取り組む)
- 4月 ・報告書まとめ

活動期間

平成23年11月30日～24年 4月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：青木秀人 (知識情報・図書館学類)、福角駿 (情報メディア創成学類)
- P：天笠俊之 (システム情報系)、逸村裕 (図書館情報メディア系)、宇陀則彦 (図書館情報メディア系)、阪口哲男 (図書館情報メディア系)、杉本重雄 (図書館情報メディア系)、永森光晴 (図書館情報メディア系)、西岡貞一 (図書館情報メディア系)、松村敦 (図書館情報メディア系)、森嶋厚行 (図書館情報メディア系)

活動報告

活動成果

- ・活動内容

概要

マイクロボランティアは、授業の休み時間やバスでの移動時間など、いつでもどこでも気が向いた時にツイッターやスマホを使ってちょっとだけ活動に参加できる新しいボランティアの形態です。筑波大学マイクロボランティア応援プロジェクト T-microACT では、このマイクロボランティアによって筑波大学の様々な問題を解決することを目的としています。これを実現するために、筑波大学マイクロボランティア登録・活動サイト「Crowd4U」を作成しました。このサイトは、大学での問題解決をみんなに手伝って欲しい人や、簡単なボランティアを通じて大学をよりよくしたい人のどちらも支援します。Crowd4U を使うことで、わずか数分で誰かの役に立つことができますし、簡単に皆の力で大きな事ができます。

筑波大学マイクロボランティア登録・活動サイト Crowd4U (2012年 4月時点)

<http://crowd4u.org/>

※2012年12月現在は、マイクロボランティアに限定せず、震災復興など各種問題解決に全国の大学が貢献するためのプラットフォームになっています。

これまでに、T-microACT ではマイクロボランティア登録・活動サイト Crowd4U を使うことによって、新入生や在学生のために、筑波大学の行事カレンダーの作成と筑波大学の学食メニュー一覧の作成を行いました。作成した情報は筑波大学お役立ち情報サイト cro-ver で公開しています。

筑波大学お役立ち情報サイト cro-ver <http://ut-info.kc.tsukuba.ac.jp/>

詳細

活動期間中の具体的な活動内容は以下の通りです。

2011年11月：筑波大学マイクロボランティア登録・活動サイト Crowd4U の完成

2011年12月～2012年1月：所属研究室や、所属研究科の友人・知人の中でのシステムの公開・試験

2012年2月：筑波大学公式イベントカレンダー作成プロジェクト開始

→ <http://ut-info.kc.tsukuba.ac.jp/calenders> で公開しました。また、Google カレンダーにインポートして利用することもできます。

2012年3月～4月：筑波大学食堂メニュー一覧作成プロジェクト開始

→ <http://ut-info.kc.tsukuba.ac.jp/cafes/menulist> で公開しました。

2012年4月～：筑波大学課外イベントカレンダー作成

→ <http://ut-info.kc.tsukuba.ac.jp/calenders/circlecalendar> で公開しました。

各ボランティアの詳細

・公式行事カレンダー作成

この活動では、筑波大学の公式行事や振替授業日等を一覧できる Google カレンダーを作成した。実際のボランティアの作業として行われたのは、「公式カレンダーの画像中の行事データ（行事名、日時等）を入力」である。

・課外活動団体のイベントカレンダー作成

この活動では、筑波大学の課外活動団体のイベントを一覧できる Google カレンダーを作成した。このカレンダーにイベントを登録することによって、各団体の活動を広報することができる。実際のボランティアの作業として行われたのは次の2つである。

(1) 課外活動団体名を入力

(2) イベントデータ（イベント名、日時、開催場所、イベント詳細等）を入力

食堂メニュー一覧の作成

この活動では、筑波大学の食堂メニュー一覧を作成した。筑波大学には20以上の食堂が存在するが、このボランティア活動を開始した時点では、全食堂のメニュー一覧を知る方法はなかった。実際のボランティアの作業として行われたのは次の2つである。

(1) 食堂に行き、メニュー表や食品サンプルの写真を撮影し、アップロード

(2) 撮影された写真中のメニューデータ（メニュー名、価格、ジャンル等）を入力

・目標達成度

当初の目標は全て達成することができました。

・得られた成果

大学の多くの学生・教職員を巻き込んでマイクロボランティアを実現することができました。また、マイクロボランティアの活動から得られた知見については次の通りです。

(1) 参加のインセンティブ

マイクロボランティアの参加者を増やすためには、活動の意義を説明することが重要でした。今回のボランティア活動は、新入生が入学する直前期に行った活動であったため、新入生のためにも役立つ情報を作成しているという意義を説明することが参加者を増やすことに効果がありました。また、メーリングリスト等で大規模に参加者を募集しても効果は少ないが、友人・知人という繋がりを利用して、人づてに活動への参加を依頼することは効果がありました。

(2) 作業の細分化

ボランティアの各作業をできる限り容易で短時間で実行可能な作業まで分割することが重要でした。そして、小さい作業は多くの人で分担するが、難しい作業や時間のかかる作業は、個別に友人・知人の繋がりを使って直接依頼することが重要でした。

例えば、食堂メニュー一覧作成のボランティアの場合、写真を撮影してアップロードすることは負荷の高い作業になるので個別に依頼をしました。一方、撮影された写真中のメニューのデータを入力する作業はごく短い時間でできるので、個別の依頼は行いませんでした。

食堂メニュー一覧作成のボランティアでは、写真の撮影とアップロードの作業は合計9名の作業員によって行われ、合計で48枚の写真がアップロードされました。また、写真中のメニューのデータの入力作業は合計22名の作業員によって行われ、合計で483回データが入力されました。

今後の課題

Crowd4U の改善

経験者からのメッセージ

研究活動にも T-ACT は協力していただけます。ぜひ、様々な人の協力が必要な研究活動をしている方は、T-ACT を積極的に利用してみてください。

T-ACT に関する感想

大満足です。

学び場さくら塾6th season (11073A)

T-ACT プランナー 荒井 菜摘 (社会・国際学群国際総合学類)

活動内容

学び場さくら塾は、2010年5月にできたばかりの無料の学習塾です。さくら塾は、大学、地域住民、保護者の方々の協力の下に成り立っています。様々な人びと、組織と協働し、地域に根ざした教育組織にしたいと考えています。第四期の活動中につくば市の「アイラブ筑波まちづくり基金」に採択され、つくば市から補助金が下りるとともに公民館での指導を開始し、より多くの生徒を指導することができるようになりました。さくら塾は、単なる学習指導にとどまらず、大学と地域をつなぐさまざまな取り組みに積極的です。第一期の昨年度7月は留学生と芸術専門学群の学生を招いて交流会を行いました。8月には大学生と中学生のTALK SESSIONも行いました。今後も、継続的にさまざまなイベント作りをしていきたいと思えます。さくら塾では、学生講師が週3日(火曜、金曜、土曜)、桜3丁目21にある県営桜アパートの集会所に出向き、無料で小中学生に勉強を教えています。

火曜日(19:30~21:30)は春日交流センターにて中学生を、

金曜日(19:30~21:30)は桜県営住宅集会所にて中学生を、

土曜日(13:00~14:30)は台坪ふるさとコミュニティセンターにて小学生に百マス計算、漢字、算数(その他、地図の勉強、工作、など特色のある教科)を、それぞれ指導しています。

一般的な学習塾とは異なり、生徒との距離が密接なところが特徴です。教育に熱い方、地域活性化に興味がある方、ボランティアに燃えたい方は、子どもたちを巻き込んだイベント運営に興味のある方はのふるってご参加下さい。現在、学生講師および運営メンバーを募集しています。お問い合わせは、info@manabiba-sakura.org まで。また内容についての詳細は、WEBページをご覧ください。<http://www.manabiba-sakura.org/>

活動計画

毎週火曜日、金曜日、土曜日に継続的に学習指導を行う。また、定期的に学生講師のミーティングを行う。

活動期間

平成24年1月24日~24年3月31日

T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 中田智洋(心理学類)、金岡孝浩(人文学類)、挟間龍亮(応用理工学類)、松本紘一郎(教育学類)、横田(情報科学類)、是枝優那(教育学類)、脇屋真証(国際総合学類)、村田翔梧(教育学類)、明石萌子(人文学類)、渡辺慎吾(地球学類)、佐賀ゆり香(社会学類)、榎府なおこ(国際総合学類)、小島彩(国際総合学類) 他多数

P: 田中マリア先生(人間系)

活動報告

活動成果

・活動内容

毎週

火曜日(19:30~21:30)は春日交流センターにて中学生

金曜日(19:30~21:30)は桜県営住宅集会所にて中学生

土曜日(13:00~14:30)は台坪ふるさとコミュニティセンターにて小学生に百マス計算、漢字、算数(その他、地図の勉強、工作、など特色のある教科)を、それぞれ指導

震災に関わる授業の開催(2、3月)や、国際問題についてのワークショップ(2月)を実施した。

保護者会を開催(2、3月)し、地域住民の皆さんと交流した。

・目標達成度

「子どもたちのためになることを、ひとつでも多くする。」という目標を掲げ活動が続けてきたが、ほぼ達成できたと思う。学生講師各々が自分にできることを考え、何が生徒のためになるか模索しつつ活動することができた。

今後の課題

やはり継続的な場所の確保はこれからの課題である。資金源の確保も重要な課題である。

経験者からのメッセージ

メンバー内でできるアイデアをどうまとめ、共有していくかが大切だと、プランナーをやっていく中で学びました。なるべく全員が団体についての情報を知っているよう、ミーティングの機会を設けたり、ネットをうまく利用したり工夫をしていくことが、企画のスムーズな進行につながると思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

これまでの課題であった情報共有を、積極的・意識的に行うようになった。

各方面への広報活動を意識的に行うようになった。

T-ACT に関する感想

長らくお世話になりました!毎週ミーティングの際にはお騒がせいたしました。T-ACTの皆さんの温かい応援やアドバイスに、メンバー一同感謝しております。

学園祭ライブ企画～バンドを呼ぼう～【第1弾】(11074A)

T-ACT プランナー 重野 健斗 (理工学群化学類)

活動内容

『僕と一緒につくばにバンドを呼びませんか?』

筑波大学の学園祭はとても規模が大きく、広大な敷地を持ち、学生数も多いのに、今までどこか物足りなさを僕は感じていました。とてももったいない! なんだか悔しい!! 筑波大にはたくさんの軽音系サークルがあります。学園祭にバンドが来てほしいと思っている人もたくさんいると思います。開催にあたり超えなくてはいけない壁は山ほどあります。その壁を1つ1つ乗り越え、どんな形であれ必ず実現したいと思っています。今年実績を作り、来年はさらに大きく…将来的には UNITED ステージで有名バンドのライブが見たいです。また、筑波大にまだ無い音楽系イベントの企画サークル(イベンターのサークル)に発展していけたらいいなとも考えております。開催場所は大学会館小講堂を考えております。バンドのブッキングには、GFB(つくばロックフェス)主催の伊香賀さんの力をお借りするつもりです。また、僕自身もバンドさんとのつながり、都内のイベンターさんとのつながりもあります。学園祭ライブというのは、バンド側にもかなりメリットがあり、喜んで出演して下さるバンドはたくさんいると思います。筑波大学と言ったらなおさらです。有名なバンドを呼ぶことができれば、筑波大学の宣伝にもなるし、普段学祭には無縁の学外の方へのアピールにもなるはず。他の学祭の企画、軽音系サークルのライブにも良い影響があるかもしれません。“僕と一緒に学祭ライブの歴史を作りましょう!” 募集オーガナイザー

つくばにバンドを呼びたい! と思っている方、興味を持っていただいた方、照明・音響の知識のある方、僕と一緒に運営して下さる方、大歓迎です!

開催にあたって、非常にたくさんの人員が必要になります。当日の手伝いだけでも協力していただけると助かります。よろしくおねがいします!!

活動計画

- 1月下旬
 - ・活動開始
 - ・随時協力者募集
 - ・人脈作り
 - ・各軽音系サークルのMTで協力をお願いする。借りられる機材等の調査。
- 2月
 - ・活動計画を練る
 - ・予算書、企画書の作成
 - ・協力者で集まり、具体的な活動計画を立てる。
 - ・照明、音響、機材等にかかるお金をできるだけ減らし、おおまかな予算を組む。MUSIC PLANTさんへの交渉。ライブハウスへの協力要請もあり。
- 3月
 - ・出演バンドへの仮オファー
 - ・予算削減努力
 - ・予算から実際によぶことのできるバンドの考察。集客目標は350人。予算&集客を第一に考察。
- 4月
 - ・学園祭実行委員との交渉
 - ・事前に交渉術を学び、対策を練っておく。ここで実際に開催できるかどうかが決まる。場所、日時、時間が正式に決まり次第バンドに正式オファー。
- 5月
 - ・【第2弾】に続く!

活動期間

平成24年1月25日～24年4月30日

T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 福田萌乃(教育学類)、橋本康平(生物資源)、田島聖也(化学類)、山崎祐輝(生命環境科学研究科)、金井伸也(数理物質科学研究科)、藤原光太郎(卒業生)

P: 足立和隆(体育系)

活動報告

活動成果

1月下旬 メンバー集め(軽音サークル訪問、Twitter等)

↓

会場候補下見(大学会館小ホール、3A202、各体育館)

2月8日 第1回MT【メンバー顔合わせ。プランの説明。今後の展望。問題点等提示。】

かなり手さぐりな状態。まだ、僕自身もどう進んでいくか見えていない状態。見切り発車。

↓

運営方法、活動計画、コンセプト等考察。メンバー内へのアンケートの実施。会場の下見(小ホール with 伊香賀さん)。

自分自身、プロジェクトマネジメントについて少し勉強をした。先輩や知識のある人とお話しした。

3月4日 第2回MT【コンセプトの決定。プロジェクト内の基本ルール確立。問題点とその解決策ブレインストーミング。企画成功への戦略考察。】

かなり有意義な話し合いになった。コンセプトを決定して、どう進んでいくべきかおおまかに見えてきた。想定外の問題点も数多く出てきて、その問題点を解決するためにどう動くべきか考えた。

↓

運営メンバーの整理（責任の所在をはっきりさせるため。円滑な運営の実現）。MUSIC PLANT と会場下見。

3月12日 第3回MT【赤字が出た際の責任分担方法決定。企画成功への戦略。問題点の解決策考察。コアメンバー内の部署決定。】

→VJとのコラボ企画として売っていく！

演出にVJを導入するという、様々な問題点を逆手にとったアイデアがでた。企画力のUP!!!

↓

学園祭実行委員との話し合い。申請時期、会場日程決定時期確認。

3月21日 第4回MT【呼ぶバンド候補選出開始。VJについて考察。過去の雙峰祭の研究。予算の作り方考察。】

↓

他団体への連絡（こちらの意思表示）

3月31日 第5回MT【団体名、企画名考察。クオリティを上げるために戦略。バンド考察。】

4月3日 第6回MT【団体名、企画名決定！呼びたいバンドのブレインストーミング。戦略考察。】

↓

村上先生と、VJについてお話し合い。アドバイスをいただいた。

4月17日 第7回MT【バンド候補選定。】

↓

オファーリスト第1弾完成。伊香賀さんとのMT

4月26日 第8回MT【VJについて。広報、金銭的問題の解決策考察。】

→音楽に特化したフリーペーパー制作。おもしろそう！抜群の宣伝効果。

↓

第2弾へ。

今後の課題

- ・会場日程決定
- ・バンド側へのオファー
- ・宣伝方法
- ・チケット販売方法
- ・チケットを完売させる方法
- ・宣伝方法
- ・お金の作り方
- ・予算削減
- ・当日スタッフの確保

経験者からのメッセージ

こんな企画をしたい！と思いついたら、そのエネルギーが冷めないうちに進んでみてください。頭よりも体が動く、前のめりな姿勢でスタートした企画でも、その推進力があれば必ずできるはずです。全く協力者のいない、私の思いつきだけの企画ですが、今では協力者が増え、確実に前に進んできています。今後が楽しみです。

運営者側から見たパーティシパントの変化

代表の私自身が、このプロジェクトをどのように進めていけばいいのか、何からすればいいのかかわからない状態で始まったこの企画。興味を持ってくれた人も、最初はやはり戸惑っているようでした。ただ、話が具体的になっていくにつれて、積極的な議論も増え、仕事も徐々にまわるようになってきました。強力なリーダーシップが必要だと感じました。

T-ACT に関する感想

代表の私自身が、このプロジェクトをどのように進めていけばいいのか、何からすればいいのかかわからない状態で始まったこの企画。興味を持ってくれた人も、最初はやはり戸惑っているようでした。ただ、話が具体的になっていくにつれて、積極的な議論も増え、仕事も徐々にまわるようになってきました。強力なリーダーシップが必要だと感じました。

● 希死回生～自殺予防のための啓発活動～ No.1 (11075A)

T-ACT プランナー 高橋 あすみ (人間学群心理学類)

活動内容

プロジェクトの最終目標は、筑波大学の学生、教職員に、自殺に対する問題意識を持つ機会を提供し、自殺に対する誤解や偏見を減らすこと。そして、自殺志願者、自殺者を生まない大学環境づくりに貢献することである。日本は自殺大国である。自殺の問題は「年間自殺者数が3万人を超える」ということだけではない。自殺志願者への自殺対策は、自殺対策基本法が定められてから徐々に進められているが、自殺に関する誤解や偏見は社会に根付いたままである印象を受ける。

「死にたいなら死ねばいいんじゃないの？」と考える人は多いと思う。私も以前は「自殺はひとつの生き方なのでは?」「生きるのが辛い人に生きろというのは酷じゃないの?」と考えていた。しかし、『自殺未遂～「生きたい」と「死にたい」の心理学 (高橋祥友, 2004)』という本で、自殺は「さまざまな問題に圧倒され、『自殺』しか問題を解決する手段がないといった、いわば心理的視野狭窄の状態に追いやられた末に起こされた行動」という文面に衝撃を受けた。自殺はつまり、「死にたくて」死ぬのではないのだ。

実際、「死にたい」という思いを、「勝手に死ねばいい」「死にたいと言う人は自殺しない」などと言って見捨てたり突き放したりすることで、本当に失われる命が存在する。裏を返せば、専門的知識がなく何の術を持たない人でも、自殺志願者を理解し手を差し伸べるだけで、ひとつの命を救うことができるかもしれない。自殺対策は自殺の危険をはらんだ人や、それをサポートする専門家だけのものではない。自殺に関心のない人、自殺に嫌悪感のある人などが、自殺について正しい理解を持つことで、自殺志願者を排除する社会ではなく、支えられる社会にベクトルが向くのではないだろうか。

その正しい理解のために、自殺予防に関する啓発活動を行いたい。

第一弾は、企画に参加するメンバーを集め話し合いをし、具体的な活動内容を決めることを目標とする。

活動計画

- 1月 ・企画について広告し、メンバーを集める
 - 2月 ・同上 / 具体的な活動について、メンバーと計画を練る
 - 3月 ・メンバーと話し合い、活動内容を決定する
- ※想定している具体的な活動は、たとえば
- ・筑波大学内で、自殺についての意識調査を行う
 - ・正しい認識を広めるためのポスターを作り、構内に掲示する
 - ・自殺に関する創作作品を募集しコンテストを開き、問題意識を持つきっかけをつくる
 - ・外部から講師を招来し、啓発のための講義を開いてもらう
- など。

活動期間

平成24年1月26日～24年3月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：市川靖子 (心理学類)、岩岡寛海 (障害科学類)、渡唯唯 (人文学類)、東雄貴 (比較文化学類)、皆吉智之 (人間総合科学研究科)

P：杉江征 (人間系)

活動報告

活動成果

- ・活動内容
- ・ポスター・ビラで企画の告知
- ・メンバー集め
- ・第2弾活動へ向けてのミーティング
- 2/17 「若者の自殺を防ぐためのシンポジウム (大学主催)」に参加
- 2/21 第1回ミーティング
- 3/2 第2回ミーティング
- 3/27 第3回ミーティング
- ・目標達成度

掲げた目標は「メンバーを集める」と、「第2弾の活動内容を決める」ことだった。前項に関しては、経験者の助言からメンバー集めに四苦八苦するとのことで覚悟していたが、予想していた以上の人数が興味を持って連絡をくれ、やる気を持って活動を運営してくれるよき仲間を得ることができた。また、後項に関しても、ミーティング3度の中で決定することができ、4月から始める第2弾活動にスムーズに移行できそうである。ただし、

第2弾活動の詳細な活動内容については、今後もミーティングを重ねる必要があるので、総合的な目標達成度は95%としておく。

・得られた成果

企画が大学のやっぴいこうとするものと合致していたこともあり、教員や職員の方々から応援していただき、心強いバックアップが得られた。

更に、自殺予防に関心の強いメンバーが集まったことで、一人ではどうすることもできなかった自殺対策を、学生同士で考えながら行動に移していく、という機会を作れたことがよかったと思う。

また、様々な人の意見を聞いたことで、当初プランナーが考えていたこととは違う視点の面白い企画を考えることが今後できそうである。

今後の課題

企画の目標である「自殺の誤解や偏見をなくす」活動以外に、対象を自殺志願者とする活動（たとえばピア・サポーター）を行うか否かが、プランナーとしてどうしてよいか迷うところであった。

メンバーは、わりと直接的に自殺志願者に対して何かしらの支援や援助をしたいと考えているが、その対象からして当初の予定とは異なるため、プランナー自身柔軟に対応したいと思いつつも、目標と逸れてしまいそうで踏み出せない。

できれば、自らが立てた「自殺の誤解や偏見をなくす」ための啓発活動をメインにし、メンバーがやりたいと考えている自殺志願者（もしくは単に悩みを抱える人など）のための活動も、大学の活動に協力する形で行っていきたいが、そのバランスを今後考えようと思う。

経験者からのメッセージ

- ・ポスターは意外と見てくれる人がいます。この企画に集まってくれた人も、ほとんどがポスターを見て興味を持ってくれた方々でした。メンバー集めに困っている人は、ぱっと目に入る魅力的なポスターで、企画の告知をしましょう！
- ・私自身にやりたい企画があり、それを実行するつもりでT-ACTを始めましたが、色んな境遇で独自の考えをもつ人たちが集まったことで、自分が思いつかなかった活動が生まれる可能性を得られました。少人数でやった方が、意思伝達やまとめることは楽になりますが、できるだけ沢山の人が集めましょう！
- ・私は1年生で始めたこともあって、先輩方の上に立ってMTを行ったりまとめたりすることに不安がありましたが、ある意味その方が大目に見てもらえるので（笑）やりたいことがあったら、恐れずに始めましょう！

運営者側から見たパーティシパントの変化

MTは3回しか行ってないが、たとえば授業で自殺のテーマがあったら意識して聞いたり、生死についての講演や本があれば気に留めたりと、参加する前と後とで、メンバーの中で「自殺」という問題への意識や姿勢に変化があったのではないと思う。

T-ACTに関する感想

ポスターの掲示枚数を増やしてほしい。

電子掲示板のスライドの時間を長くしてほしい。

……ですが、初めて相談に行ったときから、大変お世話になりました！

これからも活動頑張りたいと思います！

● あなたの小説が読みたい！—第五回筑波学生文芸賞の作品及び一般選考委員の募集— (11077A)

T-ACT プランナー 神田 夏海 (人文・文化学群比較文化学類)

活動内容

総合大学という筑波大学の長所を生かし、小説を書くこと・読むことに興味を持つ学生の活動及び交流の活発化を手助けしたい。またつくばに関わる、筑波大学外の学生との交流のきっかけにしたい。最終的にはつくばに関わる学生全体の創作活動の活性化を目指す。

活動計画

- 4月初旬 ・作品及び一般選考委員を募集開始し、広報する。
- 5月末～6月上旬 ・一般選考委員説明会を開催。
- 6月末 ・作品及び一般選考委員募集を締め切る。
- 7月 ・一次選考：集まった作品を筑波学生文芸賞運営委員（オーガナイザー）のみで選考する。
- 8月 ・最終選考：一次選考通過作品を一般選考委員（パーティシパント）と共に選考し、受賞作を決定する。一般選考委員参加者との交流及び改善点のアンケートを回収する。
- 9月 ・受賞作を発表する。受賞作掲載冊子を編集する。
- 10月 ・学園祭にて冊子を無料配布する。筑波学生文芸賞運営委員（オーガナイザー）のみで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる。

活動期間

平成24年4月8日～24年10月8日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：塩田真史（応用理工学類）、森川貴斗（知識情報・図書館学類）、岩井悠太（社会学類）、山本郁（人文社会科学研究科）、伊藤美峰（人文学類）、谷翔（人文学類）、渡邊唯（人文学類）、高橋勇貴（社会学類）、竹前みね花（生物資源学類）、谷秀次郎（人間総合科学研究科）、岡部俊生（比較文化学類）、松下聖（人文社会科学研究科）
- P：青柳悦子（人文社会系）、江藤秀一（人文社会系）

活動報告

活動成果

長期休業及びテスト期間をのぞいて、基本的に週一回のミーティングを行った。
基本的に活動計画に沿ったアクションができた。

- 2～3月 作品及び一般選考委員を4月から募集することを公式HPや公式ブログ、T-ACTの連絡機能などで広報した。今年は広報手段としてツイッターも利用。また、この学生文芸賞が第五回を迎えることを記念し、応募要項を改善し、大賞受賞者に景品（スターバックスカード5000円分）を用意した。さらに、受賞作を掲載する冊子の表紙となる写真の公募（フォトコンテスト）を決定し、これについても広報した。
- 4月～6月 作品及び一般選考委員、また今年初の試みとしてフォトコンテストの作品を募集した。その広報をビラ配布、筑波大学中央図書館前での立て看板設置、構内外のポスター掲示、T-ACTの連絡機能・電子掲示板、公式HPや公式ブログ、ツイッターへの書き込みにより行った。6月初めに予定していた一般選考委員説明会の実施についても、同様の方法で広報した。今までの受賞作品について最終選考会と同じ形で議論するという模擬選考会を実施、運営委員以外の参加者も募った。
- 6月11日 一般選考委員説明会を開催した。4名の参加者があった。
- 6月末日 作品及び一般選考委員、フォトコンテストの募集を締め切る。一般部門…29作品、ベリッシュ部門…27作品の計56作品が集まる。フォトコンテストには5作品の応募があった。日程の都合上、最終的に一般選考委員は3名に決まる。
- 7月下旬・8月初頭 各一般選考委員の都合に合わせて勉強会（模擬選考会）を開催した。
- 7月22日 一次選考会：集まった作品を筑波学生文芸賞運営委員（オーガナイザー）のみで選考した。
- 8月10日 最終選考会：一次選考通過作品を一般選考委員（パーティシパント）と共に選考し、受賞作を決定した。最終選考会終了後、一般選考委員参加者との交流会を行った。
- 9月3日 茗溪会の援助金に採択される。
受賞作品タイトルと受賞者のペンネーム、所属を公式HP・ブログ等で発表した。
- 9月8・9・17日 受賞作掲載冊子を編集し、入稿した。
- 10月 ポスター、T-ACTの電子掲示板、公式HPや公式ブログ、ツイッターにより、学園祭での冊子配布を告知した。今年の新しい試みとして、ネットアンケートを実施、アンケートページのURL、QRコードを載せたビラも冊子と一緒に配布することを決定、ビラを作成した。

10月6・7・8日 学園祭にて冊子700部を無料配布した。

・目標達成度とその理由：

目標を達成できた。今年はこの学生文芸賞が第五回を迎えたこともあり、新たな試みを多く行ったが、それについての広報活動を T-ACT を通して実施することができたため。

・得られた成果：

T-ACT を通じた広報活動によって筑波学生文芸賞の知名度が上がったこと。私たち運営委員会にとって記念すべき第五回を多くの参加者とともに、新たな形式を加えながらも、成功させることができたこと。学園祭で地域の方から「過去の冊子を第一号からすべて持っている」という御声を頂き、この団体が少しずつではあるが、歴史を築いていっているということを知ることができたこと。

今後の課題

学園祭の前に T-ACT の連絡機能をもっと活用できていればよかった。また、T-ACT の連絡機能によるメールが一度に100人までしか送信できないのが、少し手間がかかった。

経験者からのメッセージ

新しいことをどんどん取り入れてみましょう。困ったことがあっても、T-ACT のスタッフの方が親身に相談にのってくださると思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

目立った変化はなかったように思います。

T-ACT に関する感想

「筑波大学の学園祭で冊子を配布することをゴールとするなら、活動期間を今まで申請していた2～9月から後にずらして4～10月にした方がいいのでは」といったような、私たちの目標達成を見据えたアドバイスを様々な場面で多くして頂きました。そのため、時期に応じた広報活動ができました。ありがとうございました。

学園祭企画～ Taku Takahashi さんと呼ぼう～【第1弾】(11078A)

T-ACT プランナー 落合 一真 (理工学群工学システム学類)

活動内容

『僕と一緒に筑波大学にDJを呼びませんか？』

自分も“バンドを呼ぼう”企画と同様に物足りなさを感じています。クラブミュージック、クラブというものをポピュラーなものにするためにTaku Takahashi (m-flo) さんと呼び、身近にクラブミュージックを感じて頂きたいと思います。開催場所等はこれから決めていきます。

募集オーガナイザー

筑波大にDJを呼びたい！と思っている方、興味を持っていただいた方、照明・音響の知識のある方、僕と一緒に運営して下さる方、大歓迎です！

開催にあたって、非常にたくさんの人員が必要になります。当日の手伝いだけでも協力していただけると助かります。よろしくお願いします！！

活動計画

- 2月下旬～3月中旬
 - ・活動開始
 - ・随時協力者募集、人脈作り、借りられる機材等の調査
- 3月中旬～
 - ・活動計画を練る。
 - ・予算書、企画書の作成
 - ・協力者で集まり、具体的な活動計画を立てる。
 - ・照明、音響、機材等にかかるお金をできるだけ減らし、おおまかな予算を組む。近隣のクラブへの協力要請もあり。
 - ・Taku Takahashi さんへの仮オファー。予算削減努力。
- 4月
 - ・学園祭実行委員との交渉
 - ・事前に交渉術を学び、対策を練っておく。ここで実際に開催できるかどうかが決まる。場所、日時、時間が正式に決まりTaku Takahashi さんに正式オファー。
 - ・5月以降【第2弾】につづく！

活動期間

平成24年2月20日～24年4月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

P：原忠信（芸術系）

活動報告

活動成果

・活動内容

2月20日～4月30日…共に企画を進める人を募集。結局、幹部として動いてくれる人は見つからず。

・目標達成度

0%…実際に少し動けたのが、申請期間終了後だったため。

・得られた成果

実際にクラブミュージックに興味のある人の少なさを実感したこと。

その中でも、企画中心者になろうとする人は、もっと少ないということ。

この2つを知りました。

今後の課題

やはり、一人から進めるのは大変なので、何人かで話をまとめていくことが大切である。

経験者からのメッセージ

とりあえずチャレンジしてみることはとても大切だと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者が自分のみのため、なんとも言えません。

● プロレスで青春の無駄づかい!!!～学生プロレスサークル誕生をめざして～ (11079A)

T-ACT プランナー 久保 希久男 (医学群医学類)

活動内容

昨年(2012)の雙峰祭で T-ACT 企画の学生プロレス興行が行われました。

本企画はその第 2 弾として、学園祭だけの一過性のイベントではなく、正式なサークルとして新入部員を集めることを目的としています。

そして今年の雙峰祭では多数の筑波大出身の学生プロレスラーをデビューさせ、他大学との団体交流線を実現したいと考えています。

昨年の T-ACT での企画を通してイベント開催のノウハウは獲得できました。本企画では自前の選手育成を目指したサークル化への道のりを、参加メンバーで楽しみながら実現していきたいと考えています。

活動計画

- 3月 ・活動開始
 - ・メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
 - ・HP、ビラ作成
 - ・FB やツイッターなどを用いた SNS 上の広報活動開始
- 4月 ・入学式や新歓イベントなどでの現実世界での広報活動開始
- 5月～7月 ・プロレス観戦やイベント等で新入生をもてなす
- 8月～9月 ・学生プロレスの練習

活動期間

平成24年3月17日～24年9月17日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：小平義之 (メディア創成学類)

P：入江賢児 (医学医療系)

活動報告

活動成果

・活動内容

4月 新歓活動 ビラ配り

7月～9月 練習

・目標達成度

100% メンバーを獲得し練習場所も確保した。

・得られた成果

昨年とは異なり参加メンバーが多いので、仕事を分担して取り組むことができるようになった。

今後の課題

雙峰祭以外でのイベントの提案。他大学との提携やヤドカリ祭への興行提案など。

経験者からのメッセージ

行動を起こすことがリスクなのではなく、行動を起こさないことがリスクなのだ。

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者とともに私自身も変化・成長してきたため確証はないが、ともに1つの企画を成し遂げようとする意識を一定期間共有することは参加者全員にならなかの経験として刻まれたはず。

T-ACT に関する感想

いまのままで十分です。大久保さんと古谷さんには大変お世話になりました。今度 T-ACT に何う際には、何かしらのスイーツ的なものを持参していきます。



Astro Cafe 一宇宙を語る場所一 (11082A)

T-ACT プランナー 鈴木 裕行 (理工学群物理学類)

活動内容

私たち筑波大生の住むつくば市には、様々な研究機関があり研究学園と呼ばれています。その中でも筑波宇宙センターはひととき注目に値する機関だと思います。「つくばと言ったら宇宙」と連想する人も少なくないのではないのでしょうか。

筑波大学には文系理系問わず、宇宙が好きな学生は多いと思います。しかし、今日、高校では受験に重きを置くためか地学を選択できず、宇宙について学びたくても学べなかった学生も多いと思います。そのような学生も集めて宇宙に関して学んだり宇宙をテーマに好きなことを話し合ったりできる機会を提供し楽しんでもらいたいと思い、今回のイベントを企画しました。このような企画を通して学生の宇宙に対する意識を高め、より多くの人に宇宙を知ってもらえるよう運営したいと思っています。

活動計画

- 3月
 - ・活動開始
 - ・現在集まっているメンバーを企画担当と広報担当に分け、各担当で具体的にイベントに向けて活動を開始する。
 - ・広報担当はチラシやHPの作成、企画担当はイベント当日の計画を練っていく。
- 4月
 - ・広報・イベント運営
 - ・イベントの参加者を集めるために広報活動を行う。
 - ・後半にイベントを開催する。
- 5月
 - ・活動終了
 - ・アンケートの集計や、メンバーで反省会を行い活動報告書を提出する。

活動期間

平成24年3月7日～24年5月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：桐原崇亘（数理工学物質科学研究科）、塩谷知弘（物理学類）、久喜奈保子（物理学類）、吉田正樹（物理学類）、木立佳里（物理学類）、平野勝大（物理学類）、古谷眸（物理学類）、小山亮平（物理学類）、佐々木さゆり（物理学類）、保科さや香（物理学類）、西川瑛海（地球学類）
 P：川勝望（数理工学物質系）

活動報告

活動成果

- 3月14日 ゲストと打ち合わせ
- 4月16日 ミーティング
- 4月20日 フレッシュマンセミナーにて宣伝
- 4月24日 ミーティング
- 5月1日 当日
- 5月2日 後片付け等
- 5月8日 反省会

宣伝期間が短かったにも関わらず100人を超える人数の人が学内・学外から集まった。

予想外の人数で教室が飽和状態になってしまい、すこし不快感を与えてしまったかも知れない。

このような対策を予め考えておく必要がある。

しかし「宇宙」をキーワードに人を集めると思ったより沢山の人が足を運んでくれることがわかったことはとても大きい収穫である。

当日の内容もお客さんが楽しめてもらえたようで、初めての試みとしては充分であろう。

今後も今回の反省を活かして行っていく予定である。

今後の課題

- ・人数が多すぎたせいで教室が暑くなってしまったこと。
- ・事前登録制をもっとしっかりできた。
- ・事前準備に関してはバタバタすることなく落ち着いてできた。
- ・当日音楽等の用意をしておけばよかった。
- ・一番肝心な場所がなかなか決まらなかったこと。次回は一番に改善したい。

経験者からのメッセージ

何もかもが初めての試みで、2ヶ月間準備・ミーティングをしましたが、案外成功するものです。大切なのはやろうという気持ちです。イベントが成功し、終わったときに味わった充実感・達成感はなかなかのものでした。今後も T-ACT にお世話になりながら活動を続けていくつもりです。

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者は宇宙好きの学生や大人の方でしたが、ディスカッションのときなど、子どものように楽しんでくださる方もいました。そのような参加者の顔を見れてとても嬉しかったです。また、運営を手伝ってくださった方々は、イベント開催の楽しさを実感できたらしく、目の色を変えていました。このような変化を見ることが出来てとても幸せでした。

T-ACT に関する感想

お菓子を置くためのシートとして宇宙の画像をラミネート加工して置いたのはすごくいいアイデアで、T-ACT でしかできないことだった。T-ACT でしかできないことは結構あって、とても助けになりました。ありがとうございました。



教育実習シェア会 (11083A)

T-ACT プランナー 下村 理愛 (教育研究科スクールリーダーシップ開発専攻)

活動内容

目的

「これから教育実習に行く人たちによりよい失敗をしてもらおう！」という目的のもと、教育実習の経験を先輩から後輩にシェアする場を作ります。経験をシェアするだけでなく、交流の場を設けて縦と横の教職のつながりも作りたいです。

問題意識

教育実習を終え、もっと高い気持ちで臨めばよかった、事前にこういうことを知っていればよかった…という気持ちがあります。大学での事前指導はありますが、教育実習の具体像ってイメージできたでしょうか。就職活動のOBOG訪問の様な、実際に経験してきた先輩の経験を聞くことは、今までありませんでした。

企画立案の経緯

以上の問題意識に基づき、教育実習も先輩から後輩に支援する場があってもいいのではないかと。また、後輩に同じ失敗を繰り返してもらいたくないという気持ちからイベントをしたいと思いました。広報に関して行き詰まりを感じているので、T-ACTの力を借りたいと思っています。

活動計画

- 3月
 - ・イベント内容の概略を作る
 - ・広報(事前指導)
 - ・メンバー集め
- 4月
 - ・広報(教職の授業)
 - ・イベント実施
- 4月末
 - ・来年度にもつながるように振り返りをし、データにまとめる

活動期間

平成24年3月1日～24年4月27日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：大澤明梨(社会学類)、稲垣謙治朗(体育専門学群)

P：唐木清志先生(人間系)

活動報告

活動成果

活動内容

- ・実施目的：教育実習経験者が参加予定者に自分の経験を語ることを通して、参加予定者がよりよい経験を教育実習で得られるようにする。また、スタッフ、参加者同士の教職のつながりを作り、より質の高い教育を志すきっかけを生み出す。

〔当日の流れ〕

- 第1部 全体シェア会 18:35～19:00
- 第2部 少人数シェア会 19:15～20:00
- 第3部 懇親会@百香亭 20:30～22:00

(1) 第1部について

目的：教育実習の大まかなイメージをもってもらう。

教育実習経験者3人がそれぞれ3つのテーマ(1日の流れ・授業・部活)に沿ってパワーポイントを使い、プレゼン形式で発表を行った。

《振り返り》

発表者にそれぞれのテーマに沿って話したことで内容に重複がなく進めることができた。企画段階での「参加者は何がわからないのかもわかっていない」という点を考慮し、気付きを伝えることを意図して内容を吟味できたことが参加者の満足度につながった。

(2) 第2部について

目的：教育実習の個々人の疑問や不安を解消する、参加者のつながりをつくる。

第2部では座談会形式を取り、10人の実習経験者を2人ずつ5グループに分け、その周りに参加者を集め、質問などを募った。参加者には、実習経験者の席の配置と簡単なプロフィールを記載したパンフレットを事前に配布し、それを参考に回ってもらった。

《振り返り》

第1部の発表、事前に配ったプロフィールの内容などから質問事項を持ち寄り、積極的に質問をする姿が見

られた。実習経験者は、教育実習手帳や思い出の寄せ書きなどを持ち寄り、臨場感のある質問の答え方をしていた。また一方的に質問を受けるだけでなく、そこから会話も引き出す事ができ、参加者同士で交流する場面が見られた。これから共に教職を目指していく仲間を得るという点で、とても良い機会ともなった。

(3) 第3部について

目的：第一部、第二部で聞き足りなかった事柄を、もっとフランクな雰囲気でも聞いてもらう。

第三部では懇親会として場所を百香亭に移し、参加者とスタッフで食事を囲んで行った。

《振り返り》

座談会よりもより少人数での会となったため、もっとフランクな雰囲気でも、実習そのものの雰囲気や研究授業での生徒や先生との反応など、多岐にわたる内容について伝える事が出来た。また、参加者同士も教員採用試験に向けて意識を高める会話をし、お互いの刺激にもなっていたようだ。

・参加者

参加者：計43名（1年：2人、2年：1人、3年：7人、4年：25人、M1：2人）

第3部では15名の生徒が参加した。

今後の課題

運営メンバーでの「参加者のつながりをつくる」という点で共通理解が低かったため、次回以降は更につなかりを作れるよう、意図を持って参加者と会話を作る必要性を感じた。また、運営に手一杯で話者の教育実習の振り返りが不十分だったので、事前に自己の実習を振り返っておく必要性も感じた。今回は、当日スタッフも合わせて全教科のスタッフを用意したが、更にバリエーションを充実させると参加者のニーズにも対応できたのではないとも考えられる。第2部は今後につながる改善点が多く挙げられたので来年にしっかり引き継ぎたい。

経験者からのメッセージ

T-ACT 申請をすれば宣伝も印刷もとてもスムーズにできました。先生方からの信頼も厚く、皆さんに暖かく応援していただけてとても甲斐を感じながら活動できますよ！当日使う名札やペンは T-ACT から借りたのですが、ペンを1本なくしてしまいました・・・後片付けのマニュアルみたいのも作っておくといいと思います！

運営者側から見たパーティシパントの変化

《運営メンバー》

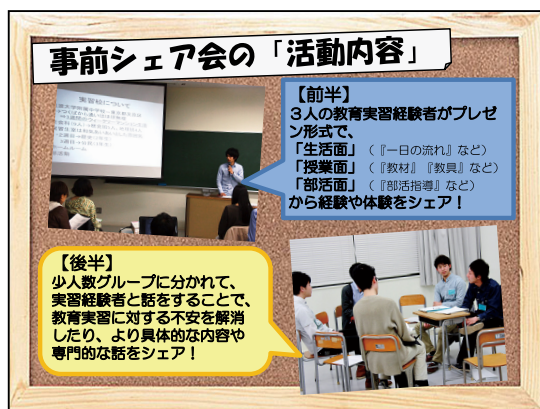
初対面のメンバーが多かったのですが、今ではみんなが集まるとおなかが痛いほど笑ってしまうくらいの仲良しです！メンバーの振り返りでほぼ全員が言っていたことに「教職のつながりができた。人とのつながりができた」という点がありました。

《イベント参加者》

教育実習に対してのやる気が増した、不安が減ったなどの感想を頂きました。また、教職の横と縦のつながりもできていることも印象的でした。

T-ACT に関する感想

本当に T-ACT があったおかげで運営がしやすかったです。欲を言えば・・・T-ACT 室にカラーバリエのある太い油性ペン、色画用紙があったら更に素敵♪



Tsukuba for 3.11 第三弾 (11084A)

T-ACT プランナー 水落 裕樹 (生命環境学群生物資源学類)

活動内容

これまで同様の企画「Tsukuba for 3.11」「Tsukuba for 3.11第二弾」にて、東日本大震災の被災地支援へのボランティアコーディネートや地域に根ざしたコミュニティ支援を行ってきました。今後とも大学とも連携しながら継続的に本活動を続けていきたいため、申請させていただきます。

活動計画

- 4月 ・団体再編、予算決定、花見等イベント
- 5月～ ・つくば、いわき(福島)、気仙沼(宮城)の3拠点を中心に、各種イベントや継続的なコミュニティ支援を行っていく。被災地入りは1月～2月に一度のペースで行う。新メンバー募集はイベントなどをきっかけに随時行っていく。
- 9月 ・団体体系・予算等見直し

活動期間

平成24年3月20日～24年9月20日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：小池綾(人文学類)、細田真萌(体育専門学群)、木村昌司(生命環境科学研究科)、木下拓耶(生物資源学類)、横田華奈(医学類) 藪下みき(人文学類)、山下裕之(心理学類)、櫻井史穂(生物資源学類)、中山靖子(生物資源学類)、中原萌里(人文学類)、藤間晶子(看護学類)、中山元樹(知識情報・図書館学類)、千葉友希子(国際総合学類)、新竹めぐみ(生物資源学類)、梶本杏子(生物資源学類)、兒玉拓巳(情報科学類)、加藤梨乃(社会学類)、片山美希(医療科学類)、相原奨之(体育専門学群)、吉田紳吾(体育専門学群)、平松真由美(国際総合学類)、春原若奈(地球学類)、木村奈那子(看護学類)、加藤早織(生物資源学類)、福井俊介(生物資源学類)

P：長谷川聖修(体育系)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 3月24日～25日 4月開催の「被災地のおいしいもの食べよう企画」のための現地視察@福島、宮城
- 4月3日 双葉町主婦の会と弁護士団による東電の補償問題に関する勉強会に参加
- 4月16日 並木公務員宿舎の福島避難民の皆さんとお花見会を開催
- 4月22日 学生カフェ ALDOR にて「上を向いて歩こうプロジェクト」の開催
- 4月23日 大学構内にて「被災地のおいしいもの食べよう」イベントの開催
- 4月29日 いわき中央台仮設でのお花見イベント協力
- 5月6日～ 北条地区での竜巻被害対応。メンバーによるボランティア参加、および大学や社会福祉協議会と連携して学生・市民への情報提供、ボランティア派遣のコーディネートなど。
- 5月17日 北条足湯チーム発足。以後、北条でのボランティアは足湯チームに発展的に移行。足湯&マッサージの出張企画を継続的に行っている。
- 5月24日 NHK 水戸生放送出演
- 5月26日 Youth for 3.11報告会にて活動報告
- 5月26日～27日 気仙沼スタディツアー
- 6月1日 第六回活動報告会
- 6月25日 福島避難民向けの学生新聞「つくしま」一刊発行
- 7月7日 学院大での福島の避難民との七夕会の企画および参加
- 7月9日 T-ACT 学内ボランティア団体報告会
- 7月21日 いわき市にて子供たちを招いた水泳教室開催(第一回)
- 7月29日 いわき市水泳教室(第二回)
- 8月3日 写真展関連の交流会の開催
- 8月5日 いわき市錦須賀海岸 BBQ にて「なこそ復興プロジェクト」のスタッフと交流
- 8月8日～10日 福島の子供たちを招きサマーキャンプ
- 8月12日 並木の双葉町連絡所にて夏祭り参加
- 9月4日～数週間 筑波大学構内(春日、医学、3学など)で写真展を行う
- 9月9日 気仙沼にて現地社会人サークル「気楽会」とスタディツアー
- 9月15日 カスミ陸前高田七夕まつりへの協力

以後、上半期活動まとめ及び学祭への出展準備

・目標達成度

代替りの激しい時期であったが、団体として当初危惧していた下級生の呼び込みと引き継ぎはOJT的に一定の成果をあげていると思う。また、震災の記憶が風化していき、ボランティアへの緊急的なニーズも減少していく中で、現地拠点であるいわき・気仙沼などのつながりを断つことなくスタディツアー、教育支援等の形で関わり続けられていることも評価できる。一方で、竜巻被害への対応時など、(局所的な災害であるため不用意な現地入りに慎重になる必要があったとはいえ)学生としての機動力を見せるべき場面で大人数の送り込みが鈍る部分も見られた。コーディネーターとしての機動力や火力を発揮できるよう、平時から綿密な準備が必要であると感じた。

・得られた成果

新たに陸前高田につながりを持つことができた。ボランティア新聞「つくしま」などで、新しいメンバーの活躍の場が広がった。

今後の課題

下級生のメンバー集め、今後の方向性の練り直し、ファンドレイジングなど。

経験者からのメッセージ

新しい企画でも、まずはとにかくやってみましょう！たぶん動けるメンバーが3人いればはじめは何とかなります。また、企画が軌道に乗ってからも、絶えずアイデアを出しつづけ進化を続けられるように(惰性にならないように)していくことが重要と思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

下級生は被災地に関わるだけでなく、こうした団体の運営に関わる経験自体が今まで少なかったと思われるため、非常に成長したと感じる。またその他のメンバーも、企画をやるごとにさまざまな発見があるようだ。

T-ACT に関する感想

物品を保管するためのスペースが切実に欲しいです！



希死回生～自殺予防のための啓発活動～ No.2 (11085A)

T-ACT プランナー 高橋 あすみ (人間学群心理学類)

活動内容

プロジェクトの最終目標は、筑波大学の学生、教職員に、自殺に対する問題意識を持つ機会を提供し、自殺に対する誤解や偏見を減らすこと。そして、自殺志願者、自殺者を生まない大学環境づくりに貢献することである。

No.1では、企画の広報と企画実施のためのメンバーを集めてミーティングを行い、今回の活動内容を決定した。

No.2では、最終目標へ向かうためのステップとして

- ・企画の知名度を上げる
- ・自殺予防に関して明るいイメージを持ってもらう
- ・自殺・自殺予防に関心を持ってもらう

の3つを目標とし、継続的な企画の広報とともに、「自殺予防のための啓発活動」をカタチにしていく。

以下には、No.1申請時に掲載した企画立案の経緯を載せる。

日本は自殺大国である。自殺の問題は「年間自殺者数が3万人を超える」ということだけではない。自殺志願者への自殺対策は、自殺対策基本法が定められてから徐々に進められているが、自殺に関する誤解や偏見は社会に根付いたままである印象を受ける。

「死にたいなら死ねばいいんじゃないの？」と考える人は多いと思う。私も以前は「自殺はひとつの生き方なのでは？」「生きるのが辛い人に生きろというのは酷じゃないの？」と考えていた。しかし、『自殺未遂～「生きたい」と「死にたい」の心理学 (高橋祥友、2004)』という本で、自殺は「さまざまな問題に圧倒され、『自殺』しか問題を解決する手段がないといった、いわば心理的視野狭窄の状態に追いやられた末に起こされた行動」という文面に衝撃を受けた。自殺はつまり、「死にたくて」死ぬのではないのだ。

実際、「死にたい」という思いを、「勝手に死ねばいい」「死にたいと言う人は自殺しない」などと言って見捨てたり突き放したりすることで、本当に失われる命が存在する。裏を返せば、専門的知識がなく何の術を持たない人でも、自殺志願者を理解し手を差し伸べるだけで、ひとつの命を救うことができるかもしれない。自殺対策は自殺の危険をはらんだ人や、それをサポートする専門家だけのものではない。自殺に関心のない人、自殺に嫌悪感のある人などが、自殺について正しい理解を持つことで、自殺志願者を排除する社会ではなく、支えられる社会にベクトルが向くのではないだろうか。

活動計画

- 4月 ・企画の広報開始・「自殺予防のための啓発」内容を考える
- 5月 ・自殺予防のための啓発開始
- 6月 ・上記の活動の継続的な実施・イベントの考案
- 7月 ・上記の活動の継続的な実施・イベントの考案

活動期間

平成24年4月1日～24年7月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：市川靖子 (心理学類)、岩岡寛海 (障害科学類)、渡邊唯 (人文学類)、東雄貴 (比較文化学類)、金井雅仁 (心理学類)、岡本雄太 (医学類)、皆吉智之 (人間総合科学研究科)

P：杉江征 (人間系)

活動報告

活動成果

・活動内容

*ミーティング (4月5日、4月25日、5月9日、5月16日、5月23日、5月30日、6月8日、6月13日、7月2日、7月3日、7月5日、7月9日、7月17日、7月22日、7月23日、7月30日、7月31日)

*オリジナル版自殺に関する認識テストの作成

*学園祭イベントの企画

*企画広報の継続

・目標達成度

No.2で掲げた3つの目標に沿って活動していたが、なかなか思うように具体的な啓発活動はできなかった。

しかし、自殺に関する認識テストのオリジナルを完成させるなど、希死回生としての目に見える活動の成果ができたので、メンバーの士気はそれほど下がらなかったと思う。また、プランナー個人がT-ACTの授業で広報をしたり、電子掲示板にスライドを流すなど、予定よりゆっくりのペースではあるが、目標に近づくことができた。

・得られた成果

先述のように、希死回生のオリジナル認識テストを完成させたこと。

また、メンバー同士の懇親ができたことで、メンバーの積極的な議論が進んだこと。
そのため、やりたいことがメンバーからそれぞれ生まれ、実現に向けて動き出したこと。

今後の課題

啓発活動において、自分たちの考えている視点だけでは足りなかったこと。ターゲットがいたとしても、ビラやポスターといった方法では対象を限ることはできないため、色々な人を見ることを想定しないとイケなかったが、その点が欠けていたため、準備したビラを配布するに至らなかった。

経験者からのメッセージ

プランナーは初めのうちは仕事を一人で抱えがちだと思うけど、メンバーと仕事、責任を分担した方が、効率も雰囲気もよく作業を進められる。リーダーはいかにメンバーに仕事を任せられるかが重要だと思うので、ひとりで突っ走ったりしないで、メンバーと定期的に目標の確認をしながら、みんなで地道にやるのが大切だと思うよ!!

運営者側から見たパーティシパントの変化

自殺について強い問題意識を持つメンバーが、ミーティングや掲示板などで率先して意見交流をし、他のメンバーも積極的な関わりが増えてきた。メンバー同士の壁が薄くなってきたため、自殺や活動についても、遠慮せずに意見交換できるようになってきたと思う。

T-ACT に関する感想

このT-ACTのページをもっと使いやすくしてほしい。
それ以外は満足です!



※TEL番号:11075A

T-ACT
つくばアクションプロジェクト

希死回生

～自殺予防のための啓発活動～

メンバー募集!

自殺に至る心的過程や自殺の実情を啓発することで
自殺志願者を見捨てる社会ではなく
自殺志願者を理解し支援していける機会を
大学の中からつくっていくという企画です。
「死にたいな」勝手に死ねばいいのに
あなたの家族や友人が死にたいと言っても
そう思いますか?

企画 HP
<https://www.t-act.tsukuba.ac.jp/tact/project/show/302>

連絡先
高橋あずみ (心理学類1年) s1110473@u.tsukuba.ac.jp

制作: GATAG: Free Photo 2.0 (http://www.photosgata.net/) 背景: LittleCrashBazaar

● 映画「それでも運命にイエスという。」上映会イベント（リターンズ）(12002A)

T-ACT プランナー 田中 宏明（人間学群心理学類）

● 活動内容

当イベントは、東日本大震災によって中止となった T-ACT 承認番号10052A の企画を、もう一度このつくばの地で行いたいというメンバーの想いにより、新たなメンバーと再出発した。カンボジアエイズドキュメンタリー映画「それでも運命にイエスという。」の日本一周上映会のコラボレーション企画として行う。辛く困難な状況に置かれたエイズ患者の姿を追ったこの映画の上映会とともに、自分たち独自のテーマに沿ったコンテンツを行うことで、自分の今の状況を受け入れ、「イエス」といえる自分であるかを参加者一人ひとりに問い直してもらい、今後の人生に意図を持って歩んでもらうキッカケを創る。

● 活動計画

4月中旬 ・ 広報開始
5月19日 ・ イベント開催

● 活動期間

平成24年4月1日～24年5月31日

● T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：堀下恭平（生物資源学類）、中居秀美（国際総合学類）、田川鮎美（心理学類）
P：首藤もと子（人文社会系）

活動報告

活動成果

活動内容

（3月中にプランナー3人によるミーティングを3回行った。）

4月4日 「それでも運命にイエスという。」視聴@ INSTEP LIGHT（下北沢）
4月10日 第4回ミーティング
4月18日 第5回ミーティング
4月25日 第6回ミーティング
5月2日 第7回ミーティング
5月12日 上映会イベントスタッフ懇親会
5月19日 「それでも運命にイエスという。」上映会@つくば
5月23日 上映会イベントスタッフ全体反省会
・4月に2回、5月に3回、宣伝のためのビラ配りを学内で行った。

目標達成度（その根拠も述べる）

集客数に関しては予想を上回る十分な人数の参加があったが、運営面では準備が不十分な面が多くあり、そこが今回は大きな反省点となった。イベントとしては参加者に満足していただけるものが作れたと思う。

得られた成果

「自分には縁がない」、「関係がない」と思われやすい国際協力を身近に考えてもらう場を参加者に提供することができた。WorldFut TSUKUBA、TABLE FOR TWO 筑波大学、STUDY FOR TWO 筑波大学支部の、国際協力に関わる3団体のメンバーが交流し、一緒に企画を作る機会を得ることができた。

今後の課題

- ・当日までのミーティングへのコミットがメンバーによって異なり、当日での動きが把握できていないメンバーもいた。スタッフメンバーの共通の認識を持つておくべきだった（服装の統一、待機位置など）。
- ・今回はミーティングの議事録の共有や進捗状況の把握を主に SNS 上で行ったが、情報を全体に行き届かせることができなかった。スタッフメンバーが直接顔を合わせて話し合う機会の重要性を感じた。
- ・準備期間が長かったので、スタッフメンバーが当日のイベントまでのモチベーションを維持することが難しかった。

経験者からのメッセージ

- ・情報共有は面と向かって話し合う場を設定した方がいいと思います。メンバーが大勢いるようであれば、何人か担当の中でリーダーを決め、そこからメンバー全員に連絡が行き届くように体制を作ることが重要です。

運営者側から見たパーティシパントの変化

- ・今回のイベントのテーマが「身近な行動で、世界は変えられる」であったが、講演者の葉田さん、小川さんのお話などのコンテンツを通して、身近な行動から生まれた幸せが繋がり、それが一つの国際協力に繋がるという認識を持ってもらえたと思う。

T-ACT に関する感想

当日までの準備では多くの面で T-ACT には協力していただきました。ありがとうございました。これからも学生の面白い企画を支援いただけたら幸いです。



● つくバグ2012～人と虫をつなぐ自然体験教室～ (12003A)

T-ACT プランナー 藏満 司夢 (生命環境学群生物学類)

活動内容

「昆虫採集」は古くから少年少女の多くが経験する遊びであり、自然との貴重な触れ合いの場であった。しかし、最近の子どもたちにとって昆虫採集は以前ほど身近なものではなくなりつつある。その原因として、人間活動によって自然そのものが少なくなっていることが指摘されているが、昆虫採集を経験した大人が少ないために、子どもたちにその機会やきっかけが与えられていないことも原因のひとつである。

子どもたちにとって「自然を体感する」ことは、彼らが環境問題や生物多様性問題を考えるために必要不可欠な経験である。自然を直接体感できる活動として、昆虫採集が挙げられる。そこで私たちは、2010年につくバグという団体を組織し、昆虫採集を通じた体験型の環境教育活動を行ってきた。この活動を継続することで、私たちは地域の子どもたちに自然との触れ合いの場を提供したい。この活動の最終目標は、子どもたちが昆虫採集を通して自然に対する興味や知識を獲得することと、将来の日本の環境問題を考えていくことのできる人材を育成することにある。

※この活動は「平成24年度筑波大学社会貢献プロジェクト」および「2012年度東京ガス環境おうえん基金」の支援を受けて行います。

活動計画

- 4月～ ・活動開始
- ・メンバー募集と週1度のミーティング
 (春の昆虫教室に向けた計画と準備)
- 5月13日 ・春の昆虫教室
- 5月～7月 ・2週間に1度のミーティング
 (夏の昆虫教室に向けた計画と準備)
- 7月中旬(予定) ・夏の昆虫教室
- 7月～9月 ・2週間に1度のミーティング
 (秋の昆虫展に向けた計画と準備)
- 10月6～8日 ・秋の昆虫展(学園祭)
- 10月末 ・活動終了
- ・今年度の活動報告書、収支報告書の作成

活動期間

平成24年4月1日～24年10月31日

T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 小嶋佑果(生物学類)、徳島賀彰(生物学類)、長澤亮(生物学類)、内海邑(生物学類)、加藤大智(生物学類)、小長谷達郎(生物学類)、高原朗(生物学類)、中村篤史(生物学類)、上原拓也(生命環境科学研究科)、佐野遥香(生物学類)

P: 本田洋(生命環境系)

活動報告

活動成果

1. 活動内容

地域の子供たちに昆虫採集を通して自然とのふれあいの場を提供することを目的に、昆虫観察教室と昆虫展を行った(活動の目的については企画ページ中の「詳細」の「活動内容」の項を参照)。活動内容は次の通り。

- 4/1 活動開始
- 4/1-5/12 週に一度のミーティング
- 5/13 春の昆虫教室
- 5/14-8/4 週に一度のミーティング
(7/9 第1回 T-ACT 活動報告会「つくろう! ボランティアコミュニティ」で活動報告)
(7/13 第1回社会貢献活動ポスター展示発表会で活動報告)
- 8/5 夏の昆虫観察会
- 8/6-10/5 週に一度のミーティング
- 10/6-8 秋の大昆虫展

2. 活動の詳細と得られた成果

1) 活動予算について

今年度の活動資金として、環境保全・環境教育に関連する活動に対する公募制の助成金である「2012年度東

京ガス感興おうえん基金」と、筑波大学内の社会貢献活動に対する助成金である「平成24年度筑波大学社会貢献プロジェクト」の2つに応募し、双方から予算を得ることができた。外部からの予算を得られることは、我々の活動に参加して下さる地域の子供たち（とそのご家族）や、運営する我々学生に対する金銭的な負担を軽減すると同時に、活動内容をより良いものにするために大きな効果があった。また、いずれの助成金も採択までに厳正な審査を行っているため、その結果採択されたという事実は我々の前年度までの活動と今年度の活動計画が客観的に評価されたことを意味していると考えており、励みになった。

2) 春の昆虫教室について

春の季節に昆虫教室を行うのは、つくバグ3年目にして初めての挑戦であった。「自然観察・昆虫の本格スケッチを研究者の卵が直接教えます」との副題を銘打って、つくば市及び周辺地域の小中学生を対象に参加者を募った。参加者は未就学児（保護者同伴）から中学3年生まで13名が集まり、新規参加者が半分近くを占めた。昆虫教室の内容としては、午前中に屋外（虹の広場）で生き物観察と昆虫採集を行い、午後は実験室内でスケッチを行った。屋外では、特に春らしい生き物に気づいてもらえるよう、適宜スタッフが探索のアドバイスを与えた。午後のスケッチでは年齢に応じたスケッチ方法を用意し、初心者や年少者には写真とトレーシングペーパーを使ったスケッチを、上級者や年長者には生体を見ながらケント紙にスケッチしてもらった。その際スタッフはスケッチのポイントや技術を適宜演示したり教えたりした。最後に、参加者のスケッチをスキャナでスキャンしてモニターに映し、スケッチした本人に解説してもらうことで、参加者同士で成果を共有してもらった。

3) 夏の昆虫教室について

夏の昆虫教室では、副題として「水辺の虫を観てみよう」というテーマを設定した。午前中はこれまでと同様に野外での生き物観察と昆虫採集を行ったのだが、これまでの観察会では探索対象が陸域に限られていたため、今回は新しく水域（天の川）を追加した。その結果ヤゴ（トンボの幼虫）やコオイムシといった水域特有の昆虫を発見する参加者が多くあられ、普段目にしにくい生物を観察する機会を提供できた。午後は室内で昆虫の乾燥標本の作製教室を行った。午前中に各々が採集した昆虫をそれぞれの形に応じた方法で標本化してもらった。なお、標本作成を開始する前に、生物を殺して標本化することの意味と価値についての説明の場を設けた。参加者は29名で過去最多の人数となった。学年は小1から中3まで幅広かった。

4) 秋の大昆虫展

『大昆虫博〜日本の虫大集合〜』と題し、筑波大学学園祭でブースを設けてつくバグの活動報告と昆虫標本・生体・生態写真の展示を行った。この企画は昆虫教室の対象となる子どもたちだけでなく、地域住民や筑波大生にも地域の昆虫を実際に目にしてもらうことで、身の回りの生き物に目を向け知っていただく機会を提供しようと考えて行ったものである。そのため展示した標本や生き虫はつくば周辺ものが多く集められ、身近に隠された多様性に気づいてもらえるようなものになるように心がけた。その結果として3日間合計で1,630名の方にご来場いただけたことから、たくさんの方に地域の昆虫の多様性や形態の不思議に触れていただけたと考えている。また、この企画は第38回筑波大学学園祭において参加者投票で最も多くの票を獲得した学内研究企画に贈られる「アカデミー賞」をいただいた。このことは我々の活動が多くの学生・一般の方々に評価していただけたことを意味し、励みとなった。

5) 活動の周知

つくバグの活動を広く周知するために、今年度は第1回T-ACT活動報告会、第1回社会貢献活動ポスター展示発表会の2つの発表会で活動報告を行った。また、ウェブページの充実を図り誰でもつくバグの活動を知ることができるようにするとともに、スタッフによるブログ運営を行いその中で地域の生き物紹介や昆虫にまつわるトピックの紹介を行った。さらに、学園祭では地域住民の方を中心とした一般の方々にも活動を紹介する場を設け、多くの方に関心を寄せてもらった。この時、近隣地域で環境活動などをおこなっているNPO法人の方々とも知り合い意見交換を行うこともできた。

大学、地域の外部に対する活動の周知としては、2011年度には第22回日本環境教育学会の活動報告部門で、つくバグの活動の報告を行った。ここでは学生だけで行う昆虫採集に特化した体験型環境教育活動の稀有な例として高い評価を受けた。今年度は当時よりさらに充実した内容の活動を行えたため、我々の活動をより広く知っていただけるように、2013年度に筑波大学で行われる日本生物教育学会でも活動の報告を行う予定である。これらの全国を対象にした集まりで我々の活動を報告することで、学生主体で行う体験型環境教育活動のモデルケースとして他地域、他組織での活動の参考とされることが期待される。

3. 目標達成度

昆虫教室終了後に参加者を対象に行ったアンケート調査の結果、参加者および同伴の保護者ともに「参加してよかった」「普段気づかないような虫を見つけられてよかった」等のポジティブな回答、評価が大部分であったことから、地域の子どもたちに昆虫採集を通して自然とのふれあいの場を提供するという目的は達成されたと考えている。また、今年度は春に初めて観察会を行ったこと、参加者の能力の差異に対して難易度の異なる複数の作業内容を用意して応じたこと、大学外部の資金を獲得したこと、余裕のある資金を基に通常よりも多い参加者を募集し実際に集められたことの4点が新しい試みであり、いずれも大筋で成功したと考えている。さらに、我々の活動を広く周知できたことも成果として考えている。

今後の課題

まず、昨年度末の時点でつくばぐらぶ内部で課題として挙がっていた3つの課題（①予算の獲得、②イベントの内容のマンネリ化の防止、③参加者の多様な年齢層への対応）について論ずる。今年度の活動においてはいずれの課題もある程度解決できたと考えている。①については「活動成果」の項で述べたように公募制の資金を獲得できたことで解決した。②については、スタッフとして新しいメンバーを迎えたことで新しいアイデアを導くことができた。③についてはこれも前述したように参加者の能力や年齢に応じた難易度の作業を用意したことでどの年齢の方にも楽しんでいただけたことができた。

次に新たに生じた課題についてだが、イベントの実施に関しては細かい反省点は多くあるとはいえ、逐一修正できており全体としては大きな問題はなかったと感じている。強いて言えば個々の負担軽減は今後も改善の余地が残る課題といえるだろう。これまでも負担軽減のために極力仕事を分担するようになってきたが、それでも仕事量に偏りが出ているのは事実だ。これはその仕事が得意かどうかで仕事を振っている結果生じている偏りだと考えられる。多少の効率の良し悪しには目をつぶりつつ、仕事や役割を分担することを考える必要があるのかもしれない。

経験者からのメッセージ

成功の鍵は信頼できる仲間を集めること！

あとは役割をしっかりと分担して仕事を抱え込まない、抱えこませない。

問題が生じたらみんなで共有する。

これだけでできればさっとうまくいきます。

運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントはつくばぐらぶの活動に初めて参加するスタッフが多かった。各イベントの企画、準備はプランナー、オーガナイザーを中心に行い、パーティシパントにはイベント当日に参加者（子どもたち）の安全管理や作業の準備を行ってもらった。この企画を通してパーティシパント自信も新しい生き物の観方を知ったのではないと思う。また、子どもたちそれらを教えることを体験できたのもよい機会になったようである。

企画終了後に「イベント当日の楽しい部分だけ参加してしまって申し訳なく感じた」という声もあり、当日だけ参加することは物足りなさを感じる方もいるかもしれない。しかし、このような活動の入り口としてパーティシパントとして参加し、その結果活動に対するやる気を高めることができればオーガナイザーとしてより深く関わっていく、というように段階を踏んでいただければ個人としても組織としてもモチベーションの維持につながると考えている。

T-ACT に関する感想

各種機器の利用や企画に関連するアドバイスなど、大変お世話になりました。ありがとうございました。今年度行われたシンポジウムや交流会は T-ACT 参加者同士の交流や自分たちの活動の周知もよい場になったと感じています。今後も同様の場を提供していただけたら嬉しいです。以下2点要望です。

- ・12/12のシンポジウムの際にも発言させていただきましたが、各種の助成金の紹介や助成金の応募に必要な申請書の書き方等の指導を T-ACT の先生方に行っていただけるとよいと思います。T-ACT の一部の企画は予算に問題を抱えているとの声をしばしば耳にしますがそのうちボランティアや社会貢献に関連するような活動をされているような一部の企画に関しては、各種助成金や筑波大の社会貢献プロジェクトの助成対象になると思われれます。そのような時に、前述のような案内や指導をいただければ資金の問題を解決するための一つの方法になるのではないのでしょうか。
- ・T-ACT の企画が使える物置のような場所が欲しいです。サークル等とは異なり特定の部屋を持つことができないので企画で管理する物品の置き場に困っています。ご検討いただけないでしょうか。



Wall Art Festival in India 2012報告会～アートの力で、持続可能な新しい支援の形～(12004A)

T-ACT プランナー 町田 紗記 (芸術専門学群美術学類)

活動内容

昨年度、筑波大学で実施された WAF 報告会に参加したことをきっかけに、私は今年行われた WAF2012 に参加しました。私が参加しただけでは、私の経験は個人の経験でしかありません。参加した人が他の誰かに伝えていくということを通じて、より多くの人たちにこのすばらしい芸術祭について知ってもらいたいと考えています。

「なぜ日本ではない、異国の地で芸術祭を開くのか」

「インドの教育事情や人々の暮らしはどういったものなのか」

開催理由をはじめ、数々の障壁を乗り越えての開催への道のり、フェスティバルまでのプロセス、さらにフェスティバル当日の様子などを、インド在住のスタッフを交えて伝えたいと思います。

アーティストや、私を含めたボランティアメンバーの参加や、メイキング映像、オフィシャルカメラマン・三村健二による写真パネルの展示も行います。

参考 URL : Wall Art Festival 公式 web サイト <http://wafes.net/>

活動計画

- 4 月 ・活動開始
 - ・メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- 5 月18日 ・報告会実施
 - (ゲストトーク、写真展などを予定)
- 5 月末 ・活動終了
 - ・メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

活動期間

平成24年4月2日～24年5月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O : 鈴木萌 (看護学類)、田中みさよ (芸術専門学群)、吉井玲香 (芸術専門学群)、中三川滯 (芸術専門学群)

P : 内藤定壽先生 (芸術系)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 4/2,12,17,22,5/2,9,16 ミーティング
- 4/18,5/11,16,17 生命支援室および学生生活課に申請
- 5/7,9,11,12,13,14,16,18 凧に夢を書いてもらうワークショップの実施
- 5/18 イベントの実施

・目標達成度

90% 理由は機材・準備の不足と、授業により開催時間が遅れて終了時間も遅れたためです。

・得られた成果

- ・いろいろな学部、東京などからも学外の人を呼び込めて、来ていただいた。来場者の学部は数学、芸専、看護、薬学、法学、資源、比文、人文、社会、地球、工シス、生命、医学、体専、教育、心理、国際、物理でした。学外の方は多摩美、学芸大、早稲田、つくば市、児童館、と遠方の方もわざわざ来てくれました。こんなに多様な人たちに参加していただけて、とてもうれしかったです。
- ・報告会終了後に学外で開催したアーティストとの交流会に、予想以上の多くの方が来てくれました。このような交流会の他、アーティストが実施した凧揚げや、報告会の中でダンサーと参加者が一緒にダンスをすることで、アーティストと聴衆の距離を縮めることができました。一緒にダンスをするときに、可動式の机・いすの教室を選んだおかげで、それら全てをはけて広いスペースで踊ることができ、とてもいい雰囲気をつくることができました。
- ・参加者の声として、WAF やインドに行きたいと言ってくれる人が出ました。今回の報告会のおかげで、来年の WAF への参加者が増える可能性をつくったことは大いに WAF のためになったと思います。参加希望者が出ただけでなく、この報告会を筑波大学で行い、様々な人に WAF を紹介することができたこともまた WAF のためになったと思います。
- ・報告会の開始を待っている人は、報告会会場で行っていた写真展やチャイで楽しむことができたと思います。
- ・時間の都合で報告会に出られない人でも、報告会の数時間前に行った凧揚げには参加でき、アーティストと交流することができました。

- ・チャイの香りが会場教室の外までしたこと、プランナーやオーガナイザーがインドの衣装を着たこと、フェスTシャツを着たことなど、よい雰囲気作りを行いました。
- ・芸術専門学群生などで、昨年筑波大学で実施した報告会に来てくれた人が今年もまた報告会に参加してくれました。
- ・週3回の凧ワークショップを行うことで、当日報告会に参加できない人も報告会に関わることができ、WAFへ興味を持つ人を増やすことができました。またワークショップは土日に **spice up cafe ALDOR** でも行うことができ、学外を巻き込みました。
- ・凧は全部で153枚、つまり153人分の夢を飛ばすことができました。つまり報告会参加者59人+150人で209人以上が参加した報告会になりました。こんなにとってもたくさんの人にWAF報告会に関わっていただけて、驚きもあり、それ以上に感謝しています。また参加者の感想の中には「私の夢を飛ばしてくれてありがとう」というものもありました。

今後の課題

- ・報告会会場での写真展を見る時間をもっと用意したかったです。先に会場には入れた人は見る時間がとれたと思いますが、開始時間ぎりぎりに来た人、受付の混雑に巻き込まれてしまった人は見る時間をほとんどとれなかったと思います。写真展で展示していた写真はどれもすばらしいもので、WAFを知る手がかりとなるものであったのに、写真を見るができない参加者を出してしまったことが、とても残念です。
- ・写真のキャプションが見づらかったという意見が参加者から出ました。
- ・プランナー、オーガナイザーが芸術専門学群生に偏っていたため、参加者の中では芸専生が多かったです。より多くの他学群の人に協力をおおぐことでより多くの芸専生以外の学生に来てもらうことができたとと思います。協力をおおぐだけでなく、学群ごとにWAFについて **push・強調?** するところを変えることも、参加者を増やす有効な手段として今後は考えていきたいです。また学外の人にもう少し来て欲しかったです。
- ・予想以上の参加者が出たため、飲食物の配布に手間取ったため、受付に時間がかかってしまいました。
- ・報告会の進行が少しだらだらとしてしまいましたが、アーティストの雰囲気を伝えるという点では成功したと思います。ひきしまった進行をしながら、アーティストの雰囲気を伝えられるような方法を探っていきたいです。
- ・せっかくアーティストに来ていただいたにもかかわらず、十分なアーティストトークの時間を取るできなかったと感じています。WAFのDVDを流しながらトークしてもらうなど、工夫した方が良かったと思います。また、報告会開始前に受付などでWAFと参加アーティストについての簡単な資料を配ることで、WAFとアーティストの紹介部分を短くでき、アーティストトークの時間を増やすことができるかもしれないと考えました。この資料は参加者が持ち帰り、インターネットによりさらに詳しい情報を得る手助けにもなると思います。

経験者からのメッセージ

- ・18:30からイベントをスタートする場合、6限の入っていない教室を選んだ方がいいです。授業が長引いたり、生徒の退出を待たなくてはならないので6限の入っている教室は18:00から使用できると思わないほうがいいと思います。6限の入っていない教室ならば、準備にきちんと時間がとれ、開始時間が遅れることはないと思います。
- ・スポーツデーなど学校公式の行事ではマイクなどの機器を大量に使用するため、学生生活課から借りられない物品も出てきます。そのため、できれば公式行事とは時期をずらしてイベントを開催した方がいいです。

運営者側から見たパーティシパントの変化

- ・インド、芸術、WAFへの関心が増したと思います。これは「インドやWAFへ行きたい」という声が出たことから分かります。
- ・参加者同士の交流ができたり、打ち解けたりすることができました。
- ・前述したように、アーティストとの交流ができました。

T-ACTに関する感想

- ・チャイの配布や凧上げの開催場所などに関して尽力していただけて、本当に嬉しく、助かりました。ありがとうございました。
- ・写真やチラシ、ポスターをたくさん印刷できて良かったです。
- ・活動許可証は使う機会がなかったので必要性をあまり感じませんでした。

● 雙峰祭 学内研究企画エリア拡充プロジェクト (12005A)

T-ACT プランナー 尾澤 岬 (数理物質科学研究科 (博士後期課程))

活動内容

筑波大学の強みは学術研究だと考えています。一方、筑波大学で最大のイベントは雙峰祭です。雙峰祭は筑波大学を外に向けてアピールする絶好のチャンスです。しかし昨今の雙峰祭では、焼きそば、フランクフルト、パフォーマンスなどの一般企画が企画の大多数を占め、学内研究企画はエリアの片隅で細々とやっているのが現状です。我々はこの現状を改善するため、雙峰祭を学術的に盛り上げようという本企画を立案しました。本企画は、大きく以下の二つを目標としたいと考えています。

- (i) 学内研究企画数の増加
- (ii) 雙峰祭当日の学内研究企画の質の向上

上記の目標に向かって計画的に活動を進め、雙峰祭のさらなる学術的な向上を目指したいと思います。

活動計画

- 4月下旬 ・活動開始 ミーティング等を行う。
- 5月上旬～5月下旬 ・学内研究企画宣伝、勧誘
 - ・学内研究企画に出店可能な団体、研究室をリストアップし、メールや訪問によって学内研究企画への参加を促す。
- 7月上旬～9月中旬 雙峰祭当日に向けた計画
 - ・学園祭実行委員と協力し、雙峰祭当日に学内研究企画が盛り上げる計画を立てる。学内に学内研究企画の宣伝のための掲示等を行いたい。また現在、学内研究企画専用のパンフレットをサイエンスビジュアルアライゼーションの研究室と共同で作成することを計画している。
 - ・10月中旬 活動終了 報告書の作成等を行う。

活動期間

平成24年4月23日～24年10月19日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：田口真彦 (数理物質科学研究科)、平良希望 (芸術専門学群)、船戸龍 (数理物質科学研究科)、寺部佑基 (数理物質科学研究科)、上道茜 (システム情報工学研究科)、秋山茉莉花 (生命環境科学研究科)、阿部義和 (システム情報工学研究科)、天野千恵 (生命環境科学研究科)、有元よしの (図書館情報メディア研究科)、角谷雄哉 (人間総合科学研究科)、小林正和 (数理物質科学研究科)、肖程峰 (システム情報工学研究科)、善甫啓一 (システム情報工学研究科)、野沢健人 (知識情報・図書館学類)、埴生孝慈 (図書館情報メディア研究科)、本多健太郎 (人間総合科学研究科)、松原悠 (教育学類)、赤瀬直子 (人間総合科学研究科)、川島裕嗣 (数理物質科学研究科)
- P：土子昇 (学生部学生生活課)

活動報告

活動成果

[1] 活動内容

- ・4月6日 ミーティング
 - ・今年の目標の設定。①学研企画数を増やす、②学研企画に特化したパンフレットの作成
- ・4月13日 学園祭実行委員会との会議。
 - ・学園祭実行委員会との目標の共有。
- ・4月20日 ミーティング
 - ・学研企画宣伝の手段について協議。案内メール、チラシの作成を決定。
- ・4月27日 ミーティング
 - ・案内メールの文面、チラシのデザインについて協議。
- ・5月4日 学生生活課でのチラシの印刷
- ・5月7日 チラシの本学教員への配布
 - ・学園祭実行委員と協力し、本学教員へのメールボックスへ学研企画への案内とチラシを投入。
- ・5月18日 ミーティング
- ・5月25日 ミーティング
 - ・学研企画に特化した、学研パンフレットの内容について議論。
- ・6月8日 学園祭実行委員会との会議
- ・6月15日 ミーティング
 - ・学研パンフレット作成までの流れを議論。
- ・7月3日 学研パンフ案内配布
 - ・実委主催の第一回企画団体連絡会議にて学研パンフへの参加案内を配布。
- ・7月27日 ミーティング
- ・7月31日 学研パンフレット原稿提出締切
 - ・39企画が学研パンフに参加を表明。その後、約一カ月にわたり、各企画と原稿の修正等についてのやり取りを行う。
- ・8月15日 ミーティング

学研パンフの印刷枚数、印刷場所、配布形態等を議論。表紙カラー、中身白黒を決定。

- ・9月6日 学研パンフ印刷
表紙を T-ACT で、中身を就職課で印刷。同時に製本作業も行う。
- ・9月10日 Web 上での公開
学研パンフを Web 上で公開した。また、SNS 等を利用して、学研企画の宣伝を行った。
- ・9月28日 学園祭実行委員会との会議
学園祭当日の配布場所の議論。学研企画エリアである、第二エリア案内所での配布を決定。
- ・10月5日 学園祭準備
学研パンフの製本したものを学園祭実行委員会の案内所まで運搬。
- ・10月6、7、8日 学園祭当日
定期的に学研パンフの配布状況を観察。
- ・10月12日 反省会
今回の成果、今後の課題等を議論。

[2] 企画概要

私たちは、つくば院生ネットワーク設立以来、学園祭における学術的な雰囲気拡充を目指してきました。そのために今年度は、学研企画数の増加を最初の課題として掲げ、学内の研究室や研究機関等に学研企画の周知と参加への案内を行いました。また、学園祭当日に来場者が積極的に学研企画へ訪れることで、学研企画エリアにさらなる活気生まれることを目指し、「学研企画パンフレット」を作成しました。学研企画パンフレットは、学園祭実行委員が作成するパンフレットとは異なり、学術的な企画のみにフォーカスすることで、学園祭実行委員のパンフレットでは紙数の都合上で伝えきれない、筑波大学らしい学術性豊かな学園祭の側面を紹介するものです。

[3] 成果

つくば院生ネットワーク設立前の2010年度の学研企画数は31企画でした。つくば院生ネットワーク設立後、学研企画の拡充を目標に掲げ、学内での学研企画の周知を行った結果、2011年度は44企画に増加することに成功しました。そして本年度においては T-ACT に本企画「学内研究企画エリア拡充プロジェクト」を申請し、学研企画数のさらなる向上と同時に、学研パンフレットを配布することで学園祭当日の学研エリアを活気づけることを目指しました。結果、2012年度は学研企画数が49企画とさらに向上させることに成功しました。注目すべきことに、学園祭実行委員会による企画のカテゴリ分けの都合上、学研企画とカウントされなかったステージ企画、一般企画においても新規な学術的企画が数多く見受けられました。特に、「院生プレゼンバトル」、「アストロカフェ」、「TEDxTsukuba」等は、ステージ企画、一般企画とカウントされながらも筑波大学の学園祭に新たな学術的な風を送り込む、大変素晴らしい企画でした。学研パンフレットの方でも大きな反響がありました。学園祭当日に配布する前に SNS 等を通じて Web 上で公開を行っていましたが、非常に多くのアクセス数を獲得し、学園祭前から数多くの人に学研企画に注目してもらうことに成功しました。また、当日配布用として印刷したものを1000部用意しましたが、当日案内所ではすぐに無くなってしまふなど大変好評でした。配布を手伝ってくれた学園祭実行委員会の方からも、もっと部数があればよかったのという意見をいただきました。さらに、当日の学内研究企画エリアでは、配布した学研パンフレットを片手に持ちながら学研企画を巡る来場者の姿が数多くみられ、学研企画への来場者数を上げることに寄与できたと考えています。以上、本 T-ACT 企画「学内研究企画エリア拡充プロジェクト」を遂行することによって、学園祭における学内研究企画の学術的な雰囲気を拡充することに貢献できたと考えています。

今後の課題

今後も学園祭における学術的風土を拡充していくに当たり、いくつか課題が見つかった。一つ目は、学研企画出展側のメリットである。学園祭において企画を出展するということは、かなりの時間的な浪費を伴い、研究生生活で忙しい教員、大学院生にとって何らかのメリットがなければ出展に気が向かないと考えられる。現在のところ、学研企画に出展している企画は、研究成果や科学的な知識を広く一般の人々に広めることの意義を感じ、出展を決めている団体が多いようである。彼らのような団体の他にも、さらに学研企画が増えるためには、学研企画に出展すると来場者からのフィードバックの獲得や、効果的な研究内容の宣伝ができるような仕組みが必要だと感じている。二つ目は、学園祭実行委員会との関係である。数多くの企画を束ね、また学園祭成功に向けて日々活動している彼らの仕事量は尋常ではなく、人数的にも限界に達している。そんな中、本企画、学内研究エリア拡充プロジェクトの流れで、様々な提案を学園祭実行委員会側にしてきた。実質、今回は成功を収めたと考えているが、多くの負担を学園祭実行委員会にかけてしまったと考えている。学類生と大学院生という立場上の違いが、威圧的になってしまった感も否めない。対等な立場でやりとりできるように今後気を付けていきたい。

経験者からのメッセージ

筑波大学という最良の学び舎で大きく羽ばたいてください！

運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントは学園祭に訪れた来場者と捉えます。来場者は例年よりも学術的な魅力を増した学園祭を楽しんで頂けたと考えています。実際、私たちが作成した学研パンフレットを見ながら学研企画エリアを巡る来場者が数多くみられ、来場者たちは学研企画を存分に味わうことができたのではないかと考えています。

T-ACT に関する感想

いつも大変お世話になっております。T-ACT のノートパソコンがいつも調子悪いように思います。多くの人が使ってデータがたまっていたり、無理に使用して負荷がかかっているのだと思います。初期化する等の対処をするとよいと思いました。

EXCHANGE ～海外体験～第2弾 (12006A)

T-ACT プランナー 加藤 遥平 (社会・国際学群国際総合学類)

活動内容

2011年度に筑波大学では、54カ国・地域の大学・機関と229協定が締結されており、研究者、学生交流を行っています。特に学生交流を含む協定は203協定あり、全部で629人分あります。しかし、その多くの協定枠が使われていない、その存在自体知られていないという状況にあります。大きな原因の一つは情報が公開されていないことにあります。

「知っていたら留学していたかも」

「気付いたら、遅かった」

という学生達の声に代表されるように交換留学に関する情報は、一般の学生からはアクセスしづらい状況にあります。また交換留学に限らず、学生が海外でチャレンジする方法（私費留学、ワーキングホリデー、インターシップ、世界一周など）はいくらでもあります。大学を介していないため、まとまった情報は多くありません。つまり、海外に行くことを志した所から、さらに一歩二歩積極的に動かなければ、情報を入手できない状況にあります（入手出来たとしても、それが適切ではないために問題が生じる場合もあります）。また海外でチャレンジする手段を決め、準備を進めていく上でも様々な障壁があります。特に交換留学は手続きが複雑で時間がかかる反面、全てのプロセスを理解している人が少なく、情報も公開されていないため、多くの人が何らかの形で必要以上に苦労しています。チャレンジを終えた後も、海外生活経験者には多くの困難が待っています。交換留学なら互換手続き、休学をした学生は復学手続きが必要となります。就活や進学準備も周りの学生と比べ、遅く始めたり短い時間で取り組んだりする必要が出てきます。こういった問題に対処するには、情報のストックと共有が必要だと思えます。そこで、浮かんだアイデアが、University of Tsukuba International Community (UTIC) というネットワークを作ることです。このネットワークを通じて経験者の知識・情報をストックし、海外でチャレンジする学生を応援します。また経験の共有を通じ、互いに学び刺激し合えるような、そんな環境を提供するのもUTICの目的の一つです。2011年度の活動を引き継ぎ、以下の活動を実施していきたいと思えます。

- Facebook 上での情報の共有、交流イベントの開催
- 学期に1～2回の海外生活経験者報告会（海外生活体験フェア）
- 毎週1回のランチ会
- HP、ブログ、SNSを通じて上記の活動の広報

以上の活動を通じて、経験者と海外に行きたい学生の結びつきを強めていきたいと思えます。具体的な目標は、2012年度の終わりまでにFacebook上の参加メンバーを現在の250人から、500人に増やしていくことです。

活動計画

- 4月
 - ・その他国際系団体とのコラボイベント
 - ・海外生活体験フェア① *留学経験者5人のプレゼンと経験者との交流会
 - ・海外チャレンジ特集冊子の発行
 - ・毎週一回、ランチ会（4～3月まで長期休暇を除き、毎月）
 - *お昼休みに留学、海外インターン、ボランティア、ワーキングホリデー、旅などに興味のある学生で集まって、交流。
- 6月
 - ・HOW TO 海外チャレンジ①
 - 留学、海外インターン、ボランティア、ワーキングホリデー、旅に興味のある学生であつまり、それぞれのメリット、デメリットを考えながら、計画を立てる。
 - ・海外生活体験フェア②
 - ・ランチ会
- 9月
 - ・海外生活体験フェア③
- 10月
 - ・HOW TO 海外チャレンジ②
 - 10月以降は、9月までの活動の継続と新規イベントの企画運営

活動期間

平成24年4月25日～24年10月25日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：中本佳宏（生命環境科学研究科）、荒川優（体育専門学群卒業生）、松原由佳（生物資源学類卒業生）、沖田翔吾（国際総合学類）、鎌田豪（比較文化学類）、建部祥世（日本語・日本文学学類）、藤田綾（国際総合学類）
P：吉武博通（ビジネスサイエンス系）

活動報告

活動成果

【ミーティング】

- 週1回：月曜日から木曜日

- 常時 Facebook のグループ上で情報交換。

【開催イベント・企画】

- ・ 情報誌【Global Exchange ～ A Life Changing Experience ～】の発行。
海外経験者のインタビュー、国内での国際交流情報を掲載。学内の食堂や図書館に設置。
- ・ 5月21日ランチ会①を実施。
海外渡航から帰って来た学生、これから行きたい学生がランチを食べながら情報交換。16名が参加。
- ・ 5月22日海外生活体験フェア①を実施。
海外渡航から帰って来た学生の報告会。32名が参加。
- ・ 6月5日ランチ会②を実施。
海外渡航から帰って来た学生、これから行きたい学生がランチを食べながら情報交換。30名が参加（ランチ会では過去最多）。
- ・ 9月13日秋の海外生活体験フェアを実施。
海外渡航から帰って来た学生の報告会。過去最高の63名が参加。
- ・ 9月17日ランチ会③を実施。
海外渡航から帰って来た学生、これから行きたい学生がランチを食べながら情報交換。15名が参加。
- ・ 10月9日ランチ会④を実施。
海外渡航から帰って来た学生、これから行きたい学生がランチを食べながら情報交換。15名が参加。
- ・ 10月23日ランチ会⑤を実施。
海外渡航から帰って来た学生、これから行きたい学生がランチを食べながら情報交換。15名が参加。
- ・ 10月21日～11月2日カウンセリングウィークの実施
海外渡航に行きたい学生と経験者を UTIC が引き合わせて、個別相談を行った。15名をカウンセリング。

【目標達成度】

前年度までのイベントに加えて、雑誌の発行やカウンセリングウィークの実施、Website の運用等、新しい活動に取り組むことができ、また一つ一つのイベントの内容や参加者の数も改善できた。よって、達成度は90%。

【得られた成果】

- ・ Facebook グループのメンバー数が420人。
（1年前から370人、今年4月から170人増加）
- ・ 4月から UTIC Website の運営開始。ブログ開始。
（ブログ更新時のアクセスは約100）

今後の課題

- ・ 広報の充実
SNS に頼りがちだった広報を改善したい。今後は授業前告知やメールを重視したい。9月のイベントで試した結果、満員の60名の参加者を集めることができたので、今後は更に力を入れたい。
- ・ メンバーの構成と引き継ぎ
団体の活動内容からして（海外渡航を経験した人が、後輩のために活動する）、どうしても3～4年生が中心になってしまふ。なるべく、1～2年生で、これから海外に行きたい学生にも入ってもらいたい。また引き継ぎは、上の代が卒論等で忙しくなる前（11月前）には終えておきたい。

経験者からのメッセージ

チームを組んで活動をする意義は、「1人では出来ないことに取り組むから」だと思います。団体の大小に限らず、どの団体も活動する上で「人」の問題に悩むことが多いですが、その課題を乗り越えてこそ、団体の力を発揮することが出来るはずです。

コミュニケーションを大切にして、協力して最後まで活動をやり遂げて下さい。

運営者側から見たパーティシパントの変化

「海外チャレンジ」がハードルの高いものだと思ひこんだり、準備が大変だと不安になっている参加者が多かったが、現実を知ることによって不安になったり、焦ったりせず、準備に望めているように見える。

また、諦めかけていた参加者は、渡航に向けて準備する姿は、渡航経験者にとっても刺激になっている。

T-ACT に関する感想

T-ACT って何？をテーマにプランナーなどと協力して学期に1回説明会イベントをすると良いと思います。まだまだ、存在や使い方を知らない学生がいるので。



ACTIVITY

●ランチ会

“経験者との気兼ねな交流、情報交換の場”



●海外生活体験フェア

“海外渡航経験者の思いを伝え引き継ぐ場”



● チャリティーコンサート (12009A)

T-ACT プランナー 岩上 恵理子 (社会・国際学群国際総合学類)

活動内容

チャリティーコンサートを開催し、海外の発展途上国への支援金を集めるとともに、飢餓・貧困問題に対する啓発活動を行う。

活動計画

- 3月 ・コンセプトの設定
・グループ分け (演出・広報・渉外)
- 4月 ・グループ内の仕事分担の決定
・出演団体決定
・ポスター、ピラなどの作成
・プレスリリースの申し込み
- 5月 ・出演団体への説明会
・広告取り
・スライドなどの制作
- 6月 ・パンフレット、広告冊子の作成
・スライドの確認、推敲
・学内・学外への広報
- 7月5日 ・リハーサル
14日 ・本番

活動期間

平成24年3月1日～24年7月14日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：後藤真美 (国際総合学類)、金奈由 (国際総合学類)

P：亀山啓輔 (システム情報系)

活動報告

活動成果

・活動内容

全体ミーティング

4月～7月毎週日曜日 9時から

広報班ミーティング

5月～7月毎週水曜日 6限

演出班ミーティング

5月～7月毎週木曜日 昼休み

5月27日 出演者説明会

7月5日 リハーサル

7月13日 当日準備

7月14日 当日

・目標達成度

80パーセント

支援金額、集客数共に目標には少しおよばなかったが、多くの来場者から飢餓・貧困問題について考えることができた、飢餓・貧困問題について知ることができたという声をいただくことができたため。また多くの来場者がチャリティーコンサートを楽しんでくれたため。

支援金額84,112円 (目標は100,000円であった)

来場者数75人 (目標は80人であった)

今後の課題

世界食糧デー月間

STANDUP TAKE ACTION への参加

チャリティーコンサートの継続開催

経験者からのメッセージ

今回 T-ACT への参加は初めてだったので、初めは参加するのにはどうしたらいいのか、参加するとどのよう

なメリットがあるのかなど、分からないことだらけでした。しかし実際参加してみると、T-ACT フォーラムの方が指導して下さるので、困ることはありませんでした。またまわりに相談できる人が増えたという面で、よりイベント運営がしやすくなりました。やってみたいと思ったら T-ACT フォーラムに行ってみてください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

イベントを進めていく中で、グループ内の団結が強まったように思います。特に入ってきたばかりの一年生にとってはこれが初めての大きいイベントだったので、やりがいを感じるという意味でいい経験になったのではないかと思います。

また来場者としてのパーティシパントにとってもこのイベントは飢餓・貧困問題について考える良い機会だったのではないかと思います。

T-ACT に関する感想

T-ACT へのプランナーとしての参加は今回が初めてでしたが、T-ACT フォーラムの方が丁寧に指導して下さいだったので、心強かったです。

筑波大学マイクロボランティア応援プロジェクト T-microACT II (12010A)

T-ACT プランナー 三津石 智巳 (図書館情報メディア研究科)

活動内容

マイクロボランティアは、授業の休み時間やバスでの移動時間など、いつでもどこでも気が向いた時にツイッターやスマホを使ってちょっとだけ活動に参加できる新しいボランティアの形態です。筑波大学マイクロボランティア応援プロジェクト T-microACT では、このマイクロボランティアによって筑波大学の様々な問題を解決することを目的としています。これを実現するために、筑波大学マイクロボランティア登録・活動サイト「Crowd4U」を作成しました。このサイトは、大学での問題解決をみんなに手伝って欲しい人や、簡単なボランティアを通じて大学をよりよくしたい人のどちらも支援します。Crowd4U を使うことで、わずか数分で誰かの役に立つことができますし、簡単に皆の力で大きな事ができます。

筑波大学マイクロボランティア登録・活動サイト Crowd4U

<http://crowd4u.slis.tsukuba.ac.jp/>

これまでに、T-microACT ではマイクロボランティア登録・活動サイト Crowd4U を使うことによって、新入生や在学生のために、筑波大学の行事カレンダーの作成と筑波大学の学食メニュー一覧の作成を行いました。作成した情報は新入生向け情報サイト cro-ver で公開しています。

新入生向け情報サイト cro-ver

<http://ut-info.kc.tsukuba.ac.jp/>

第二期となる今回の企画では、ひきつづきマイクロボランティアの仕組みを使って、筑波大学をよりよくするための活動を継続していきます。また、ボランティアのアイデアを募集し、その実現を T-microACT で支援していくことを考えています。さらに、オーガナイザ、パートナーとして参加する方も募集しています。

将来的には筑波大学内の問題に限定しない各種問題解決（震災復興など）への筑波大生による社会貢献を目指しています。

本プロジェクトは、クラウドソーシング技術の研究との連携を行っており、論文の一部として統計情報を公開することがあります。

活動計画

- 5月～6月 ・Crowd4U の改善
- 7月 ・マイクロボランティアプロジェクト 1 開始：図書館と連携したプロジェクトを予定
- 8月 ・マイクロボランティアプロジェクト 2 開始：他大学と連携したプロジェクトを予定
- 9月 ・マイクロボランティアプロジェクト 3 開始：募集したアイデアを参考にプロジェクトを決定する予定
- 10月 ・報告書まとめ

活動期間

平成24年5月1日～24年10月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：青木秀人（図書館情報メディア研究科）、中野伸吾（図書館情報メディア研究科）、野沢健人（知識情報・図書館学類）

P：天笠俊之（システム情報系）、逸村裕（図書館情報メディア系）、宇陀則彦（図書館情報メディア系）、阪口哲男（図書館情報メディア系）、杉本重雄（図書館情報メディア系）、永森光晴（図書館情報メディア系）、西岡貞一（図書館情報メディア系）、松村敦（図書館情報メディア系）、森嶋厚行（図書館情報メディア系）

活動報告

活動成果

・活動内容

概要

マイクロボランティアは、授業の休み時間やバスでの移動時間など、いつでもどこでも気が向いた時にツイッターやスマホを使ってちょっとだけ活動に参加できる新しいボランティアの形態です。筑波大学マイクロボランティア応援プロジェクト T-microACT では、このマイクロボランティアによって筑波大学の様々な問題を解決することを目的としています。これを実現するために、筑波大学マイクロボランティア登録・活動サイト「Crowd4U」を作成しました。このサイトは、大学での問題解決をみんなに手伝って欲しい人や、簡単なボランティアを通じて大学をよりよくしたい人のどちらも支援します。Crowd4U を使うことで、わずか数分で誰かの役に立つことができますし、簡単に皆の力で大きな事ができます。

筑波大学マイクロボランティア登録・活動サイト Crowd4U (2012年4月時点)

<http://crowd4u.org/>

※2012年12月現在は、マイクロボランティアに限定せず、震災復興など各種問題解決に全国の大学が貢献するためのプラットフォームになっています。

これまでに、T-microACTではマイクロボランティア登録・活動サイト Crowd4Uを使うことによって、新入生や在学生のために、筑波大学の行事カレンダーの作成と筑波大学の学食メニュー一覧の作成を行いました。作成した情報は筑波大学お役立ち情報サイト cro-ver で公開しています。

筑波大学お役立ち情報サイト cro-ver
<http://ut-info.kc.tsukuba.ac.jp/>

第二期となる今回の企画では、これまでの活動を外部に発表すること、筑波大学内の問題に限定しない各種問題解決（震災復興など）への筑波大生による社会貢献を実現していくための準備を行うことを目的に活動しました。

・活動内容の詳細

活動期間中の具体的な活動内容は以下の通りです。

2012年5月：第二期活動にあたり、各種法的な問題に対する解決策を考えるために法律相談を実施

2012年5月～7月：Crowd4Uの改善

2012年7月～10月：Crowd4Uの広報活動、会議での報告のための論文作成

→2012年12月現在の協力者の一覧を <http://crowd4u.org/collaborators.ja> で公開しています。

2012年12月：大学 ICT 推進協議会2012年度年次大会一般セッションにて活動の報告

→ <http://axies.jp/ja/conf/2012/program/general-session>

※12月の報告は T-ACT 活動終了後の期間だが、関連する活動であるためここに記載しています。

・目標達成度

当初の目標は全て達成することができました。

・得られた成果

T-microACTとしてのボランティア募集は8月末まで行いました。2012年8月31日時点までに T-microACTのボランティアとして登録された総数は108名でした。内訳を次に示します。

学類生43

大学院生32

教職員6

その他・不明27

合計108

※「その他・不明」が27名存在するのは、所属情報の入力が必要なためです。T-microACTでマイクロボランティア活動を行った期間中に行われたマイクロボランティアの総作業数は1010回でした。

大学 ICT 推進協議会2012年度年次大会において、これまでの活動を対外的に発表することができました。

今後の課題

筑波大学内の問題に限定しない各種問題解決（震災復興など）への筑波大生による社会貢献を実現。

経験者からのメッセージ

研究活動にも T-ACT は協力していただけます。ぜひ、様々な人の協力が必要な研究活動をしている方は、T-ACT を積極的に利用してみてください。

T-ACT に関する感想

本当にありがとうございました。



Omochi Language club (12011A)

T-ACT プランナー 中島 隆伸 (体育専門学群)

活動内容

筑波大学には数多くの国際交流サークルが存在しますが、その多くが英語を主体としたものです。英語を交流の原点に置いてしまっただけでは、その組織自体が固定化、特定の人たちだけのサークルになってしまうのではないのでしょうか。その問題を解決しようと思いました。Omochi Language club は決して英語と日本語の会話サークルなのではなく、韓国語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語、あらゆる国の言葉が飛び交うものにしたいです。初めの一時間、留学生がその留学生の母国語を習いたい人に、会話、テキストを通して教えてあげ、次の一時間は、最初の時間に教えてもらった人が、その人の母国語を教える時間に設定します。語学交換をするわけです。基本的には最初の一時間目は、留学生の言葉を勉強します。次の時間は日本語を留学生に教えるという形をとります。語学交換は希望では週1回の頻度で行えればいいと考えてます。ただ語学交換が真の目的ではなく、語学交換を通して、日本に来ている留学生、学生の交流の発展につながるようになっていきたいです。

As you know, there are a lot of English communication clubs in Tsukuba university but the almost member of those are from English countries and people who can speak English well and who want to study it. In this situation, what happens is that the member is .. I mean the club can't have new winds from other culture and people.. etc. I want you guys to have fun with not only people who is from English countries, even if we can not speak English. That's why I organize this Omochi language club. We are going to have two hours class for Exchange language. First one hour exchange students or people who are from overseas teach us their own language, another hour Japanese students teach Japanese to them. But it is not defined, if you have any suggestion, please let me know because the purpose is not exchange language, not learning languages. I want you guys to be good friends and have fun through this club so we are going to organize other events like picnic, dinner, karaoke, party... I hope we have the class one a week but if someone wants and organize it, we can have classes anytime. Thanks cheers Takanobu

活動計画

- 4月 ・活動開始
- ・メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- 4月～8月 ・活動の継続させつつ、メンバー集め。
- 9月末 ・活動終了
- ・メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

活動期間

平成24年4月20日～24年10月20日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：小池徹（社会学類）、真栄力（物理学類）、臼田初穂（化学類）、坂井誠（体育専門学群）、相原拓馬（生物学類）、金雄基（日本語・日本文化学類）、榊原敬治（物理学類）、宿进杰（生物学類）、谷田部遼（体育専門学群）
P：吉原ゆかり（人文社会系）

活動報告

活動成果

・活動内容

毎週金曜日に自分たちの母国語を教えあう45分の語学交換のクラスを行う。

扱う言語は日本語、韓国語、中国語、英語、ドイツ語、フランス語、アラビア語、ベトナム語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、etc.. 参加する留学生による。

クラスの形式は基本的にはグループでの会話を主体としたもの。←楽しさなくして学びなし。

会話のトピックはなんでも。政治、恋愛、お金、歴史、町、食事、etc.

グループのメンバーは週によって異なる。

クラス後はみんなで晩御飯を食べに行く。ここではグループは関係なく、みんなでおしゃべりを楽しむ。

週末などにはみんなでイベントを行ったり、他の団体のイベントに参加する。

・創立理念

友達のいない留学生生活は考えられない。学べることに限りがある。

筑波大学には英語や中国語を勉強する団体はたくさんある。

しかしこれではメンバーが固定される。また文化や言葉の壁を超えられない。

一生の友達をつくる。母国に帰ってもつながっていられる。

語学を通じた交流。

一緒にご飯を食べる仲間。時間をともにする仲間。
せっかく授業で習ったことを実際の会話で活かせる。

・目標達成度

この Omochi Language Club の目標としては①語学交換の交流を通して一生の友達をつくる、②留学生に日本のことを好きになってもらう、③みんなが楽しむ の3つがある。これは上記の創立理念と同じ考えかたである。

1 学期においては①80% ②75% ③85%

理由はパーティシパントの人数が20名弱であったため一人ひとりと深い関係になれた。また多くの留学生が「Omochiのおかげでたくさんの友達ができ」「毎週の Omochi の活動でみんなと会えるのが楽しみ」「日本にまた戻ってきて、みんなと会いたい」と言ってくれていた。またこれは留学生だけでなく、日本人学生も同じことを言ってくれていた。ただ実際には一回だけの参加で、それ以降は参加してくれていないパーティシパントの方もいるので、まだまだ100%とは言いきれていない。

2 学期においては①40% ②60% ③70%

理由はまだ2学期の活動を開始して、1カ月しかたつておらず、活動自体も3回程度しかおこなえていない。よってまだ評価するには値しないと考える。けれど、全体のパーティシパントの人数は平均で40人を超え、一部のパーティシパント、1学期からの継続のパーティシパントとはすごく深く交流で来ていて、この流れを大きくしていければいいと考える。

・得られた成果

語学は楽しんでこそ学べる。実際に友達と会話することによって、もっと彼らのことをわかりたいという気持ちが生まれ、そのことによって学習意欲が増す。

学んでいる国の語学だけでなく、文化や歴史まで学べ、また自国のことを考える機会となる。

活動外での交流が生まれる。具体的には料理大会など。

参加してくれている仲間が Omochi Language Club によって日本での留学生活を楽しんでくれた。また日本にきて、会いたいと言ってくれた。

国際交流という考え方の崩壊。以前は筑波大学にはたくさんの留学生がいるから、ぜひ彼らと国際交流したと考えていたが、Omochi の仲間と話しているときには全くもって「自分は国際交流している。グローバルな人間だ」とは感じていない。ただ友達と一緒にいるという感じである。このことにより国際交流の定義がはっきりした。

今後の課題

文化的背景や考え方がまったく違うメンバーの個性をより活かせる方法を考えたい。

定期的に来てくれるメンバーに運営を手伝ってもらおう。

一人ひとりに役割。よって友達が友達を誘えるように一人ひとりが楽しめるような活動。

口コミによる宣伝。ポスターなどは作らないにする。

オーガナイザーにもっと役割を与え、パーティシパントとの積極的な交流がもっと生まれるようにしたい。

経験者からのメッセージ

プランナーはまず自分から積極的に行動を。

パーティシパントはプランナーの行動を常に見ている。

行動に裏付けされた指示を。

行動に裏付けられた信頼を。

自分がしたくないことは仲間に頼まない。

信頼がすべて。

運営者側から見たパーティシパントの変化

始まったばかりの頃はみんな友達同士で集まっていて、こちらから話しかけないとなにもアクションが起こらない状態であったが、活動を進めるにつれて、みんなからも積極的な意見が出たりなどし、活動自体を楽しんでくれていた。また2学期からは1学期から継続的に来てくれているパーティシパントは積極的にクラスのオーガナイズに回ってくれるようになった。また自分から積極的に新しいパーティシパントに話かけてくれるようになり、すごく助かっている。みんなが助け合って運営している Omochi Language Club になった。

T-ACT に関する感想

T-ACT の掲示板をもっと有効活用し、各個人でポスターや宣伝活動をしなくても、T-ACT の掲示板に情報を載せるだけで人が集まるようになれば、プランナーももっと積極的に活動できるのではないかと考えます。



東日本大震災の被災地とともに歩むボランティア活動～今後につなげる被災地支援～ (12012A)

T-ACT プランナー 宮本 匠 (人間総合科学研究科)

活動内容

東日本大震災における大学生のボランティアというと各大学で企画を考えて学生を集めて仮設や祭りで楽しくイベントを行い、その時だけの関わりというのが王道のパターンとして多くの学生団体で行われています。

しかし、現地の人を求める事は現地に行かなければわかりません。そこで自分たちの活動は、現地に足しげく通い、地元住民の方や現地で活動している方とつながり、そこで生まれるニーズなどに対応や津波により失なった畑や仙台平野の特徴的な景観である屋敷林(居久根)の再生などを通して、東北とともに歩む活動をして行きたいと思います。

活動計画

東日本大震災による大津波で甚大な被害を受けた宮城県亶理郡山元町。この町は沿岸地域に居住区を持っていたが、そこを9月まで立入制限になっていて、ボランティア活動も遅れ、他の地域に比べ復興スピードは遅れている。この地域を復興させるために、自分にできる事、自分の仲間と共にできる事を精いっぱい行い、山元町の人たちが心から笑顔になれるような活動をしていきたい。

具体的な活動例

・家屋の解体

波をかぶってしまったお宅の泥を出し、場合によっては壁や床を綺麗にはがして、家を直す時に業者からの請求を1円でも安くして家主さんの負担をできるだけ減らしていく。

・畑の瓦礫撤去

行政でも畑の瓦礫撤去を行ってくれるのだが、それは商業用の畑のみで家庭菜園は適応外である。しかし、山元町は仙台平野に位置し、各家庭に大きな面積の家庭菜園を持っている。そのような家庭菜園をおじいちゃん・おばあちゃんが地道に瓦礫撤去を行っている光景をよく目にするので、そこをボランティアがお手伝いして、少しでも早く畑を復活させて、生活に緑をもたらし、より充実した生活をできるようにサポートする。

・塩害被害にあった屋敷林の伐採・植樹

仙台平野の景観の一つとして家屋の周りがあるたくさんの屋敷林(居久根(いぐね))である。その居久根も塩を被ってしまい、そのままにしておくと腐って倒れてしまい、家屋に倒れる可能性もありとても危険である。その居久根を伐採するだけでは、今までの景観がなく寂しくなってしまう、気分も落ちてしまうだろう。なので、そこに杉や松、桜などの木を植えて、昔ながらの景観に戻し、街に元気を取り戻す。

・山元いちご復活

山元町では農家の9割近くがイチゴ農家をしており、たくさんのビニールハウスが並んでいた。しかし、津波により多くのハウスが流されてしまい、昨年は何もできなかった方が多くいた。そのため今年こそはと思い、ハウスをたていちご復活に欠ける方は多くいる。その方のお手伝い(ハウス組み立て、井戸掘り、瓦礫撤去)を行い、山元町の名産物を復活させ、街に元気を取り戻す。

・お寺再生プロジェクト

山元町でのボランティアの拠点とさせてもらっている普門寺(海岸線から800mに位置する)は、流木が本堂を突き刺し、墓石は倒れ、当初はお寺を閉鎖しようと考えていた。そのお寺も今では少しずつ再生は進み、木々も増え、お寺らしくなってきた。しかし、まだ以前のような憩いの場としての機能は果たせていないので、みんなが集まれるような庭を作ったり、ベンチを作ったり、木をたくさん植えたりして、少しでも多くの方の憩いの場となり、山元町の復興の為のシンボルとなるようにしていきたい。またお寺では地域を盛り上げるために定期的にイベントを行っていく。そのサポートをボランティアが行い、街を元気にし、その様子を外に発信していく。

活動期間

平成24年5月1日～24年11月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 横田華奈(医学類)、高田圭祐(体育専門学群)

P: 奈良隆章(体育系)

活動報告

活動成果

活動内容

活動日時

活動場所

〈4月 活動日数：22日〉

4月1日～11日

山元町おてら災害ボランティアセンター

4月13日～16日

同 上

4月20日～22日 日本財団災害支援センター@石巻市
 4月27日～30日 山元町おてら災害ボランティアセンター

主な活動

活動拠点とさせていっている宮城県山元町おてら災害ボランティアセンターのある普門寺にてお寺の再生プロジェクト。解体を予定していたお宅から窓枠をいただいたり（今後普門寺の庫裡の再生のときに使用）、庭木をいただき普門寺の敷地内に移植などをさせていただきました。

《5月 活動日数：28日》

5月3日～5日 日本財団災害支援センター@山元町
 5月7日～25日 つくば市北条地区竜巻災害
 ※平日の活動は授業の空き時間や放課後の短時間での活動
 5月26日～27日 山元町おてら災害ボランティアセンター
 5月28日～31日 つくば市北条地区竜巻災害

主な活動

5月6日に発生した北条地区の竜巻災害。今まで東北の災害救援に関わってきた中でできた学外の仲間が県外（宮城・新潟・栃木・埼玉・兵庫）より応援に駆けつけてくれ、学内の仲間とともに活動。飛散した瓦などの瓦礫の撤去や屋根のブルーシート張り。また、筑波大生とともに足湯ボランティアや、他団体や筑波大学硬式野球部に対し現場コーディネートなどさせていただきました。

《6月 活動日数：14日》

6月2日～3日 つくば市北条竜巻災害
 6月8日～11日、13日 同 上
 6月16日～17日 岩手県大船渡市社会福祉協議会
 6月18日～19日 日本財団災害支援センター@女川町
 6月22日、24日 つくば市北条地区竜巻災害
 6月30日～翌月 山元町おてら災害ボランティアセンター

主な活動

5月に引き続き北条地区の竜巻災害現場での活動。主に竜巻により全体的になぎ倒された竹やぶの皆伐。一般で来るボランティアはほとんどいなくなり、必要に応じて学内外の他団体などと協力して活動。また、大船渡社協へ家の解体作業の応援や、女川町へ漁業支援で土俵積みなどさせていただきました。

《7月 活動日数：16日》

前月～7月3日 山元町おてら災害ボランティアセンター
 7月5日 つくば市北条地区竜巻災害
 7月7日～7月11日 山元町おてら災害ボランティアセンター
 7月13日～7月18日 同 上
 7月25日、7月26日 つくば市北条地区竜巻災害
 7月28日～7月30日 山元町おてら災害ボランティアセンター

主な活動

北条地区の竜巻災害の現場が落ち着いてきたので、山元町での活動がメインとなりました。この時期は学生などの大人数の団体が多く来ていたので、現場コーディネートをすることが多く、団体の来ない平日は少人数で普門寺の再生のお手伝いをさせていただきました。

《8月 活動日数：23日》

8月1日、8月2日 つくば市北条地区竜巻災害
 8月4日、8月5日 山元町おてら災害ボランティアセンター
 8月7日 つくば市北条地区竜巻災害
 8月8日、8月9日 山元町おてら災害ボランティアセンター
 8月10日～8月12日 国際ボランティア学生協会（IVUSA）応援@東松島
 8月13日～8月21日 山元町おてら災害ボランティアセンター
 8月25日～8月28日 同 上

主な活動

活動拠点とさせていっている普門寺でお盆の法要があるため、お寺の再生を中心とした活動。また、震災前は毎年恒例だった地区の盆踊り大会が震災後初めて開催され、そのお手伝いとして、縁日や大くじ引き大会の景品の準備などさせていただきました。

《9月 活動日数：10日》

9月1日、9月2日 山元町おてら災害ボランティアセンター
 9月7日～9月9日 同 上
 9月17日 つくば市北条地区竜巻災害
 9月22日、9月23日 山元町おてら災害ボランティアセンター

9月29日、9月30日 同 上

主な活動

山元町では夏の間は暑くて少しずつしかできなかった作業が増え、津波による塩害の被害で枯れてしまった木々の伐採作業や、その木を再利用してのベンチ作りなどやらせていただいた。また、北条地区でも竜巻被害にあった木を再利用させていただいて、斜面に階段を作ったり、ベンチを作り設置させていただきました。

※土曜日に山元町にいる場合は、住民による復興支援の会である「山元町震災復興土曜日の会」の定例会に参加。
・目標達成度

70%

日ごろの宮城での活動の目的として、活動地域の復旧・復興は1番である。また、その活動を通して自分自身が成長をし、今後の起きてしまうであろう災害において、今よりも一歩進んだ救援活動をする。特に地元での災害の時に、率先して活動するという事を頭において活動してきた。

5月6日に発生した北条地区の竜巻災害では、自分の住んでいる地域での災害ということもあり、現場を歩きまわり、地元の人に話しかけながら情報を集め、全国から集まった仲間を現場につなぐコーディネーターができたことは、とても評価できる点である。それに、この災害を通して、支援の幅が広がったこと。また、地域の人とたくさんコミュニケーションをとって、地域に根付いた活動ができた。

しかし、災害支援という活動をしていたにもかかわらず、日ごろから地元での災害を想定できていなかったことが反省点である。

また、山元町での活動でも、地域の人との交流はよくできて、多くの人とコミュニケーションをとることはできたが、もう一歩進んだ支援を自発的にできなかったことが今後の課題である。

今後の課題

今年の夏は暑くて外での活動は思うように進まなかったのだが、山元町では片づけなければならないものが多く残っているので、少しでも早くきれいにしてあげて、住民の方の心の負担を取り除いてあげたい。

経験者からのメッセージ

支援をしたいという気持ちの前に、支援をしたいと思う対象の方の気持ちや現状をよく考え、双方向にとって望まれる支援をすることが大切。そうするためには、たくさん足を運んで心を通わせること。

運営者側から見たパーティシパントの変化

初めて参加する方にとっては、災害ということ自体、ニュースの中でしか知らないもので、とても衝撃的だが、身体的な支援活動でも精神的な支援活動でも、ただ実行するのではなく、そこにある現地の方の想いや、一緒に活動する人の想いなど、たくさんの人の想いに触れて、小さなことでも周囲を思いやる心が芽生えていると思う。

T-ACT に関する感想

いつも優しいサポートありがとうございます。



カササギ KASASAGI ～東北とぼくらの架け橋を～ (12014A)

T-ACT プランナー 藤原 宣也 (生命環境科学研究科)

活動内容

2011年3月11日、東日本大震災が起きました。私は震災後3月中に自転車で一週間かけ、北茨城、福島、仙台に立ち寄りながら宮城県南三陸町へと行きました。

そこに広がる光景はあまりに悲惨で衝撃的なもので、その瞬間東北へ長期にわたりかわっていく覚悟を決めました。

そこから三ヶ月間、避難所に常駐し様々な形で支援活動を行いました。

七月に帰ってきてからは関東と東北をつなぐ役割としてさらに一步すすんだ継続的な支援を行っています。

七夕で彦星と織姫をつなぐ架け橋をつくったカササギのようにつくばや関東の学生や市民と東北をつなぎ有機的な支援活動ができればと考えています。

活動計画

< 藤原が関わっている案件に関してお手伝いを募集します >

- ・南三陸町平成の森仮設自治会長渡部氏の依頼である南三陸塩害杉(津波により被災し、建材としては使えなくなってしまった杉)をプロダクトデザインし、加工、販売を請け負う。デザインはデザイナーにまかせるが、加工は現地のできる方向へ持って行く。木材加工のため特殊な機械がいくつか必要になってくるがプロダクトが決まってから支援を募る。現在群馬相老の佐藤経木工場にて浜松で活動中のKIZARA プロジェクト代表、松下政経塾30期卒業生石井真人氏の協力のもと経木を使った製品を考案中。2011年12月に経木生産を辞めてしまった工場より機械を提供してもらう予定。震災前に南三陸で経木を作っていた記録はなく、全く新しい産業として期待される。経木の材料となる塩害杉は南三陸町渡部重一氏に提供してもらう。

→<お手伝い内容>つくば市内もしくは近郊のお祭りやイベントと一緒に売ってくれる売り子のボランティアを募集します!南三陸や雄勝の乾物などを扱ったりするので、美味しいものを食べたりもするかも!また、製品の加工も一部つくばで行います、手仕事ですが、物作りが好きな方はお手伝いしてください!また、南三陸の皆さんがお仕事しやすいように現地へも行ってお手伝いしましょう!新製品に関してはみなさんの声も聞かせて下さい。

- ・同仮設住宅において現在わかめの養殖事業が終わり仕事を失ってしまう仮設住宅のお母さんたちに手仕事を提供する。多少の利益と交流の場を生む。

→<お手伝い内容>現地のお母さんたちは若者のパワーを求めています!時々現地の作業場へ行ってお手伝いしましょう!南三陸を第二の故郷に!

- ・石巻雄勝町の硯石をつかったプロダクトデザインを行う。本企画は東京都恵比寿のショップとタイアップしており、ここのショップの外観の木仕上げデザイン、製作をデザイナーと共同で請け負うことにより全面的な協力を仰ぐ。ショップの外観の材は会津渡辺材木店の端材もしくは南三陸杉を使う予定。

→<お手伝い内容>カッコいいデザイン作りにみなさんの意見を取り入れたいです!

- ・こうして作った商品を筑波大学内もしくは筑波大学周辺において紹介していく。石巻雄勝町、南三陸町の海産物(クロソイ、アイナメ、カレイ、タコ、カキ、ワカメ)や登米市の米(ひとめぼれ)などを料理し、学内もしくは学校周辺で食べながら交流する企画も予定している。

→<お手伝い内容>フリーマーケットやものづくり市などで復興支援ブースが設けられています。つくばにおいても販売の手伝いや市民のみなさんへの協力を呼び掛けてみましょう!また筑波大学内もしくは近辺でみんなで海産物を調理し、現地の美味しいものを食べながらもっと東北の事を知りましょう!

- ・また五月後半には石巻牡鹿へオシカハウス建設予定。つくば市内の元渡辺建設代表渡辺章氏とともに牡鹿半島へオシカハウスを建設。これは牡鹿半島のお母さんグループ「マーマメイド」が現地で弁当屋を開始するためドイツ企業からの支援と、また魚網を使ったアクセサリ魚網ミサンガの売上を使い行われるものである。

→<お手伝い内容>オシカハウスの建設を見学してみましょう。またオシカハウス建設後は様々なイベントが求められます。僕達のアイデアで盛り上げましょう!

6月～8月

上記事業の継続、拡大が主となる。オシカハウス、平成の森、雄勝の現地視察を行う。また7/14,15,16に雄勝町にて祭りが行われ、私が神輿職人である祖父と作り2011年11/19,20でとりおこなわれた復興市にてあがった神輿がまた上がることになる。そこへ向けた喜ばれる企画を現地の方とともに考えたい。またつくばからも多くの学生が参加できるように体制を調える。

→<お手伝い内容>お祭りの時は是非つくばから大勢で盛り上げに行きましょう!!つくばで作られた神輿を雄勝で上げましょう、お祭りには若い力が必要です!さらに季節が変わればちがった海産物や山菜も食べれるようになるのでそれを調理、試食しながらの現地支援も継続していく。

9月末 活動終了

メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめ、継続的でさらに深い支援の形を考えていく。

活動期間

平成24年5月1日～24年9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：濱村拓巳（生物資源学類）

P：矢沢真人（人文社会系）

活動報告

活動成果

- 5月 雄勝の食材を使った食事会を開催。ソイ、アイナメ、カレイなどの地魚は関東でも珍しく、参加者は新鮮な食材とともに雄勝の現状を知るきっかけになった。
- 7月 石巻市牡鹿地区、鮎川浜にほっぼら食堂を建設する手伝いを行った。約一ヶ月間の工期で施工を含めた手伝いを行い、現地の方との交流を深めた。現在はお弁当屋として現地の浜のお母さん達の仕事場となっている。
- 7月14、15日 石巻市雄勝地区にて藤原が製作した神輿を上げる祭りに参加。新入生を含めた学生も参加し、復興祭を盛り上げた。
- 8月4日 雄勝より南高橋頼母商店代表高橋頼雄氏が来筑。つくばみらい市商工会主催の復興祭への出店を手伝った。

南三陸町へ静岡島田市から経木機械搬出。つくば市の樹宝の手伝いで機会取り外し、運送、設置を行った。

目標達成度は80%。

被災地での活動は予定通りに行かないことが多く、困難もあるが少しづつ成果を上げて行った手応えがありまた今後につながる縁を深めることが出来たため80%の達成度とする。

今後の課題

被災地での活動は学生の枠の中では動ききれずたくさんのスペシャリストの協力が必要でありカネ、ヒト、モノすべての充実が不可欠となる。さらにトラブルに対応する能力や考える力、さらに現地の期待を背負う責任もある。ひとつひとつを丁寧にこなさなければ前へ進めないため、一步一步確実に行かなければならない。さらにこれからは自分の右腕となってくれる人材を見つけて行くことが必要となる。

経験者からのメッセージ

信じて、一歩前へ！

運営者側から見たパーティシパントの変化

現地へ連れて行くことしかできなかったが、ただ行くだけでなく、現地の人と協力して何かを成し遂げ、また深く交流することにより多くの学びがあったように感じる。漠然と被災地のために何かしたいと思う人は多いが、実際に道を提示することで具体的な行動に移して行っているように感じた。

T-ACT に関する感想

たくさんお世話になり本当にありがとうございました。また今後もよろしくおねがいたします。

● 日本の難民問題への取り組みを通じた多文化共生社会の構築 (12015A)

T-ACT プランナー 本村 健一郎 (社会・国際学群国際総合学類)

活動内容

「難民」という一見、遠い存在に見える人たち。その人たちと実際に会って活動していくことで、実は遠くない身近な存在として、人と人のつながりや楽しさを感じよう！！

活動計画

(活動具体例)

継続的な活動のため、特に限定された活動期間は設けておりません。

- ・ 東日本入国管理センターへの面会訪問活動
- ⇒現在は週に1度、牛久市にある東日本入国管理センターを訪問し、実際にそこに収容されている方々と面会しています。会って話をしていく中で、相手を元気づけたり逆にこちらが元気づけられたりと、様々な経験をしています。
- ・ 被収容者への日本語尾サポート活動
- ⇒主に収容所にいる人々に対して、日本語の練習教材を差し入れたり、オリジナルの日本についてのコラムを差し入れたりして、日本語の勉強のサポートを行っています。
- ・ 難民申請にかかる翻訳活動
- ⇒私たちが関わっているすべての人々が難民というわけではありませんが、難民の人々は日本で難民として認定してもらうためには、その証拠書類を提出しなければなりません。その書類が端的に言えば、日本語で提出されなければならないという決まりがあります。その書類の翻訳の手伝いをしています。
- ・ 各種イベントの立案
- ⇒これら様々な活動を通して学んだことを外部発信したりするイベントの企画をします。昨年、一昨年と「難民交流会」と題して一般の方と CLOVER がお世話になっている外国人の方々をお呼びして、交流したり難民問題について学ぶ場を設けました。そのほかほかの団体との共同開催などにも参加します。
- ・ 各種媒体を用いた情報の発信
- ⇒現在 CLOVER では、ブログ (<http://cloveryouth.blog109.fc2.com/>)
Facebook (<http://www.facebook.com/CLOVERyouth>)
Twitter: @clover_youth
HP: 作成中
を用いて、活動報告や各種イベント情報を発信しています。

活動期間

平成24年4月1日～24年9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 富澤麻琴 (国際総合学類)

P: 明石純一 (人文社会系)

活動報告

活動成果

- ・ 活動内容
- －ミーティング－
- ・ 全体ミーティング
- 4/10.17.26
- 5/2.8.16.22.30
- 6/4.13.19.27
- 9/4.12.16.26
- ・ 各チームミーティング：約一週間に一度開催
- －面会活動－
- 計28回訪問
- －翻訳件数－
- 18件 (2012年4月～2012年9月)
- －日本語サポート－
- 約50名近くの人に対して教材の差し入れを実施 (4月～9月期)
- －その他－
- 4月

社会貢献プロジェクト採択

世界のご飯会開催 (2012_04_19)

CLOVER 文サ連仮加盟承認

外部学生団体「プロテア」説明会参加 (2012_04_21)

翻訳家高野昇さんにお会いし、翻訳指導を受ける (2012_04_28)

5月

本新歓実施 (2012_05_11)

アムネスティ日本難民チーム主催セミナー～難民から学ぶ世界と日本～ (2012_05_12)

筑波大学小野正樹先生にアドバイスをいただく for 日本語サポチーム (2012_05_28)

6月

CLOVER の銀行口座開設 (ゆうちょ) (2012_06_04)

アムネスティ日本難民チーム主催セミナー～難民から学ぶ世界と日本～ (2012_06_23)

7月

難民フットサル大会ボランティア参加 (2012_07_01)

アムネスティ日本難民チーム主催セミナー～難民から学ぶ世界と日本～

8月

合宿 (2012_08_30~31)

9月

勉強会実施 (2012_09_11&22)

※22のみ外部ゲストに山村淳平先生 (港町診療所医師)

・目標達成度

○難民申請者及び牛久被收容者に対して

上記のとおり、約28回 (ほぼ毎週のペース) で牛久收容所に面会に行くことができた。

毎週のとゆみない、継続した面会活動は被收容者の方々との信頼関係を気づいていくうえでは大切なことだと考えており、その観点から十分にその目標は達成できたのではないかと。今後は、回数だけではなく、一度一度の面会に関しても、大切に目の前の人を想いやる気持ちを持ちながら面会に臨めるとより良いものになると思う。

○広報面に関して

活動の一つに、難民問題や收容所問題の啓発活動があるが、現在はそれらを FACEBOOK 等の SNS を用いて発信している。不定期ではあるものの、いくつかの情報を外部に発信していくことができた。現在、団体の HP も作成途中であるので、そちらも完成し次第、有効に活用できるようにしていきたいと思う。

・得られた成果

評価基準がなかなか定めにくいのが、普段の活動をしていて数々のお褒めの言葉をいただく。その点では普段から充実した活動ができているのではないだろうか。

今後の課題

僕たちの活動は、牛久の難民・外国人の方々がいてこそ初めて成り立つ活動だと思います。その意味で、彼らの協力を深く感謝するとともに、「彼らのために何ができるのか」という視点を決して忘れず、一つ一つの活動をたゆみなく行っていくことが大切だと思います。

その中で、一つ一つの活動の楽しさや面白さを後代に伝えていくこともこれから普遍的に大切になっていくのではなんでしょうか。

経験者からのメッセージ

大きなことより、小さな、実のあるものを結実させるように努力したほうがやっていて気持ちが良いような気がします。僕はそうでしたよ。

運営者側から見たパーティシパントの変化

日を経るごとに、問題や活動への理解も深まり、各々がこのような活動をしたというリクエストが上がるようになり、自主性が高まってきたように思われます。

同時に、繰り返しの中で行われる活動のために、時に参加者の活動が緩くなったりするときもあるので、一つ一つの活動を大事にしていけるように呼びかけることが大事だと思います。

T-ACT に関する感想

今回の T-ACT への参加は、社会貢献プロジェクトのとの兼ね合いで入ることになったのもあり、T-ACT の理解不足から、(良い意味で) T-ACT の資源を有効活用することができなかった。

今後は、T-ACT の力をより有効に借りて、更に自分たちの活動を深化させていきたいと思っています。

● ステキな大学職員と、お世話になりっぱなしの学生との懇親会第2回(12019A)

T-ACT プランナー 坂東 隆宏 (理工学群応用理工学類)

活動内容

学生の生活環境は、大学職員の方々のサポートで成り立っている。授業・就職活動・サークル活動など、大学生活は職員の方々に支えられているといっても過言ではない。このことから、学生・職員の間には活発な交流が行われ、相互理解がより深まることで、学生の生活環境はよりよくなると考えられる。

しかし、現状では学生・職員間で十分なコミュニケーションが取れているとは言い難い。本懇親会は、この現状を改善するアイデアを出すために行いたい。本懇親会で出たアイデアの内、実現可能なものは積極的に行動に移す予定である。参加人数は、職員10名程度、学生20名程度とする。

活動計画

- 5月 活動開始
T-ACTの承認を得ることができ次第、広報開始。
懇親会に向けて、職員・学生を招待する。
懇親会の内容を確定させる。
- 6月 懇親会に向けて、シミュレーション等を行う。
引き続き、職員・学生を招待する。
- 6月19日(火) 懇談会実施。教室は3A209を予定。
報告書の作成を行う。

活動期間

平成24年5月20日～24年6月19日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：永見総一郎（図書館情報メディア研究科）

P：加賀信広（人文社会系、学生生活支援室）

活動報告

活動成果

・活動内容

6月19日

懇親会実施予定であったが、台風による天候不良のため中止。

・目標達成度

懇親会自体の実施ができなかったため、目標は一切達成できなかったと判断している。

今後の課題

痛感した課題としては、参加者を集めることである。職員側の参加者は容易に確定するができたが、学生側の参加者を集めることに苦勞した。広報は事前に行っていたが、その効果はほとんどなかったと言える。

経験者からのメッセージ

広報戦略を練ってから広報にあたるとよいと思う。広報の方法はいろいろあるが、それぞれ効果が違う。効果を十分検討したうえで、どの広報手段が一番適切か考えてもらいたい。

「エコステーション」活動に参加してみようⅡ～多忙な人向け・所要時間5秒?～(12020A)

T-ACT プランナー 本多 広樹 (生命環境学群地球学類)

活動内容

筑波大学を「エコキャンパス」に、つくばを「エコシティ」にしていくためには、学生・教職員問わず、学内構成員1人1人の心がけと活動の積み重ねと継続が必要です。1人でも多くの方に、「エコステーション」の存在に気づき、また活動に携わることで、自分たちの手で大学や地域を良くできることを実感してもらいたいと考えています。今回の活動では、学内各所のごみ集積場にて集められているペットボトルのキャップとラベルを外す活動を行います。この活動を通し、リサイクルの質を向上させるとともに、分別の意識を普段の生活の中で持つようになってもらいたいと考えています。

活動計画

現在ペットボトルの回収を行っているリサイクル業者の回収に合わせ、毎週一回、学内各所の集積場にてペットボトルのキャップ・ラベル外しを行う。活動場所は、5C棟横エコステーションを予定するが、人数や分別状況により、変更もあり得る。水曜日の放課後に作業→木曜日に業者が回収、を基本の流れとし、状況に応じて調整していく。

- ・活動時間は毎週水曜日18:15～19:15を予定。参加者の都合や業者側の事情に合わせ、変更もあり得る。
- ・雨天の場合は活動は中止とする。

活動期間

平成24年6月1日～24年11月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：今井優真（地球学類）

P：岩本浩二（企画室）、森澤壽幸（企画室）、草間久美子（企画室）、青木直美（企画室）

活動報告

活動成果

・活動内容

1. 毎週水曜日、学内のごみ集積所でペットボトルの分別を行った（全17回）
2. エコシティ推進賞2012への応募
3. 学内への分別啓発ポスター、キャップ回収箱の設置
4. つくばサイエンスコラボでの展示（「筑波大学エコシティ推進グループ」ブース内）

・目標達成度

上記の活動を通し、キャンパス内での分別意識は高まってきたように思えるが、まだ完全ではないように思える。

・得られた成果

※以下、活動内容に対応する番号で成果を述べる。

1. 団体の恒常的活動を定められた。また他の活動の効果を確かめられた。
2. 「グラスルーツ賞」を受賞した。
3. 第1エリア、第3エリアの学群棟全て、第2エリアの学群棟一部へ設置完了した。
4. 参加者190人ほどであった。注：主に一般市民対象

今後の課題

- ・キャップ回収箱やポスター未設置エリアへ設置に向かう。
- ・分別啓発ポスターの他に、「何故分別するのか」に関するポスターを作る。

経験者からのメッセージ

「目的」と「手段」を混同しないこと。

運営者側から見たパーティシパントの変化

本企画における「パーティシパント」はシステム上0人であるため、その変化はわからない。しかし、キャップ回収箱設置に伴い、キャップを外す人が増えたということが回収箱の確認・毎週の分別作業等で確認されており、これを「パーティシパントの変化」として良いならば活動を通して変化が見られていると思われる。

T-ACT に関する感想

要望、というほどではないのですが、このサイトや報告書のフォームにおいて一部わかりづらい表現があるので、可能であれば変えてほしいと思います。

例：

- ・申請フォームにおいて、オーガナイザー名は「備考」に記入
- 入力フォームにこう明記されていないので、これを書き加えるか「オーガナイザー」という項目を足した方がわかりやすい。
- ・報告書において、目標達成「度」というのがややわかりにくい。パーセンテージなのか他の指標なのか、書き方に困る。「達成されたかどうか」「理由」でよいと思う。
- ・報告書において、「参加者（システムに登録されていないメンバー）」ということは、全員登録されている場合は書かなくてよいのか否かわからない。
- ・（全体を通して）入力例のようなものが表示されていると非常に助かる。



筑波学祭ライブ〜バンドを呼ぼう〜【第2弾】(12023A)

T-ACT プランナー 重野 健斗 (理工学群化学類)

活動内容

『僕と一緒につくばにバンドを呼びませんか?』

本企画は、私たちが感じていた雙峰祭の閉塞感に対する不満と、普段ライブハウスに行くことのできない筑波大生へそのような機会を提供したいという気持ちから動き出したプロジェクトです。

このプロジェクトが成功することで、以下のような効果がもたらされると私たちは考えております。

- ・ 雙峰祭の活性化。他の企画への相乗効果。
- ・ 学外からの来場者数の増加。筑波大学を全国にアピールできる。
- ・ 茨城、つくばに音楽的関心が向く。

TX 開通後、日々発展をしているつくば市に筑波大生として音楽的アプローチで貢献していきたいと考えています。学園祭は、学生の力があふれる場です。アーティスト側も、学園祭でライブをすることに大きなメリットがあります。筑波大では、学園祭ライブがありませんが、あったらいいなと思っている人はたくさんいると思います。

『僕と一緒に学園祭ライブの伝統を作りましょう!』

現在私たちは、つくばミュージックプロジェクトと団体名を称し、7名のメンバーで動いています。

【第1弾】から、かなり話が進展しました。もし少しでも興味があるようなら連絡ください!!

活動計画

5月	1週	【第2弾】スタート
	2週	使用希望団体との事前交渉。オファーをかけるバンド最終決定
	3週	ステージ企画申請締め切り
	4週	会場、日時決定
6月	1週	正式オファー開始
	2週	ロゴデザイン決定! WEB デザイン考察
	3週	広報の戦略考察
	4週	WEB、Twitter アカウント等作成
7月	1週	告知解禁。WEB オープン
	2週	企画成功戦略会議
	3週	プレイイベント開催予定 (DJ イベント)
	4週	今後の活動計画見直し
8月	1週	出演者発表。ピラ、チケット、ポスター印刷開始
	2週	問題点洗い出し。解決案考察
	3週	運営スタッフ増強
	4週	企画当日の役割分担決。
9月	1週	全出演者決定! チケット販売開始
	2週	個人スケジュール表完成
	3週	個人スケジュール表の確認、調整。当日必要な物品の調達。物販完成
	4週	問題点等の最終調整
10月	1週	事前準備。
	2週	学祭当日
	3週	メンバー間でプロジェクトを振り返り、活動報告書を書く

活動期間

平成24年5月1日~24年10月31日

T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 福田萌乃 (教育学類)、橋本康平 (生物資源学類)、田島聖也 (化学類)、山崎祐輝 (生命環境科学研究科)、金井伸也 (数理物質科学研究科)、藤原光太郎 (卒業生)、森夏紀 (知識情報・図書館学類)、岡村栄里奈 (工学システム学類)

P: 足立和隆 (人間系)

活動報告

活動成果

○5月1日

【第1弾】を引き継ぐ形で【第2弾】スタート

○5月14日 第9回 MT

出演バンドの選定。VJ リハーサルの成果、感想共有。

お金の集め方→音楽に特化したフリーペーパー作成の案

○～7月

学園祭実行委員との交渉。日時、場所の決定。開催できることがようやく決まる。

実際に活動がスタート！ようやく動き出す！

○7月4日 第11回 MT

チケット代の決定。成功とは何か？本企画成功の判断基準を共有。

つくばミュージックプロジェクトの WEB 開設！

http://tsukuba-music-project.koyelie.info/?doing_wp_cron=1354268805.3003408908843994140625

↓

【狙い】

オファーをかける出演バンド最終決定 UP！活動を知ってもらう。つくばに音楽を根付かせる。

○7月？日 第12回 MT

Twitter の活用法。WEB の運営の仕方。音楽情報の集め方。

○日時不明 第3回 MT

広報について。有効な宣伝の仕方。ターゲット。

○8月下旬 出演バンド、DJ 決定！！

○9月6日

学園祭ライブ WEB 開設！情報解禁！ <http://gakusai-live.tsukuba-music-project.koyelie.info/>

宣伝、広報開始！

○9月10日

チケット販売開始（手売り、e-plus）。

○9月18日 第14回 MT

チケットを売る戦略

○9月21日 第15回 MT

広報ツアーで回る場所。有効な場所決定。班わけ。残りの当日までのスケジュール確認。

○9月23日 広報ツアー

水戸、守谷、取手、柏、北千住、つくば、秋葉原に出向き、フライヤー、ポスターの配布。

音楽関係のお店を狙って。

○9月30日 第16回 MT

当日の運営スタッフの動き確認。トラブルシューティング。チケットの売り方。各自サークル MT 等にまわる。

○10月4日

最終リハーサル日。準備開始。第17回直前 MT。当日の動き確認。メンバー間で当日前日の動きをイメージ。

○10月5日 前設

○10月6日 本番！！

○10月19？日 最終 MT

決算。評価。反省。来年について。今後の TMP の活動について。

今後の課題

代表という立場からみて、他のメンバーのモチベーションを維持するのは大変だった。協力者、人材集めが難航。その分、1人当たりの負担が大きくなり、潰れかけた。お金の問題が1番ネックに。チケット代のみでまかなわなければならない。さらに、確実な収入が予測されないなかで運営していかなければならなかったのはとても大変だった。人材集め、経済的な問題。この2つを事前にもっと話し合い、本気で動くことが来年以降、本企画を継続させるために不可欠。

経験者からのメッセージ

最初の『やりたい！』という気持ちを大事にしてください。最初の熱が冷めないうちに、もう後戻りできないところまで進んでみましょう。そこまでいければ必ず実現させることはできます。あとは、どれだけメンバー間で意見交流ができるか。何か自分で考えて不安になったらメンバーと話し合いをしましょう。気持ちが楽になるし、また新しいエネルギーが生まれます。

運営者側から見たパーティシパントの変化

やはり、最初は代表側から働きかけがないと動かなかった。しかし、イベントが近づくにつれて、またコンテンツが固まり実際にイベント自体のイメージができるようになると、しっかり動いてくれるようになりました。僕1人では本企画は絶対に成功しませんでした。協力してくれた全ての人に感謝したいです。

T-ACT に関する感想

最初、僕1人で押しかけて、やりたい！という思いを伝えてから、常に応援してくれました。どんなに無謀なことでも、反対はせず、どうすれば実現できるかということと一緒に考えてくれました。T-ACT がなかったら、本企画は始まらなかったし、ここまで大きなことはできなかったと思います。本当にありがとうございました。

● キャンドルナイト～電気を消して 一緒に 安らぎ 想う 時間～ (12024A)

T-ACT プランナー 山岸 彩夏 (生命環境学群生物資源学類)

活動内容

昨年行ったキャンドルナイト第二回目を行います。

電気が当たり前にあるせわしない普段の生活、私たちは自分たちのことばかり考えて日々時間は過ぎていってしまいます。

日本国内では震災、原発事故、竜巻、電力不足。もっと広く世界を見れば、貧困、飢餓、テロ、戦争。なかなか会えない遠くの家族や友達、恋人。私たちは自分の生活に一生けん命でさまざまなこと想い、考える時間がありません。

そこでキャンドルナイトでは、2時間電気を消してろうそくの明かりを灯し、ゆっくりとした時間の中で、想い考える時間を提供します。

節電への意識を学生に喚起するためにも、イベントとしてキャンドルナイトを行うことは意義があります。

活動計画

- 5月 活動開始
メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- 6月前半 広報活動、キャンドル準備
- 6月半ば 会議での報告
- 6月末 実施
- 7月 報告書作成

活動期間

平成24年5月21日～24年7月3日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：佐藤文香（生物資源学類）、糸澤文香（社会工学類）、大河原栞（人文学類）、藤井郁乃（障害科学類）、大西彩美（人文学類）

P：松下秀介（生命環境系）

活動報告

活動成果

・活動内容 松見池周囲にキャンドルを並べ、ステージでアコースティックライブの開催

5月31日 ミーティング（出演団体決定、キャンドル発注など）

6月6日 チラシ配り

6月10日 団体打ち合わせ

6月14日 当日

・目標達成度

70% 理由：強風のためキャンドルの点火が上手くいかなかった。風除けの用意などが必要だった。

団体への連絡が遅く、出演バンドに迷惑をかけてしまった。

ポスターやチラシの配布が遅れたため、宣伝が足りなかった。

今後の課題

年度実績があったため、学生生活課との話し合いは比較的スムーズだった。取り掛かりが遅く、役割分担がうまくいかなかったため、他の団体に迷惑をかけてしまう部分が多かった。

キャンドルの光を維持するためにキャンドルの工夫が必要だが、予算がなく厳しかった。参加費を募るなどができれば主催者側に負担が少なくて済む。

経験者からのメッセージ

準備を早めに行うことが大事です。街灯を消す時は施設部に消したい街灯ナンバーを控えて依頼に行きましょう。音響係がいるとライブがスムーズです。バンドさんに任せきりにするのは忍びなかったです。キャンドルナイトぜひ来年以降も続けて欲しいと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

感想のコメントで、ゆっくり考える時間が取れてよかった。いい雰囲気だったという感想をいただきました。節電だけじゃないメッセージを伝えたかったので、伝わってよかったです。バンドの方にもフェアトレードとキャンドルナイトの趣旨が伝わって嬉しかったです。

T-ACT に関する感想

お世話になりました。荷物をおかせていただいて助かりました。

● 教育実習事後シェア会 (12027A)

T-ACT プランナー 下村 理愛 (教育研究科)

活動内容

目的①教育実習の経験を振り返り、仲間と共有することを通し、教職への理解を深める

目的②筑波大学内の教職のつながりをつくる

内容：

18:30～19:30 グループシェア

19:40～20:30 教科別シェア

補足事項：

- ・事前に話し合いたい内容を参加者から予約フォームを通して募り、スタッフが参加者として参加しながらも、適宜話題を振ります。
- ・実習経験者の内省になる場とすることを最大の目的とする。そうすることで、未経験者も得るものがあると思っています。
- ・今後のつながりを意図し、facebook のグループを作り、希望者のみ入れるようにします。

活動計画

- 5月 活動開始
メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- 6月 話し合いを進める
- 6月22日 イベント当日
- 6月23日 振り返り

活動期間

平成24年5月31日～24年7月2日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：大澤明梨（社会学類）、稲垣謙治郎（人間総合科学研究科）、酒井一樹（物理学類）、谷地繭（地球学類）、久保園梓（社会工学類）、原浩輔（教育研究科）、内田裕二（教育研究科）、狩野佑也（教育研究科）、関琴葉（教育研究科）、細矢智弘（教育研究科）、実川克彦（教育研究科）、中倉卓也（教育研究科）、福原遼平（教育研究科）、鈴木智里（教育研究科）、保高暁（教育研究科）、柘植大輔（システム情報工学研究科）、佐藤彩香（教育研究科）、栗田浩太郎（教育研究科）、矢田晃一（システム情報工学研究科）

P：唐木清志（人間系）

活動報告

活動成果

文責：酒井一樹・下村理愛

活動目的

- ①参加者が教育実習の経験を振り返り、仲間と共有することを通し、自分の教職への理解を深める
- ②スタッフ、参加者同士の教職のつながりを作り、より質の高い教育を志すきっかけを生み出す

日程

2012年11月2日（金）

17:00～18:15 直前準備

18:15～18:30 受付

18:30～18:40 説明、代表あいさつ

18:40～19:30 第1部：教科別シェア

19:30～19:40 休憩

19:40～20:20 第2部：ランダムグループシェア

20:20～20:30 アンケート記入、代表あいさつ、記念撮影

20:30～21:45 会場片付け

参加者

3年生：1名、4年生：5名、大学院生：2名、科目等履修生：2名（計10名）

第1部：教科別シェア

<意図>

- ・事後指導会ではできなかった同じ教科での深い話をする。
- ・共通の話題の出やすい教科ごとでシェアすることで雰囲気を作る。

<良かった点>

- ・国語などは多様な実習校での話がシェアでき、教科の深い話もできてお互いに学びとなっていた。
- ・今回初めて養護の実習者が来て、保健体育で対応したが、共通点が多く、相互に有意義な話ができただ。
- ・全体として、話が途切れることなく、盛り上がりを見せていた。

<改善点>

- ・英語の参加者がいなく、宣伝不足を感じた。
- ・つながりを求める人と実習の話をした人、聞きたい人などがいて、ニーズのズレが生じていた。
- ・教育実習の話から逸脱するグループもあった。

第2部：ランダムグループシェア

<意図>

- ・教育実習一般のことなどについて、いろんな人の話を聞き、教職の理解を深める。

<良かった点>

- ・理系、文系、体育の混ざったグループではランダムグループならではのシェアができた。
- ・現職の教員が参加していたグループではためになる話ができただ。
- ・参加者からも積極的に話題が出てきていて、いい雰囲気で行えた。

<改善点>

- ・スタッフが当日に集まったグループがあり、事前の打ち合わせができず、テーマがぼやけてしまっていた。
- ・人数が少なく、班を1つ解体したのだが、その際に参加者が実習未経験者だけのグループなどでき、割り振りがうまく行えなかつた。

第3部：懇親会

参加者、スタッフともに打ち解けた雰囲気で会話を楽しむことができ、教職のつながりができていくのを実感した。運営へ興味を示した参加者も3人出てきた。

今後の課題

全体を通して

スタッフそれぞれの日常生活が忙しいということや、2回目という慣れもあり運営に甘さが出た様に思われる。1つ目として、スケジュールリングの甘さである。最初の段階で宣伝可能箇所の確認を怠ったため、可能であつたはずの宣伝の場を逃してしまつた。2つ目として、運営を通してスタッフ内のつながりも深めることも目的の一部ということにも関わらず、ただ運営内容を決めるだけのミーティングになりがちだつたことだ。途中で改善を図り、メンバー内の近況報告を導入したり、コミットメントの場を設けたりしたことは目的に対して機能した。また、ミーティングに参加したくても行けない状態が続くメンバーに対し、ミーティングだけが参加の場ではないということ全員で共有、議案や議事録の精読、普段のコミュニケーションなども大切にしていこうと全員で創り上げる場にできたのではないか。

経験者からのメッセージ

自分のちょっとした勇気で、周りの人がどんどん変わっていきます。その変化の源泉に自分がなれたということはとても幸せなことです。自分自身、自分の立てたイベントなのに自分以上に活躍するメンバーを見るのが少し悔しい時もありました。しかし、その人が飛躍した源泉に自分がなれたことはとても誇らしいことです。それに気付いたら今まで気にしていたことがとても小さく見えました。是非、みなさんも変化の源泉になってください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

今回はプランナーの下村が当日不在にも関わらずスタッフ一人ひとりがリーダーシップを発揮し、主体的に運営に携わる姿がみられた。今後筑波大学内に限らず、教育現場でもリーダーシップを発揮する人材作りという点でも今回は機能したのではないか。そして、何より嬉しいことは今後来年もこのイベントを受け継いでやりたいと名乗り出てくれる学生がいたことである。後輩たちを育てる為にも、次回はあえてサポーターになるというメンバーも多い。イベント内容は変わったとしても、筑波大学のインフォーマルな教職の縦と横のつながりの源泉に自分たちがなれたことは大変喜ばしいことである。また、そのつながりが更に広く一生続くように自分達の立ち位置を一つ大きな枠組みへとシフトしていきたい。この活動の中から日本の教育界のリーダーが続々と輩出されていくことを期待する。



T-ACTに関する感想

もっと活動内容が学生の目に触れるようになればいいなと感じた。

● 希死回生～自殺予防のための啓発活動～ No.3 (12031A)

T-ACT プランナー 高橋 あすみ (人間学群心理学類)

● 活動内容

プロジェクトの最終目標は、筑波大学の学生、教職員に、自殺に対する問題意識を持つ機会を提供し、自殺に対する誤解や偏見を減らすこと。そして、自殺志願者、自殺者を生まない大学環境づくりに貢献することである。

No.3では、今年度の学園祭で、自殺予防のためのシンポジウムを開催することを目的とする。シンポジウムでは、自殺問題にこれから取り組んでいくことの土壌づくりとして、自殺に関する正しい情報・知識や、身近な人を支えること(≒ゲートキーパー)、自らの精神を健康に保つこと(≒メンタルヘルスリテラシー向上)について学習し、考える機会を学生、教職員、学外の人に広く提供する。

以下には、No.1申請時に掲載した企画立案の経緯を載せる。

日本は自殺大国である。自殺の問題は「年間自殺者数が3万人を超える」ということだけではない。自殺志願者への自殺対策は、自殺対策基本法が定められてから徐々に進められているが、自殺に関する誤解や偏見は社会に根付いたままである印象を受ける。

「死にたいなら死ねばいいんじゃないの?」と考える人は多いと思う。私も以前は「自殺はひとつの生き方なのでは?」「生きるのが辛い人に生きろというのは酷じゃないの?」と考えていた。しかし、『自殺未遂～「生きたい」と「死にたい」の心理学(高橋祥友、2004)』という本で、自殺は「さまざまな問題に圧倒され、『自殺』しか問題を解決する手段がないといった、いわば心理的視野狭窄の状態に追いやられた末に起こされた行動」という文面に衝撃を受けた。自殺はつまり、「死にたくて」死ぬのではないのだ。

実際、「死にたい」という思いを、「勝手に死ねばいい」「死にたいと言う人は自殺しない」などと言って見捨てたり突き放したりすることで、本当に失われる命が存在する。裏を返せば、専門的知識がなく何の術を持たない人でも、自殺志願者を理解し手を差し伸べるだけで、ひとつの命を救うことができるかもしれない。自殺対策は自殺の危険をはらんだ人や、それをサポートする専門家だけのものではない。自殺に関心のない人、自殺に嫌悪感のある人などが、自殺について正しい理解を持つことで、自殺志願者を排除する社会ではなく、支えられる社会にベクトルが向くのではないだろうか。

● 活動計画

8～10月 シンポジウム開催に向けての準備

10月7日 シンポジウム開催

～10月 アンケート集計・反省

● 活動期間

平成24年8月1日～24年10月31日

● T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 岩岡寛海(障害科学類)、岡本雄太(医学類)、佐々木夕莉(心理学類)、東雄貴(比較文化学類)

P: 杉江征(人間系)、太刀川弘和(医学医療系)

● 活動報告

● 活動成果

・ 活動内容

8月～10月 各種ミーティングを頻回開催

シンポジストの決定(依頼、打ち合わせ)

展示ポスターの作成(調査、インタビュー、チェック、印刷)

資料の作成(プログラム、アンケート、認識テストなど)

10月7日 12:00～ 展示発表

14:00～16:30 シンポジウム開催

10月19日 打ち上げ

10月23日 反省会

・ 目標達成度

今回の目標は、シンポジウム開催で、自殺予防について考えるきっかけを提供することであった。初めての試みであったが、無事にシンポジウムを開催することができたため、5割は成功である。一方で、大学全体が学園祭で盛り上がっている最中だったため、筑波大生や先生の参加はほぼなくシンポジウムを開催することで達成するはずだった目標が、達成できたとは言えない。しかし、小さな教室で開いていた展示発表には、思いのほか様々な人が来てくださり、学生の参加もあったため、こちらで、自殺予防について考える機会をある程度提供できたと思う。

・得られた成果

学園祭という、比較的イベントの開きやすいシステムの中で、シンポジウムを開催できたことで、今後自分たちで一からイベントを開催するためのノウハウが身についた。

また、展示発表をやる中で、自殺予防についてメンバー自身がさらに勉強しなければならないと再認識した。

今後の課題

①シンポジウムの学生の参加がなかったこと

学園祭という時期で、多くの学生が他のイベントに従事していたことや学園祭のにぎやかな雰囲気にテーマがそぐわなかったことが原因ではないか。ただ、初めて開くイベントだったので、ノウハウを学習するという意味では学園祭で開催できたことは今後のよい勉強になった。

②展示発表において、来訪者の対応に困ったこと

その人の経験や信念のようなものに対応するスキルや、うつ病についてや国の対策状況など、自殺に関連する事項についても熟知していることが必要だった。メンバー自身の勉強がますます必要であることが再確認された。

経験者からのメッセージ

T-ACTのよいところは、先生が協力してくれるということ。私たちは、初めての試みで、手さぐりだったにも関わらず、パートナーの先生方の知識や人脈を生かした協力のおかげで、無事にシンポジウムを開催することができた。プランナーは、作業を仕切るだけでなく、メンバーに配慮して活動を進めていかないといけなく大変であるが、パートナーという心強い味方がいるので、積極的に相談しよう。また、イベント開催は入念な準備が必要になるが、構成員全員が目的を見失わず、助け合って作業できるように、団体の方針や意義を、全員で確認しておこう！

運営者側から見たパーティシパントの変化

初の実績となったので、みんな達成感を得られたと思う。また、今までプランナーがすべてを決めていたが、今回は作業を班別にして進めたので、各構成員が自主的に提案や行動を起すことができた。また、ともに何かを作り上げる作業を通じて、今までなんとなく距離があったメンバーも、仲よくなった。

T-ACTに関する感想

T-ACT企画の広報を、T-ACTフォーラムにまとめてやってもらえるとうれしい。たとえば、今季はこういう活動があります、こういうイベントがあります、という新聞やパンフレットがあると、各企画のマンパワー不足もある程度解消するのかなと…。各企画がやると、興味のある人しか見てくれないが、T-ACTとしてまとめた広報があれば、もう少し見てくれる人が増えるのではないだろうか…。

The Sounds on Silence 2012—おしゃやの聞こえるライブ— (12032A)

T-ACT プランナー 橋本 康平 (生命環境学群生物資源学類)

活動内容

『夜中に（オールナイトで）野外でライブをしたい!』という欲求は、多くのバンドマン、いや音楽家の持っている野望だと思います。しかし、実際は、場所の問題、騒音問題や電力確保の問題など多くの理由から、行うのが非常に困難です。

そこで、通常ライブで使用されるラウドスピーカーのかわりにFM電波を飛ばし、観客はFMラジオで受信することで、騒音問題と電力問題を一挙に解決できるのでは、と考えました。つまりギターもベースも傍から見たらカシカシカしているだけ、ドラムはエレドラ、ボーカルは生声、観客はヘッドフォン、まわりから見たら静か。しかし、ライブしているという不思議な空間が出来上がるのです。これなら騒音も出ないですし、省エネなので発電機が一台もあれば大丈夫です。参加団体としては、軽音系に限らず、音楽に関わる団体をできるだけ幅広く募集したいと考えています。弾き語り、DJ、ダンス、よさこい、民族音楽、ラジオ、ジャグリング、アカペラなど。

まとめると、本企画は、FMトランスミッターおよびヘッドフォンを利用することで、夜間に野外でライブをすることを提案するものです。出演者も、観客も騒音問題などを気にせずイベントを楽しむことができるようになることを期待します。

研究棟が近くになく、また、住居も離れた野性の森を開催地にすることで、人が集まることによる騒音も回避することができます。利用時間等についても確認済みです。

活動計画

- 7月4週 各部署人員手配、キャスト開始
- 7月5週 Web 始動、協力スタッフ手配
- 8月1週 印刷系始動、宣伝拡大
- 8月2週 一般出演公募締め切り、演出ラフ決定
- 8月3週 出演者決定、演出決定、直接広報開始
- 8月4週～9月1週 タイムテーブル決定、演出決定に伴い資材調達、大道具作成
- 9月2週 問題点、懸念点の解決
- 9月3週 直接広報、直前準備
- 9月15日 Sound on Silence
- 9月16日 予備日

活動期間

平成24年7月9日～24年9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：松井祐大（工学システム学類）、金井伸也（数理工学物質科学研究科）、福田萌乃（教育学類）、末永加奈（社会学類）、坂梨龍太郎（システム情報工学研究科）、大脇聡史（芸術専門学群）、市川あやな（芸術専門学群）、重野健斗（化学類）、榊原敬治（物理学類）

P：足立和隆（体育系）

活動報告

活動成果

2012年度

- 7/12 : 始動
- 7/17 : 第1回 MT 開催（プレミーティング）
: メンバー募集開始
- 7/31 : 第2回 MT 開催
: 開催日時の決定、役職決め、アイデア募集
- 8/3 : 第3回 MT 開催
: コンテンツ考案、雨天時対応の決定、予算概算の算出
- 8/7 : 第4回 MT 開催
: 告知戦略、仕事割り振りの決定、学生団体の出店誘致等についての決定
- 8/16 : 第5回 スカイプ MT 開催
: 人員についての話し合い、出演者広報、Webサイトの更新についての話し合い
- 8/23 : 第6回 MT 開催
: 開催日再考、モチベーションの確認、出演者募集について

- 8/29 : 第7回 MT 開催
: 大道具制作について (制作開始)、ポスター・フライヤー印刷進捗 (印刷開始)、広報についての話し合い
- 8/31 : 第8回 MT 開催
: 各自進捗報告
- 9/4 : 第9回 MT 開催
: 各自進捗報告、当日コンテンツについての再考、ラジオつくばでの出演に関しての詳細決定、SoS 通貨のデザイン開始、口座の作成、広報戦略について
- 9/7 : 第10回 MT 開催
: 当日タイムテーブル、セットリストの作成
- 9/10 : 第11回 MT
: 出演者 MT に関しての戦略決定、当日物品の調査、当日スタッフの流れに関して確認
- 9/11 : 第12回 MT 開催
: 当日に関しての話し合い
- 9/12 : 第13回 MT 開催
: 出演者 MT をうけて当日の対応の再考
- 9/13 : 第14回 MT 開催
: 当日の流れ確認、トラブルシューティングに関して
- 9/15 : 当日。イベント開催
- 9/28 : 第15回 MT 開催
: 各自反省、次回についての意見交換

MT 内容に関しての実動は各 MT 間においてそれぞれの担当が行った (大道具制作、Web 制作、ポスター配布等)。当初の目標である、筑波大学で夜に野外でライブをする、ということ、大きな赤字を出さないこと、集客目標200人を超えること、というそれぞれにおいて達成することが出来た。各自、一つのイベントを成し遂げるための試行錯誤や連携、また事務的技術の習得につながったと感じる。

今後の課題

日程決定や、利益も赤字も出さないようにしながらの出店に関してに難しさを感じた。また、各自のモチベーションの差というのも大きくイベントの成否に関わってくるので、それをどうするか、というのも一つの重要な課題であったと感じる。加えてリマインダーを配置することの重要性を感じた。これが居るかないかでイベントの進捗が大きく違ってくる。

経験者からのメッセージ

メンバーのモチベーションをいかに保つか、メンバー間の関係を上手く保つためにはどうすれば良いか、を考えて行動すべきであるし、そうすることが成功につながると感じる。また、リマインダーを配置する、日程表を作成するなどしてイベント全体の進捗を把握することもとても重要であると思う。

運営者側から見たパーティシパントの変化

会場で音楽を楽しむ、交流を楽しむ等こちらの思惑に沿った行動をとる人々が多かった。各自、イベントを楽しんで頂けたようで、「満足して帰った」という点において来場段階と帰宅段階では変化があったと思う。

T-ACT に関する感想

とても良くしていただいたので、特にこれといった要望は無い。最後までありがとうございました。

● 「世界食料デー」月間イベント ～講演会～ (12033A)

T-ACT プランナー 荒井 ひかる (社会・国際学群国際総合学類)

活動内容

三学食堂におけるイベントによって、今まで食料問題などに関心がなかった人たちにも「世界食料デー」の存在を知ってらっていることが前提です。この講演会は10月の後半が11月の初めに行う予定であり、一か月間続いたこの「世界食料デー」月間の締めとしてのイベントです。身近な食へのありがたさを実感し、世界の食料問題に少しでも関心を持ち始めた人々を対象としており、そういった人々に対して今度は「世界の飢餓・貧困の状況」について知ってもらい、問題意識を持ってもらえるような講演会にしたいと思っています。

内容：

YEHとTFT両団体からゲストスピーカーをお招きし、「世界の飢餓・貧困について」というテーマのもと、それぞれ講演を行っていただく。(テーマの細分化・具体化は後々)

また、コンテンツとして講演会のほかにも世界の飢餓・貧困について考え、その現状を知ってもらうことができるような〇×クイズを行う。また、それぞれの活動の紹介をする。

目標：

参加者に、世界の飢餓・貧困の現状を知ってもらい、世界の食料問題について関心を持ってもらう。そういった現状に対して自分ができることを考えてもらい、「食べ残しをしない」「いただきます・ごちそうさまを大切にす」などという身近なことから貢献できることを知ってもらい、しようという気持ちを持ってもらう。

活動計画

- 6月 活動開始
両団体を中心として話し合いを進め、計画を練る
- 7月～8月 ゲストへの交渉
コンテンツの内容を詰める
- 9月～10月 会場となる教室・機材を確保
広報
- 10月末または11月初め イベント当日
イベント終了後、メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

活動期間

平成24年6月1日～24年11月4日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：三藤紫乃 (国際総合学類)、佐々木めぐみ (生物資源学類)、宮田直承 (国際総合学類)、平松真由美 (国際総合学類)、丸山友紀 (国際総合学類)、荒井大樹 (国際総合学類)、石黒愛梨沙 (国際総合学類)、伊豆田圭祐 (国際総合学類)、小野口孟 (工学システム学類)、中島詩織 (比較文化学類)、畠山玲依那 (国際総合学類)、花増恵里 (国際総合学類)、林健太 (国際総合学類)、野原菜友美 (国際総合学類)、松尾宏輝 (国際総合学類)、岩上恵理子 (国際総合学類)、富谷仁貴 (国際総合学類)、後藤真美 (国際総合学類)、金奈由 (国際総合学類)、佐々木誠 (国際総合学類)、中居秀美 (国際総合学類)、中村俊太 (生物資源学類)、清水結衣 (生物資源学類)、長谷川梨子 (心理学類)、江橋由夏 (生物資源学類)、井口沙央里 (国際総合学類)、中村良孝 (国際総合学類)、五十嵐彩理 (国際総合学類)、吉村一希 (日本語・日本文化学類)、小林諒 (生物資源学類)、井下太貴 (生物資源学類)、イジョンウン (日本語・日本文化学類)

P：福井幸男 (システム情報系)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 9月 ポスター掲載
- 9月19日 T-ACTの総合科目にて発表
- 10月4・5・18・24・25日昼休み ビラ配布
- 10月25日 講演会
- 10月25日18:30～、3A202にて、Hunger Free WorldとTABLE FOR TWOから一人ずつ、筑波大学国際総合学類OGであるゲストスピーカーお二人をお招きして、講演会を行いました。「世界の“食”をつくばから考える」というテーマのもと、第一部では、世界の“食”にまつわる現状や、私たちの生活と世界の食料問題との関わりについて、第二部では、ゲストのお二人の学生時代のお話や、現在の職業に至るまでの経歴、そしてこれから私たちが世界のためにできること・学生時代にしていただいた方がよいことについてお話して頂きました。また、講演会の最後にはTHKのご協力のもと作成した「いただきますムービー」を上映しました。事前の広報は、昼休み

のビラ配りやポスター掲示の他に、SNSやMLなどを用いて行いました。また、今回は共催団体である Hunger Free World のご協力のもと、Hunger Free World サイト、「世界食料デー」月間サイト、また JICA のイベントサイトなどに当イベント情報を掲載させていただきました。また、総合科目「みんなで創ろう『つくばアクションプロジェクト』」の発表もさせて頂きました。事前の連絡が不備なく、運営メンバーみんなに情報が共有されていたため、当日の動きは、機材の搬入や会場づくりなど、終始とてもスムーズに進みました。当日は、23名が運営スタッフとして参加してくださいました。また来場者数は38名と、目標の50名には満たなかったものの、外部からのお客様が4名ほどいらっしゃったため、筑波大学内のみならず広く広報した成果が出たと言えるのではないかと思います。総合科目の発表会を見て知ったという方もいらっしゃいました。また、来場者アンケートでは回答者のうち約96%が講演会全体について「大変満足した」または「満足した」と答えてくださいました。自由記入欄では、「世界の食の問題に加えて、自分の今後についても考えられるとても良い機会になりました」「大変有意義な講演会でした」「職業やキャリアと関連づけて話して頂けたのが、とても為になりました」などのお声を頂きました。

今後の課題

今回のイベントにおける課題は、全体としてはオーガナイザーと広報係に仕事が少し偏りすぎていたこと、情報がオーガナイザーの中だけでしか共有されていないことがあったこと、もう少し早い段階でスケジューリングをしておくべきであったこと、リーダーシップに対応する、メンバーのフォローシップが少し不足していたこと、最終目標や落としどころがやっていく中であいまいになってしまい、企画の軸がぶれてしまったことなどが挙げられます。また、広報の面では SNS 広報の具体的計画を立てていなかったこと、ビラ配りをもっと計画的・効率的に行うべきだったこと、広報量自体が少なかったこと、一人ひとりが口コミで知人・友人に宣伝するべきであったこと、授業でのビラ配布を行うべきであったこと、広報係とオーガナイザーがもっと連携すべきであったことなどがあげられます。

経験者からのメッセージ

やってみたい!と思ったことは、きちんと計画を立てれば(ほとんどのことは)実行できます。ためらわず、まずは T-ACT に相談に行ってみて下さい!筑波大学を盛り上げる為、毎日楽しくする為の企画なら、実現する価値は必ずあります!あなたが「やりたいな、いいな」と思ったことには、きっと「いいな」と思ってくれる人がいます。共感できる仲間に出会える、とても素敵な機会になることと思います。また、自分がプランナーになる場合、一人ですべてやろうとはせず、多くの人達に協力してもらったり意見を求めたりしたほうが、より良い企画になると思います。そして、イベント当日はせっかくなので、出来るだけ多くの方に来てもらえるよう、ぜひ宣伝を頑張ってください。前もった広報はとても大事だと実感しました。準備期間や当日はとても忙しいですが、実現したときの達成感は何にも代えがたいです。面白い企画が出てくるのを楽しみにしています。頑張ってください!

運営者側から見たパーティシパントの変化

来場者アンケートによると、「この月間で、日々の食生活に変化はありましたか?」という項目に対して、約76%の人が「以前よりも食べ物のありがたみを感じるようになった」「以前よりも食べることの楽しみを感じるようになった」「以前よりも「いただきます」「ごちそうさま」を言うようになった」などの変化を感じたと答えてくださいました。

T-ACT に関する感想

1日に印刷可能なカラーの部数をもう少し増やして頂けたら、とても助かります。

「世界食料デー」月間イベント ～三学食堂～ (12034A)

T-ACT プランナー 佐々木 めぐみ (生命環境学群生物資源学類)

活動内容

10月16日は、世界食料デーという、国連が制定した世界の食料問題を考える日です。日本では10月を「世界食料デー」月間とし、国際機関や NGO・NPO が様々なイベントを行います。筑波大学におけるこのイベントは、昨年度から TFT と YEH が共同で行い始めたものです。昨年度は「二団体の支援国であるアフリカなどの途上国に親しみを持ってもらうことで、食料問題や飢餓・貧困問題に関心を持ってもらおう」というコンセプトのもとで行いました。今年は視野を広げ、更に「世界の食」に着目し、筑波大生に「食べ物への感謝の気持ち・食べられることのありがたさ」を感じてもらうことをメインとします。

内容：

10月の一カ月、三学食堂を世界中の食べ物の写真やモチーフで装飾する。また、「世界の食文化について」や「食生活の改善について」、また三学食堂の職員さんへのインタビューで「ふだん学食を作るにあたってどんなことに気をつけているか、ふだん食べてくれている学生たちへのメッセージ」などをコラムにして壁に掲載する。また、毎週二回(木・金)三学食堂に TFT メニューを提供してもらい、その1食分の売り上げのうち20円を途上国への寄付金とする。二団体で10円ずつ分割し、それぞれの支援国への寄付金とする。また、三食利用者にふせんを配り、ふだん学食を作ってくれる職員さんへの感謝の気持ちを伝えるメッセージを書いてもらう。それを大きな一枚の模造紙に集めて貼り、壁に展示する。また、「いただきます」プロジェクトと称して、ふだんおろそかにしがちな「いただきます」の大切さを喚起し、促進する。また、三食利用者がおいしそうに食べている様子や「いただきます」「ごちそうさま」をしている様子をムービーで撮り、それを編集してまとめたものを10月中に行う講演会で放映する(講演会についてはまた別の企画として申請します)。

目標：

この「世界食料デー」の存在を筑波大生に知ってもらい、世界中の食文化や食料事情について知ることによって、栄養のあるものを食べたいときにお腹いっぱい食べられることなど、私たちの「あたりまえ」と世界の「あたりまえ」の違いに気づいてもらう。そのことで今の自分の環境に感謝をし、「食べ物のありがたさ」を実感してもらう。それと同時に世界の食料問題について関心を持ってもらう。また、食堂利用者と職員さんをつなぎ、三学食堂を盛り上げる。

活動計画

- 6月～7月 活動開始
YEHとTFT両団体を中心として話し合いを進めて計画を練る
- 7月～8月 学生食堂に交渉に行く
係分担
予算などを立て、予算見積書を提出する
メンバー各自でTFTへ提案するメニューを考える
- 9月 装飾の材料の買い出し、コラムの作成など
- 10月 イベント開始
週替わりでコラムの更新など
ムービーの撮影、メッセージの回収など
- 11月 イベント終了
三食利用者にアンケートを配り、このイベントの効果や感想を募る
メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる
収支報告書を提出する

活動期間

平成24年8月1日～24年11月15日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

○：荒井ひかる(国際総合学類)、三藤紫乃(国際総合学類)、宮田直承(国際総合学類)、平松真由美(国際総合学類)、丸山友紀(国際総合学類)、荒井大樹(国際総合学類)、石黒愛梨沙(国際総合学類)、伊豆田圭祐(国際総合学類)、小野口孟(工学システム学類)、中島詩織(比較文化学類)、畠山玲依那(国際総合学類)、花増恵里(国際総合学類)、林健太(国際総合学類)、野原菜友美(国際総合学類)、松尾宏輝(国際総合学類)、岩上恵理子(国際総合学類)、富谷仁貴(国際総合学類)、後藤真美(国際総合学類)、金奈由(国際総合学類)、佐々木誠(国際総合学類)、中居秀美(国際総合学類)、中村俊太(生物資源学類)、清水結衣(生物資源学類)、長谷川梨子(心理学類)、江橋由夏(生物資源学類)、井口沙央里(国際総合学類)、中村良孝(国際総合学類)、五十嵐彩理(国際総合学類)、吉村一希(日本語・日本文化学類)、小林諒(生物資源学類)、井下太貴(生物資源学類)、イジョンウン(日本語・日本文化学類)

P：福井幸男（システム情報系）

活動報告

活動成果

6月	コアメンバー始動
7月	第一回 二団体合同 MTG 装飾係予算計画
8月	広報ポスター作り 装飾買出し
9月	食堂に飾るコラム作り開始 ポスター掲示 THK 筑波大学とムービーの打ち合わせ 装飾・コラム完成 ビラ配布
9月28日	3食装飾
10月毎週木・金	TFT メニュー導入
10月4日	「いただきます」ムービー撮影
10月中旬	THANK YOU カード（3食への感謝のメッセージ）の配布・回収
10月下旬	THANK YOU 掲示
10月28日	寄付金回収
11月1日	会場装飾撤去

・目標達成度

70%

全体的にコラムも装飾も完成度は高く、TFT メニューも定期的に出せた。

しかし、負担が一部のメンバーに偏ってしまっていた。

THANK YOU カードに関してはスケジューリングを以前からつめるべきだった。

・得られた成果

TFT メニュー導入により、431食分、8620円の寄付金を回収できた。

装飾を3食責任者の方に喜んでいただけた。

講演会のための、「いただきます」ムービーの撮影ができた。

今後の課題

仕事の一部のメンバーに偏ってしまっていたため、仕事配分を改善する必要がある。

メンバーの中にも意識の差が生じ、積極的にコミットする人とあまりそうでない人とが出てきてしまった。コアメンバーで話し合われたことが十分にはおろしきれていなかったこと、一部のメンバーにしか伝わっていなかったことが原因だと思う。MTGなどで、プロジェクトの目的や今後のプランなどを毎回確認していくことで、それは防げたいと思う。

広報に関しては、広報担当だけでなくメンバー全員で協力して行うことを、きちんと心がけていくべきだった。「いただきます」ムービーに関しては、コアメンバーが担当してしまったため、負担が大きかった。ムービー担当を新たに作るべきだった。

経験者からのメッセージ

仕事配分と情報共有に気を遣ってみてください！

特に、大人数の場合は、意識にも差が出てきやすいので、軸となる理念をきちんと全員に伝え続けていく必要があると思います。

プランの進め方など、困ったときには T-ACT の方々が相談に乗ってくださるので、活動したい！という思いを大切に、頑張ってください！

運営者側から見たパーティシパントの変化

世界食料デー月間そのものの認知度が上がった。

世界の食について、自分の食について、少しでも考える時間をもつ人が増えた。

T-ACT に関する感想

始動から最後まで、相談に乗ってくださり、ありがとうございました。

コピー機やラミネートの機械など、必要な設備もそろっていたため、助かりました。

一日のカラー印刷制限枚数が、もう少し多いと（せめて200枚くらい）、よりありがたいです！

本当にありがとうございました。

7000万人が使うサービスを作った筑波大学の先輩 NHN Japan 社長森川亮さんによる講演(12045A)

T-ACT プランナー 山口 貴也 (理工学群工学システム学類)

活動内容

「筑波大学を卒業した先輩で世界を変えている人がいます。その方の講演を聞き、僕らも変化して行こう！」というコンセプトで、筑波大学の学生に少しでも刺激を与えられればという思いで企画しています！Facebook や Twitter 等の Web サービスが世界を席巻していますが、それらのサービスを上回る勢いで LINE は成長を遂げました。森川亮さんは、この「LINE」の運営会社 NHN Japan の代表取締役です。また、筑波大学の卒業生でもあります。森川さんは筑波大学を卒業した後に、日本テレビに入社し、様々な新規事業を立ち上げる傍ら、青山学院大学大学院にて MBA を取得。その後に SONY への入社、ハンゲームジャパン株式会社（現 NHNJapan 株式会社）に入社などを経て、現在の NHNJapan の代表取締役社長となりました。このように筑波大学を卒業し、様々な経験をされている先輩のお話を聞いて刺激をもらい、更に自分たちのアイデアを先輩にぶつけて、互いに刺激しようというイベントを作ります。運営は筑波大学内の団体、学生団体 HERCULES が協力しながら行います。

活動計画

- 10月中 広報準備・・・ポスター・ビラ作成、Landing ページ・登録フォーム作成、Facebook イベントページ作成、Twitter アカウント作成・運営
- 11月初旬 ビラの配布等
- 11月中 当日の運営について決定
- 11月22日 講演会当日

活動期間

平成24年10月2日～24年11月22日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：高瀬章充（システム情報工学研究科）、山田桐汰（社会工学類）、河嶋伊都子（生物資源学類）、三浦洋平（情報工学類）
- P：吉武博通（ビジネスサイエンス系）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 10月4日 NHN Japan に於いてコンテンツについて話し合い
- 10月20日 T-ACT へ登録
- 11月初旬 Web ページ開設、ポスター・ビラ作成
- 11月中旬～21日 ポスター貼り付け・ビラ配布
- 11月22日 イベント当日

・目標達成度

80%

根拠：

- ・イベントの集客目標が300人だったことに対して、200人前後の方が参加してくれた
- ・運営に協力してくれているみんなが「やってよかった」「自分の成長につながった」と評価してくれたため
- ・イベントの参加者から「興味深い話を聞くことができた」との感想を多数頂いたため
- ・NHN Japan さんから感謝されたため
- ・得られた成果
- ・「周りの人が評価して後押ししてくれる」という事が楽しいという事に気づけた
- ・運営メンバーと仲良くなれた

今後の課題

- ・周りの人のモチベーションを上げること
- ・周りの人へタスクを振る事が難しかった
- ・自分自身のタスク管理をもう少し考え、計画通りに自分自身及び周りの人のモチベーション維持の仕方は勉強しなければいけないのかもしれない

経験者からのメッセージ

- ・自分のやりたいことは周りの人にどんどん話すこと
- みんな優しいので、自分の活動に対して協力してくれる
- 協力してくれると、とっても嬉しいです。

運営者側から見たパーティシパントの変化

- ・活動を通してより仲良くなった
- ・普段できない体験をすることができ、場数を踏むことができた

● Radio Gymnastics. Let's work out! 「ラジオ体操」(12047P)

T-ACT プランナー 小松原 哲郎 (数理物質系)

活動内容

Try to learn simple Radio Gymnastics.
Let's work out with the 1st and 2nd version of Radio Gymnastics which is very common in Japan.

活動計画

October 2012 Preparation: Buy music; finished
Announcement
Gather people
November 2012 Do gymnastics Period: Evey morning of Mon - Fri Maybe
Place: some certain place: inside University

活動期間

平成24年11月1日～25年2月28日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

○：寺門明紘（物理学類）、大島一軌（数理物質科学研究科）、小林大洋（数理物質科学研究科）、佐藤駿丞（数理物質科学研究科）、桐原崇亘（数理物質科学研究科）、岡田俊祐（数理物質科学研究科）、鈴木裕之（数理物質科学研究科）、藤嶋教彰（システム情報工学研究科）

活動報告

活動成果

・活動内容

10月末 事務うちわわせ、小松原、大島、小林
以下、11月1～30日 合計19回ラジオ体操を実施した。
のべ人数95名

音源のラジカセの電源を切り忘れ、電池を消耗するアクシデントがあったが、新たにスピーカーを購入し、解決した。

・目標達成度

11月に、19回実施でき、目標達成度は90%である。
しかし、期待した留学生の学生参加は1名に留まり、課題である。

・得られた成果

他分野に渡る交流と健康促進。

今後の課題

さらなる、参加者の増加。
特に留学生については、参加を期待したが、実際の参加者は1名に留まり、大きな課題である。

経験者からのメッセージ

オーガナイザーの方に、挨拶など、声かけをお願いしております。
将来、プランナーになる事を期待します。

運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントは、中々増えず、苦慮しております。
一方、パーティシパントから、オーガナイザーになって下さる、積極的な方もいました。

T-ACT に関する感想

先日のフォーラム、欠席して済みませんでした。

WorldFut TSUKUBA Autumn Festival (12049A)

T-ACT プランナー 福井 大智 (生命環境学群生物学類)

活動内容

今年の夏、メンバー数人で支援先であるカンボジアに行ってきました。
そこで現地の子どもたちと触れ合い、また、カンボジアという国に触れ合いたくさんの事を学びました。
そこで得たものを、写真展を通して多くの人々にフィードバックすることで、国際協力に無関心な層が、国際協力について考える「キッカケ」を提供することが目的です。

活動計画

11月初旬～ 3学食堂など数カ所でカンボジアのスタディーツアーで撮影した写真を何点が掲示したいと考えています。

活動期間

平成24年11月1日～24年11月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：植竹 渉 (国際総合学類)
P：大網 一則 (生命環境系)

活動報告

活動成果

・活動内容

12/10～12/21の期間で、3A 一階ラウンジにてカンボジアスタディーツアーで撮影した写真20点を展示。

・目標達成度

人通りの多い場所であり、昼球形などは多くの学生が写真に興味をもって見ていたので、多くの人にカンボジアの現状を知ってもらうことが出来たと感じた。

・得られた成果

学内における団体の認知度の向上、また、カンボジアの現状の認知。

今後の課題

ただ写真を飾るだけでなく、もう一歩踏み込んだ何かが出来ればよかった。
また、T-ACT のシステムを有効活用することが出来なかった。

経験者からのメッセージ

自分のイメージが具現化できるチャンスなので、是非 T-ACT を利用してほしい。

● ARE(先導的研究者体験プログラム)を継続させるための企画(12053A)

T-ACTプランナー 藏満 司夢(生命環境学群生物学類)

活動内容

ARE(先導的研究者体験プログラム)は、文部科学省の理数学生応援プロジェクトに採択されている筑波大学が、理系の学群1~3年生を対象に研究支援等を行っているプログラムである。対象学群の1~3年生は、研究計画書を提出して採択されれば研究予算を貰えるほか、学会参加の経費や書籍の購入等の支援を受けることができる。さらに、ARE専任教員と事務員の方のご指導の下、研究計画書や報告書といった研究活動に付随する書類の指導や研究に関するアドバイスを受けることができる。また指導教官や専任教員のご指導のもと研究ができる上に、年に1、2回行われる研究発表会で、その成果を他の学生や研究者に聞いていただけるため、プレゼンテーション能力の向上にも大きく貢献している。さらに、AREの事務室となっている3B棟2階の研究交流室では学生同士の交流活動が盛んに行われており、貴重な研究交流の場となっている。これらは、将来大学院進学や研究職を志望する学生にとって、早い段階から、研究計画書の提出から研究、発表、報告書の提出までの一連の研究活動を行えるという点で大きなメリットとなっている。このような魅力もあり、プログラムが始まった2009年から今年までに延べ約120名がこのプログラムの下に研究を行ってきた。しかし、文部科学省から降りる予算は今年度で終わることが決定している。来年度以降も同様のプログラムを継続するためには、学内予算で行うことになると思われるが、その可否は不透明な状態である。そこで我々は、ARE(あるいはこれと同様のプログラム)の継続を訴えたいと考えている。希望する継続形態は、研究の予算支援、研究交流室の維持、専任教員と事務員の方をつけていただくことである。メンバーはこれまでにAREに参加した学生、現在参加している学生の他、来年度以降も行われれば参加したいと考えている学生や我々の考えに賛同する学生から募集することを考えている。具体的な活動内容としては、前述のような学生を対象に、ARE存続に関して、実体験に基づくその有効性や、存続を希望するか否かの意見やその理由等に関するアンケートを行い、意見収集を行う。また、これまでのARE認定学生の研究実績や活動実績のリストを作る。これらの情報とともに最終的には要望書という形で学長宛て(仮)に提出することを目標とする。

活動計画

10月末~11月初旬 メンバー集め
11月 アンケートと資料集め
12月中旬 要望書作成、提出

活動期間

平成24年10月1日~24年12月31日

T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 上原拓也(生命環境科学研究科)、伊藤史紘(生命環境科学研究科)
P: 宮村新一(生命環境系)

活動報告

活動成果

・活動内容

12/12/11 ARE認定者および修了生に「ARE存続に関するアンケート」をメールで配布
12/12/17 この日を締切としアンケートを回収
12/12/18-13/1/30 アンケートを基にARE継続を希望する旨の学長宛の要望書を作成
13/1/31 ARE主担当の先生を介して学長代理宛に要望書を提出

・目標達成度

筑波大学特有の研究者育成プログラムであるARE(研究者体験プログラム)について、文部科学省からの助成が終わる来年度以降も大学独自予算で継続してほしいという学生の考えを要望書にまとめ、大学執行部に伝えることができた。従って目標は達成できたといえる。

・得られた成果

ARE存続を希望する旨の学生の意見を、アンケートで得た情報をもとに要望書というかたちまとめ、学長代理に提出することができた。実際にAREを継続してもらえるか否かはまだ決定しておらず(13/2/7時点)今後の大学の決定を待つことになる。

経験者からのメッセージ

思い立ったらまず行動してみるといいと思います。大学に学生の意思を伝える方法として「要望書を出す」という方法を考えるのもよいのでは？

運営者側から見たパーティシパントの変化

協力していただいた。

T-ACTに関する感想

ご助言ありがとうございました。

Message for 生物資源～プレゼン懇親会～ (12057A)

T-ACT プランナー 綾塚 達郎 (生命環境学群生物資源学類)

活動内容

4年生は進路選択の時期であり、それに合わせて生活も変化する。そんな時、多くの人と知り合うことが大きな助けになり、クリエイティビティの刺激となる。しかし、現在の生物資源学類においては、そのための縦横のつながりが不足している。本企画は、生物資源学類全学年を対象とした継続的な繋がり始まりとなる。今回は、その場限りで終わらないような、より深いイメージを持ち帰ることが出来るよう、数名の4年生プレゼンターの発表を軸にした企画とした。プレゼンターと話し合いを重ね、プレゼンテーションの中でも交流が生まれるようなコンテンツを検討していく。

活動計画

※プレゼン懇親会当日の内容※

【日時】

12月7日 18:30～21:00

【場所】

2学エリアの教室（希望条件：机・椅子移動可能、100名程度入室可能）ex:2C101

【当日の詳細内容】

・18:30～18:45

基調講演 講演者：田島篤史先生

・18:50～19:35 19:45～20:30

4年プレゼン（休憩をはさみます）

・20:30～21:00

フリートーク（及び教室原状復帰）

11/5～11/9 運営者の募集、ミーティング

11/12～11/16 プレゼンターについて取材、決定公表

11/19～11/22 プレゼンター取材内容公開

11/26～11/30 予備週

12/3～12/6 予備週

12/7 本番

12/8～12/21 報告書作成・提出

※運営者を募集し、ミーティングを重ねる中で出てくるコンテンツを随時追加していく。

※告知はメールリスト、ホームページ、直接の呼びかけ、ポスター・ピラを使用し随時行う。

活動期間

平成24年11月13日～24年12月21日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：林優樹、佐藤文香、清水愛友実、守容平、古屋萌、澤戸利衣、春日雄樹、新村麻実、森田祐介、多賀瀬那、中山靖子、水落裕樹、奥谷貴大、木村真菜、牧野はるか 以上、全員生物資源学類

P：田島淳史（生命環境系）

活動報告

活動成果

11月初旬 Message for 生物資源～プレゼン懇親会～ 始動

11月中旬 メンバー集め、告知（メールリスト、クラス代表連絡会議でのプレゼン告知）

11月下旬 ポスター、ピラでの告知。動画やプレゼンターのインタビュー記事作成。学生控室への直接告知。

12月初旬 当日準備。当日進行最終確認。プレゼンターとの打ち合わせ。

12月7日 本番

参加者の感想として、「これほどのプレゼンは想像していなかった」や、「自分のやりたいことを見つめなおす機会になった」、「どうすればこのようなプレゼンができるのかしばらく考えていきたい」など、好評をいただいた。この企画を通して何かしらの Message を伝えることができたなら幸いである。この企画を始まりとして、これからも様々な企画を行い、つながりを作っていきたいと考えている。

今後の課題

つながりをテーマにした企画は持続することが大事。今後も様々なアイデアを形にしていきたい。

経験者からのメッセージ

とりあえず、やってみる。自分の中の疑問に耳を澄ませる。

運営者側から見たパーティシパントの変化

何かを伝える、ということはとても難しく緊張するもの。今回の企画を通して、参加してくれた皆が、「伝える」ということを身近に感じてくれたのではないかと思います。

T-ACT に関する感想

企画運営は拠点となる場所や、事務用品が必須になり、そしてそれらこそが足かせになることが多い。そこを援護していただける T-ACT に感謝いたします。T-ACT を利用する学生がさらに増えればいいなと思います。



● 「バレンタイン一揆」上映会×出演者によるトークセッション (12067A)

T-ACT プランナー 桑原 未来 (社会・国際学群国際総合学類)

活動内容

聞いたことあるけどなかなか食べたことはない、そんなフェアトレードチョコを実際に食べてみる。そして、実際にガーナを訪れ、帰国してからアクションを起こした3人の女の子を描いた映画「バレンタイン一揆」の上映会と、映画出演者の2人によるトークセッションに参加してみませんか？このイベントを通じて、普段なかなか知る機会のない児童労働やフェアトレードについて知ってほしい、また自分たちにも何かできるんじゃないかという気づきのきっかけになってほしいと思ってこのイベントを企画しました。そして、イベントに関わった人が参加して良かったと感じることのできるイベントにしたいと思っています。具体的には

- ・児童労働、フェアトレードについての勉強会 [1月中]
 - ・映画「バレンタイン一揆」上映会+出演者2名によるトークセッション
- +イベント当日にフェアトレードチョコ試食会 or 食べくらべ会 [2013年2月9日] を考えています！

活動計画

- 12月25日 ミーティング
- 1月6日 ポスターのデザイン完成
- 1月7日 ミーティング
- 1月10日 広報スタート！ [基本的に授業前宣伝]
- 1月中 運営メンバー限定で試写会
- 1月中に主に運営メンバーや興味のある人対象に児童労働・フェアトレードについての勉強会 [FRATさんと協力]
- 2月4日～8日 上映会当日の全体リハーサルを行う
- 2月9日 イベント本番
- 2月10～13日 反省会

活動期間

平成24年12月10日～25年2月9日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：石黒愛梨沙 (国際総合学類)、石原みほし (国際総合学類)、及川あかね (国際総合学類)、小川結衣 (生物資源学類)、紙谷あかり (国際総合学類)、軽部純玲 (国際総合学類)、川口景 (国際総合学類)、後藤さや (国際総合学類)、小堀詠美 (地球学類)、佐々木めぐみ (生物資源学類)、澤茜 (国際総合学類)、三藤紫乃 (国際総合学類)、篠木菜月 (国際総合学類)、清水結衣 (生物資源学類)、帖佐光江子 (国際総合学類)、中居秀美 (国際総合学類)、橋口菜里 (国際総合学類)、牧野悠 (生物資源学類)

P：首藤もと子 (人文社会系)、田中洋子 (人文社会系)

活動報告

活動成果

- 12月3日 (月)：企画書作る
- 12月5日 (水)：T-ACTに相談
- 12月10日 (月)：第1回メンバー募集説明会
- 12月13日 (水)：第2回メンバー募集説明会
- 12月17日 (月) お昼休み：メンバーミーティング (報告・企画の対象者について・映画上映会を行う時間帯について)
- 12月18日 (火) お昼休み：メンバーミーティング (報告・企画の対象者について・映画上映会を行う時間帯について)
- 12月19日 (水) お昼休み：メンバーミーティング・facebookメンバーページ作成
- 12月25日 (火) 5限：メンバーミーティング (情報共有・企画内容について確定・勉強会、試写会の日時、担当者決定・1月にやることの確認)
- 12月31日 (月)：プログラム案共有
- 1月10日 (火) 2限：広報担当とミーティング
- 昼休み：メンバーミーティング
- 1月14日 (月)：イベント統括チームとミーティング・当日の流れ共有
- 1月15日 (火) 1・4限：広報担当とミーティング
- 1月16日 (水) お昼休み：メンバーミーティング (情報共有・広報担当について)
- 1月17日 (木) 2限：トークセッションチームとミーティング

- 1月18日(金): ビラ裏面デザイン完成
 1月22日(火) 2限: 「教育心理学」授業前宣伝
 1月23日(水) お昼休み・4限: メンバーミーティング(各チームから情報共有)
 Facebook イベントページ公開
 1月24日(木) 5、6限: 「世界経済史入門」授業前宣伝
 1月25日(金) 昼休み: メンバーミーティング
 4限: イベント統括チームとミーティング
 18:30~: メンバー対象映画試写版上映会
 1月26日(土): メンバー対象映画試写版上映会
 この2回のメンバーを対象にした映画試写版上映会では、観た後に感想をシェアし、これからのイベントにどう活かしていきたいかを話し合いました。
 1月28日(月) 1限: 「国際社会の持続可能な発展」授業前宣伝
 お昼休み: メンバーミーティング(各チームから情報共有)
 1月29日(火) 4限: 「国際関係史序説」授業前宣伝
 2月1日(金): メンバー対象にフェアトレード勉強会(FRATさんと協力)
 この勉強会は、まずメンバー自身がフェアトレードについて知ろう!という目的で、フェアトレードに関わるFRATさんに協力していただき、メンバー対象に行いました。
 「大企業/小規模団体(NPO、学生団体 etc.)それぞれが行うフェアトレードの取り組みの有効性および問題点」
 30分ほどプレゼンを聞いた後に質疑応答、休憩を挟んでディスカッションをしました。
 2月4日(月) お昼休み: メンバーミーティング(情報共有・まだ未決定のもの話し合い)
 18:30~: リハーサルで流れの確認・改善点洗い出し
 2月8日(金) お昼休み: ミーティング(前日・当日の流れ確認)
 2月9日(土): イベント当日!

【プログラム詳細】

- 13:30~14:00 開場+受付
 14:00~14:10 オープニング
 14:10~15:20 映画「バレンタイン一揆」上映
 15:20~15:35 休憩
 15:35~15:40 フェアトレードチョコ試食
 15:40~16:45 映画出演者によるパネルディスカッション・
 開場全体でのワークショップ
 16:45~16:50 エンディング
 16:50~16:55 写真撮影
 17:00 イベント終了

イベント当日は、まず映画「バレンタイン一揆」を観て、その後映画出演者である梅田麻穂さん、志賀アリカさんの話を実際に聞いて、様々な想いを感じたり刺激を受けたりすることができました。フェアトレードチョコを食べる時間では、実際にフェアトレードチョコとその説明を書いたメンバー手作りのカカオのしおりを配り、説明をしました。会場全体のワークショップでは、映画やトークセッションを通して自分の夢やそのためにやろうと思うことをカードに書いてもらいました。全体シェアの時間では、来場者・運営メンバーの夢や想いを共有できて、とても素敵な時間になりました。2月14日には、ワークショップで参加者それぞれが書いたカードを他の参加者とシェアできるようにという想いから、了解を得た方のカードを撮影し、その写真を掲載したfacebookのアルバムをつくりました。アルバムは下記のURLからご覧いただけます。

<http://www.facebook.com/media/set/?set=a.216140698529302.66859.100004001214267&type=1>

このURLとお礼の言葉を書いたメールをアンケートにアドレスを書いてくださった方と、facebookのイベントページに載せました。どのカードにも素敵な言葉、夢、想いが込められていて、写真を一枚一枚撮りながらとても幸せな気持ちになりました。

2月15日(金): 振り返りの会…イベントの振り返りを行いました。

2月18日(月): 振り返りの会…15日に出た意見を踏まえて、
 ・このイベントを通じて自分が何を得られたのか、何を感じたか
 ・今後どのように活かしていきたいか
 をメンバーミーティングでシェアしました。

今後の課題

●広報について

- ・ポスター、ビラが出来上がるまで待ってしまっていた。
- 広報のタイムラインを早めに進めておくべき。1か月前から地道に広報すべきだった。幅広く広報すべきだった。
- ・直接の宣伝、口コミがなかなかできなかった。
- 運営メンバーに国際生が多かった割には、来場者に国際生がいなかった。
- ・イベントの魅力を上手に伝えられなかった。
- 簡単な言葉で説明できるようにしておくべきだった。
- ・自分たちがもっと積極的に広報すべきだった（もっと友達に話すべきだった）。
- ・Facebook だけだとなかなか魅力を伝えられない。
- ・大きい看板を出しておくべきだった。

●運営について

- ・メーリスに運営メンバー全員が入っていなかった。
- ・情報の共有不足。
- ・運営メンバーの人数がいたのにうまく回せなかった。
- ・もう少し仕事を上手に割り振ればよかった、分業すればよかった。
- 分業をきちんと考えておけばよかった。
- ・ポスターを頼むときに、きちんと内容を詰めてから依頼をするべきだった。
- ・何を優先して行うべきかを考えておくべきだった。
- ・運営メンバーと、当日のスタッフの募集をしっかりと分けておくべきだった。
- ・未計画のまま企画がすすんでしまった。
- 役割分担を考えておくべきだった、責任者に任せればよかった。もっと個人個人で動いていくべきだった。
- ・初めの方は Facebook メンバーページに投稿するのがプランナーだけだった。
- あるメンバーの投稿からいろんな人が投稿するようになり、メンバーみんなでやっているという意識が出てきて嬉しかった！
- ・予算をしっかりと立てるべきだった。
- ・契約書の内容をきちんと確認する。
- ・カカオのしおりなど、アイデアが最後に出てきた。イベントの内容が詰まっていくにつれて、いいアイデアがでてきた。

→実際に上映する映画を見たことが大きかったのでは？

- ・前日の準備不足（一部の人がほぼ徹夜で準備を行った）。
- ・ワークショップの内容もう少し早めに詰めておくべきだった。
- ・「なったらいいよねえ」というだけで実際行動しなかった。

→やるかやらないかはっきり決めるべきだった。

●ミーティングについて

- ・運営メンバーと当日スタッフを募集の段階で分けるべきだった。
- ・必ず出てほしい日のミーティングを決めるべきだった（ミーティングに全員必要だったかどうかわからない）。
- ・プランナーに負担が集中していた。

→リーダーズミーティングを別で行えばよかったのでは？

●イベント当日について

- ・受付のシュミレーションをしておくべきだった。もう少し手際よくやれるように、受付が詰まってしまったところもあるので…

→配布物をセットにしておけばよかったのかも。

- ・ゲストのバス代を誰が払うかを決めておくべきだった。
- ・オープニング、映画の時間が予定より短かった。

→事前に時間を測っておくべきだった。

- ・チョコの試食の時間が微妙な雰囲気…無言の沈黙だった。

→音楽を流す、解説をずっとしておくなどをしたらよかったのでは。

ただ、人が話している時に食べるのはしゃべりにくい。司会として前から見ていた時、チョコの説明をしている時には食べるに良かったから。

- ・書いている時間に音楽が欲しかった。

→いつでもかけられる音楽を決めておくべきだった。

- ・夢の発表の時に、意見・考えがまとまっていない人への対応を考えるべきだった。
- ・カードの発表の時に後半に少しぐだった。

→運営メンバーが発言したことで少し回復した。

- もう少しパターンを考えておくべきだった（シェアの時間に発言者がいない前提で話し合っていたから…）。
- シェアの時間を予定より長くとったからぐだってしまったのでは？
- イベント後の対応について
 - ・イベント後の流れ（片づけも含む）もきちんとしておくべきだった。
 - 参加者がなかなか帰らなかったから片付けができなかった。
- でも質問をしても OK って言ってたから…
- エリアを決めておいて、片づけを同時並行できるようにすべきだった。
- 装飾を最小限にしてあったから、時間がそこまでかからなかった。
- その場にいたい！っていう想いでその場にいて話しているわけだから、無理やり追い出す必要はない。
- ・備品の片づけ、ボールペンなくなっちゃった…
- 備品をリスト化すべきだった。
- ・事前にイベント後の流れを共有しておくべきでした。
- ・当日の前後プランナーがあいさつしているから、その時の対応を考えるべきだった。
- ・お客さんからの苦情はなかった！
- 日時について（2月9日（土）14時開始）
 - ・土曜日の午後にするべきではなかった（集中講義などで参加したくてもできない人がいた）。
- 集中講義の把握をするべき。
- 金額設定について
 - ・500円は妥当な金額
 - ・金額の説明責任はよかったと思う。（500円の内訳が映画代+フェアトレードチョコ代）
 - ・70人くれば赤字にはならなかった。
 - ・お金を事前徴収する（チケット販売的な）制度にすべきだった。そしたら当日やっぱりキャンセルということにはなりにくいのでは。
 - YEH では、チケットを事前に配っておく。ただし、管理が大変。ノルマがある。だけど、お金がかかっている。
 - 行かないのはもったいない！チケットによって、わくわく感がうまれる。
- 参加者について
 - ・スタッフよりも来客のほうが多かったから、成功では？
 - ・サークルにアプローチしたけど、来なかった。ほかの人にも用事があった。
 - 国際生だからこういうイベントすると思われる。国際系=敷居が高いというイメージがどうしてもある。
 - “行動することは特別じゃない”を押しよくすることができなかった。
 - ターゲットをしぼればよかったのでは？
 - ・興味のない人をどう引き込むか。
 - ・やっぱり興味のない人にはあまり来てもらえなかった気がする。
 - ・人数をとるか、目的であるいろんな人に知ってもらうをとるか、難しい…
 - ・最初で37人くらいはすごい→一回目では上出来？
 - 小人数だったからあのアットホームな雰囲気が出たのかも。
 - ・学内だけで50人を集めるのは厳しい。
 - ・お菓子作り教室をしたらよかったんじゃない？
 - （ヘンゼルとグレーテルとコラボしてなど）
 - 一つの案として出ていたけど、結局目的とずれているということでのしなくなった。
 - ・もっといろんな人を巻き込めたよね？（地域の人など）
- まとめ
 - ・赤字だったけど、初めてにしては内容的には良かった。
 - ・1年生も多い中、頑張ったと思う！
 - ・1回のだけだと厳しいから、何回か事前にイベントも組むべきだったかも。
 - ・定期的など、印象に残るようにしないとなかなか厳しい。
 - ・何かしら継続していけば、今回の反省も生かせると思う。

経験者からのメッセージ

私は今までこういったイベントの企画・運営をしたことはなく、自分が大学に入ってから「こういう国際協力とか、イベントとかできるのって、なんか自分と違う世界の人の」と思っていました。そこから大学に入ってから10か月、いろんな人会って、話して、実際にこのイベントを創りながら、私の中で大きく考えが変わりました。ほんの小さなきっかけと勇気と支えてくれる仲間がいれば、きつとなんだってできる。私は人と人とのつながりの大切さを、このイベントをつくっていく中で改めて感じました。ぜひ、勇気をもって、今しかできないやりたいことにチャレンジしてみてください（*^^*）自分のやりたいことを、まずは周りの人に伝えてみてください。きつと応援してくれる人がいます！このイベントの運営には、主にメンバー限定の facebook ページを

使いました。私自身、先輩や実際に企画をやったことのあるメンバーなど、多くの人の支えがあったからこそ、このイベントはできたと思っています。そのため、どうやってイベントしたらいいかわからない！という人に、少しでも力になればと思っています。もしどんな風にイベントの運営を行ったのか気になる方がいらっしゃいましたら、お気軽にT-ACTサポーターとして登録していますので、連絡をください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

映画「バレンタイン一揆」を通じて児童労働やフェアトレードについても知るきっかけになったと思います。来場者アンケートでも「自分の夢について改めて考えるきっかけになった」「素敵な企画でした」と充実した時間になったようです。また、運営メンバー自身からも参加してよかった、改めて自分のやりたいことについて考えられた、自分がこれからイベントを企画・運営するときに活かしたい、という声が聴けて、とても嬉しかったです。

T-ACT に関する感想

相談にのっていただいたり、毎日のようにコピーをしにいたり、本当にお世話になりました。T-ACTを通じて知り合った方もたくさんいたので、人と人をつないでくれる場としてとても素敵だと思います。本当にありがとうございました！



Message form Astronaut ～星出宇宙飛行士をつくばへ～ (12068A)

T-ACT プランナー 鈴木 裕行 (数理工学系) (数理工学系)

活動内容

去る2012年11月19日に宇宙飛行士である星出彰彦氏が国際宇宙ステーション (ISS) での約4ヶ月に渡るミッションを終え無事に地球へ帰還した。星出宇宙飛行士はミッション中、3回の船外活動(国際宇宙ステーションの外、つまり宇宙に出るの仕事)を含む様々なミッションを行ったが、その星出宇宙飛行士のミッションの報告会をJAXAが募集している。我々が住む研究学園都市であるつくば市はまさに宇宙の街であり、星出宇宙飛行士のミッション報告会を開催するにとっても適していると思う。星出宇宙飛行士をつくば市、又は筑波大学に呼び交流をすることにより、宇宙に感心のある人々にはさらにその面白さを深めてもらい、あまり宇宙に興味のなかった人には宇宙が好きになってもらえるようになってもらいたい。そのようなイベントを開催するために企画を考え、JAXAが12月18日に発表した「星出宇宙飛行士ミッション報告会開催地募集 (http://iss.jaxa.jp/iss/jaxa_exp/hoshide/news/boshu/ho_kaisaichi_boshu.pdf)」に応募し、JAXAに企画が通る事を目指す。企画が通ったら2月中旬のイベント開催まで準備をし、実際に宇宙飛行士とのコラボイベントを開催する。

活動計画

～1月15日 企画立案。JAXAに選ばれるような企画を練る。また開催地の選定、共催団体との打ち合わせ等を行う。基本的に企画の計画はこの日までに全て決める。

企画をするに当たって星出宇宙飛行士に関する勉強を運営メンバーで行う。

1月21日 JAXAに企画が通り次第、準備、広報開始。

2月中旬～末 イベント本番

※ JAXAに企画が通らなかった場合、この企画は即終了する予定。

活動期間

平成24年12月26日～25年6月24日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 桐原崇巨 (数理工学系)、保科さや香 (物理学類)、平野勝大 (物理学類)

P: 川勝望 (数理工学系)、廣田春夫 (学生部学生生活課)

活動報告

活動成果

2012年12月26日～2013年1月15日

星出宇宙飛行士ミッション報告会のプランを立て、企画書の作成。

広報計画や準備計画をたてる。

MT 歴

12月26日、1月13日。その他はメールでやりとりをしながらミーティングを行った。また、今回は筑波大学やつくば市との共催の形で行う予定だったので、学生生活課の方やつくば市の科学技術振興科の職員の方とのミーティングも行った。

1月21日に企画の審査が行われ、残念ながら企画は通らなかった。

これに懲りず、また色々な企画にチャレンジしていきたい。

今後の課題

今後も宇宙飛行士を筑波大学へ招待することに関して挑戦していこうかと思っている。これからもT-ACTや筑波大学、つくば市と最大限協力しながら宇宙の普及に努めていこうと思う。

経験者からのメッセージ

前回のアクションは大成功し、賞までもらったが、今回は失敗でした。しかし案外失敗したことから学ぶことは多く、今回の試みはとてもしっかりもなったし、いろいろなつながりを得ることができた。なのでなんであれ積極的に動き、たくさんの人に相談をしてみるといいと思います。ひとりで考え過ぎないことが大事です。

T-ACT に関する感想

充分対応してくださったので感謝しかありません。ありがとうございました。

編集後記

T-ACT が始動してから今年度で 5 年目。学生支援 GP から筑波大学の人間力育成事業となり、専任コンサルタント（教員）は変わり、事務補佐員も変わった 1 年目でした。学生の活動を支える側の T-ACT の体制に変化があり、支えるはずの専任コンサルタントに戸惑うことが多い一方で、多くの学生たちが、これまで以上に多様な活動を創出していきました。その活動を側で見て感じていたことの一つに、「これまで T-ACT やそれ以外の活動で成長してきたんだろな」というものがありました。また、「初めて T-ACT の活動に参加しようと勇気をふりしぼって来たんだな」「新しく、あるいは今度は自らが企画を立案することを決めたいけれど、どうしたらいいかわからないんだな」というものが、活動を進めていく中で、活動を動かす力を、学生自身の内側にも、学生の周りにつながりとしても得ていく変化を感じました。さらに、これまで T-ACT と関わってきた学生、教職員、組織が、「それ T-ACT でやってみるといいんじゃない？」「T-ACT っていうのがあるんだよ」と紹介してくれたり、OB・OG もまた T-ACT や学生に対するサポートをしてくれたり地域・社会とのパイプとなってくれたりと、築かれてきた心強いつながりを感じています。

今後、T-ACT ボランティアとしての支援も進んでいくことで、学生の地域・社会の中で活動する機会がさらに増えればと思っています。新たな可能性を生みだしていく学生にこそ、筑波大学と地域・社会との間に、より生きたあたたかいつながりを培う可能性を感じてしまうからです。

より多くの学生が、自分たちの「やってみたい！」からスタートし、幅広く、そして多様な切り口から活動を展開させることを、心強いつながりでのお力を借りながら、これからも支えていきたいと考えています。そしてそこから、T-ACT の枠におさまらない活動にまで発展していくことも楽しみにしたいと思います。

T-ACT 専任教員

大久保智紗

今年度より、T-ACT の事務補佐員を担当することになりました。昨今、今どきの若者は・・・とか、ゆとり世代だから・・・などという言葉を目にするのもしばしばですが、T-ACT で学生たちを見ると、若いってやっぱりエネルギッシュ！筑波大生ってすごい！そんな風に思うことの方が圧倒的に多くて、企画を通して成長する大学生の可能性って本当にすばらしい！と感じました。そんな企画の数々を取めたこの活動報告書が、手にした人に何かの気付きを与えられる、そんな一冊になったらいいなと思います。

T-ACT 事務補佐員

古谷亜津子

つくばアクションプロジェクト活動報告書

平成 25 年 3 月発行

筑波大学 T-ACT フォーラム
〒305-8577 つくば市天王台 1-1-1
TEL 029 (853) 2222



TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

T-ACT

つくばアクションプロジェクト

2013 APRIL